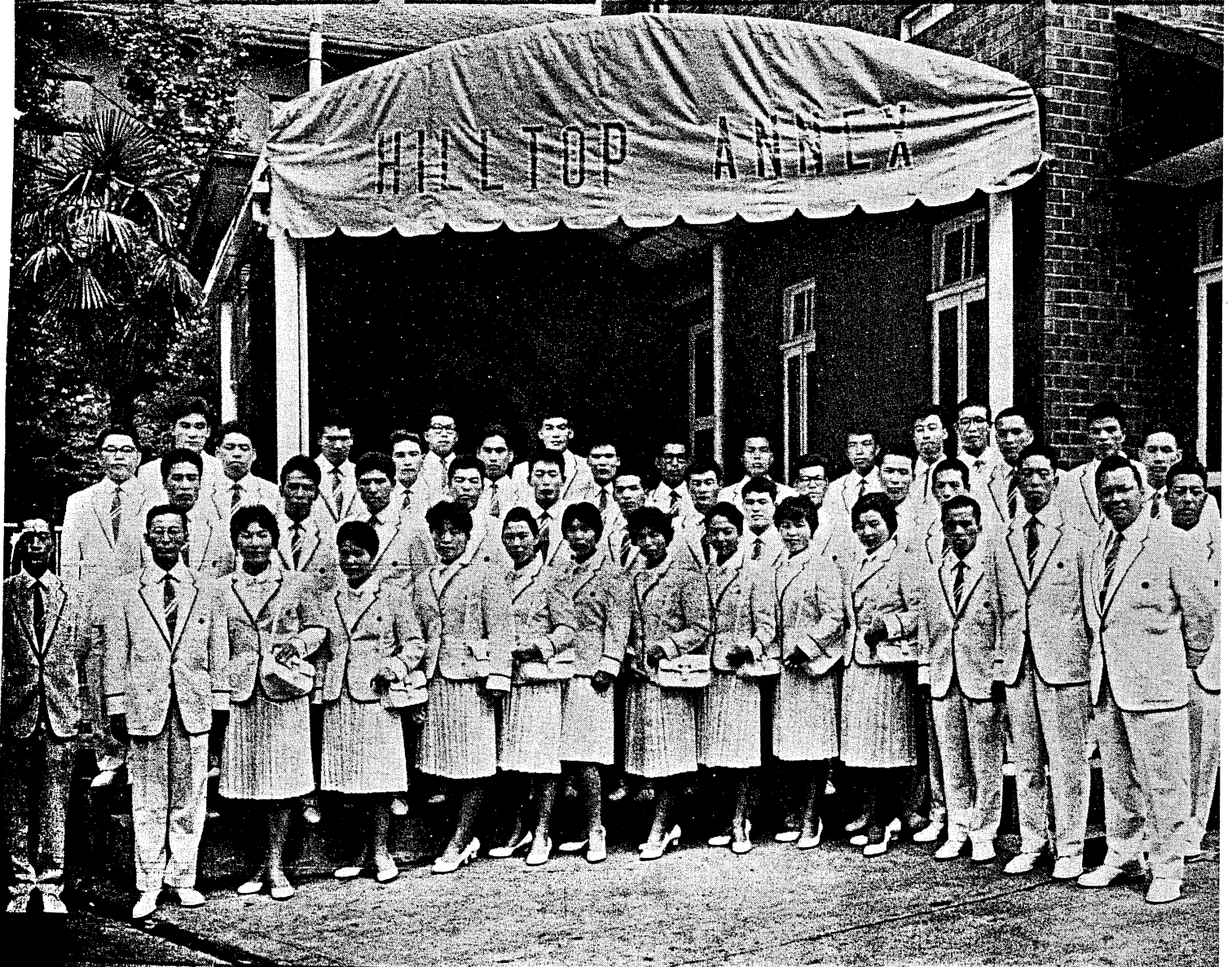
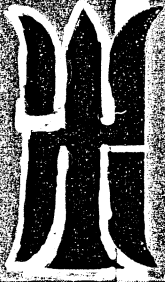


日本水泳連盟
機関誌

水泳

第 1 3 4 号
昭和 35 年 8 月



No. 134 "SUIEI" Aug. 1960

NIPPON SUIEI RENMEI

(Amateur Swimming Federation of Japan)

目

次

ローマ・オリンピック大会派遣選手団日程及びプログラム予定	(2)
ローマ・オリンピック大会水泳代表団の紹介	(3)
全日本兼ローマ・オリンピック最終予選会をみて	木村象雷 (11)
日本代表水球チームを送る	名取正也 (13)
飛込競技オリンピック最終予選会をみて	生江哲太郎 (15)
ローマ・オリンピック大会飛込最終強化合宿を終えて	柴原恒雄 (17)
最終強化合宿を終えローマ大会を目前にして	鷺田武 (18)
日本選手権兼ローマ・オリンピック大会最終予選会及び強化合宿練習風景	(19)
日本選手権兼ローマ・オリンピック大会最終予選会記録	(27)
三大学対抗水上戦をみて	胡麻鶴寿 (34)
第5回日大・中大対抗戦をみて	大場浩一 (36)
第32回早慶対抗水上競技大会記録	(37)
第25回日・立・明三大学対抗水上競技大会記録	(37)
第5回日大・中大対抗	〃 (38)
早大対全九州対抗	〃 (39)
第12回日大対全九州対抗	〃 (40)
中央大学・法政大学合同記録会	(41)
ポルトガルの水泳事情	横地林太郎 (42)
日本史上競泳女子 50 傑 (6)	島田桃一郎 (45)
海外ニュース	坂本宗隆 (48)
連盟日誌	(54)

表紙写真はローマ・オリンピック水泳選手団全員

ローマ・オリンピック大会派遣選手団日程

8月12日	東京羽田発 SAS, チャーター機2便	9月9日	ベルグラード着	} 招待親善競技会
		17日	ベルグラード発	
13日	ローマ着	17日	ブタペスト着	} 招待親善競技会
24日	ローマにおいて大会前日迄練習	19日	ブタペスト発	
25日	} オリンピック大会 水泳(別項参照)	19日	ローマ着	
9月3日			20日	ローマ発
9日	ローマ発	22日	東京着	

ローマ・オリンピック水泳プログラム予定

第 1 日 (現地時間)		夜 8:30	女女高飛優勝式, 男100m背予, 女100mバタ決, 男200m平決
8/25 (木)	夜 8:30 水泳		
第 2 日		第 6 日	
8/26 (金)	朝 8:30 男100m自予, 女200m平予	8/31 (木)	朝 8:30 男100m背準, 男高飛予
	後 3:00 女100m自予, 女飛板予		夜 8:30 男200mバタ予, 女400m自予, 男400m自決, 男100m背決
	夜 8:30 男100m自準, 女200m平準, 男200m平予	第 7 日	
第 3 日		9/1 (木)	朝 8:00 男高飛準, 女100m背予
8/27 (土)	朝 9:45 男飛板予		夜 8:30 男400mメドレー決, 女100m背準, 女400m自決, 男800mリレー決
	後 3:00 男400mメドレー予, 女飛板決, 男飛板準	第 8 日	
	夜 8:30 女板優勝式, 女100m自準	9/2 (金)	朝 8:30 女400mリレー予, 男1500m自予, 男高飛決
	男100m自決, 女200m平決		夜 8:30 男200mバタ決, 女400mメドレー決, 男1500m予
第 4 日		第 9 日	
8/29 (月)	朝 8:30 女高飛予	9/3 (土)	朝 水球
	後 3:00 女100mバタ予, 男飛板決		夜 8:30 女100m背決, 男1500m自決, 女400mリレー決
	夜 8:30 男飛板優勝式, 男200m平準, 女100m自決, 男800mリレー予	備考	現地時間 朝 8:30 日本時間 夕 4:00
第 5 日			後 3:00 " 夜 11:00
8/30 (火)	朝 ナン		夜 8:30 " 翌朝 4:30
	後 8:30 女高飛決, 女400mメドレー予, 男400m自予		

ローマ・オリンピック水泳代表団の紹介

役員

監督

小出 靖彦

三重 48才
東大
水連専務理事
安田火災海上保険KK勤務

競泳コーチ

太田 光雄

静岡 38才
立教大
水連競泳委員長
勝村建設KK勤務
メルボルン・オリンピック
コーチ, 第3回アジア大会
コーチ, 第5回日米対抗監督

競泳コーチ

赤樫 卓爾

兵庫 33才
慶大
水連学生会名誉主事
住友ベイクライトKK勤務
第3回アジア大会コーチ

飛込コーチ

柴原 恒雄

石川 43才
日大
水連飛込委員長
横浜ゴム製造KK勤務
ベルリン・オリンピック第5
位, ヘルシンキ・オリンピッ
クコーチ, 第3回アジア大会
第5回日米対抗コーチ

水球コーチ

鷗田 武

東京 35才
日大
水連水球委員長
鷗田工業KK役員
メルボルン・オリンピック視
察員, 国際学生スポーツ大会
監督, 第3回アジア大会水球
コーチ

マネジャー

志村 文一郎

東京 32才
東商大
水連常務理事
電気化学工業KK勤務
第5回日米対抗マネジャー

競技役員 (競泳)

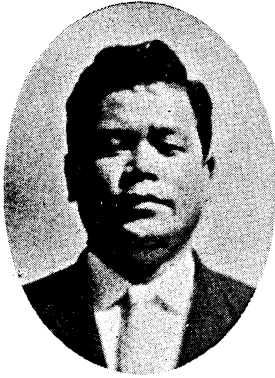
樋口 一成

東京 55才
慈恵医大, ベルリン大, 慈恵
医大学長
水連会長

競技役員 (競泳)

北村 久寿雄

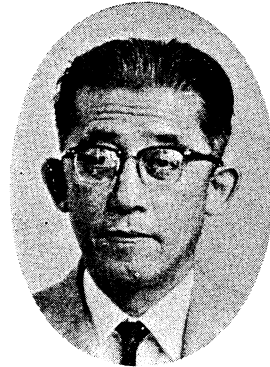
高知 42才
東大
水連常務理事
国際機関代表部 (在ジュネー
ブ)
ロスアンゼルス・オリンピッ
ク1500米優勝, 第3回アジア
大会監督



競技役員 (飛込)

小柳 富男

大阪 44才
早大
水連理事
近畿産業
ベルリン・オリンピック出場
メルボルン・オリンピックコ
ーチ



FINA 役員

安部 輝太郎

神奈川 53才
東商大
水連名誉主事, FINA副会
長
バブコック日立KK役員



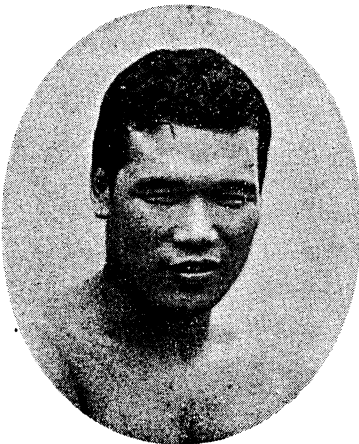
FINA 役員

清川 正二

愛知 47才
東商大
FINA競泳委員会名誉主事
兼松KK勤務(ロンドン駐在)
ロスアンゼルス・オリンピッ
ク100米背泳優勝

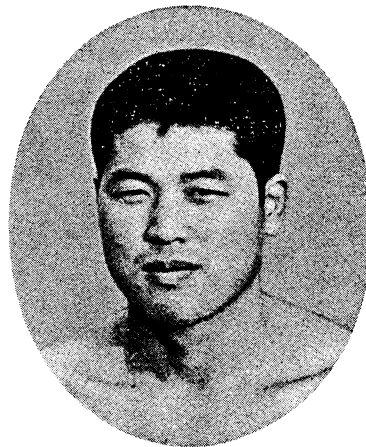
男子競泳

① 生年月日 ② 年令 ③ 身長 ④ 体重 ⑤ 出身県 ⑥ 所属 ⑦ 出身校 ⑧ 最高記録 ⑨ 最終予選会



山中 毅

① 昭和14年1月18日
② 21
③ 171.0
④ 73.0
⑤ 石川
⑥ 早大教4
⑦ 輪島
⑧ 200自 2:01.5
400自 4:16.6
1500自 17:34.6
⑨ 200自 4:20.8
1500自 17:25.0



石原 勝記

① 昭和13年2月2日
② 22
③ 166.4
④ 66.0
⑤ 熊本
⑥ 日大経4
⑦ 鹿本
⑧ 100自 57.0
200自 2:08.1
⑨ 100自 56.7
200自 2:07.4



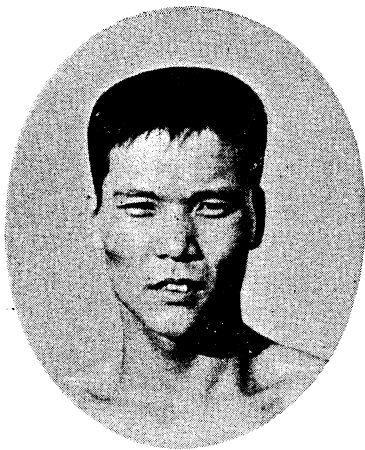
清水 啓吾

① 昭和14年7月2日
② 21
③ 171.0
④ 58.0
⑤ 長崎
⑥ 慶大法2
⑦ 長崎東
⑧ 100自 58.1
200自 2:09.1
⑨ 100自 57.0
200自 2:08.7



福井 誠

① 昭和15年2月28日
② 20
③ 169.4
④ 70.0
⑤ 島根
⑥ 八幡製鉄
⑦ 浜田
⑧ 200自 2:04.9
400自 4:27.9
⑨ 200自 2:04.1
400自 4:25.7



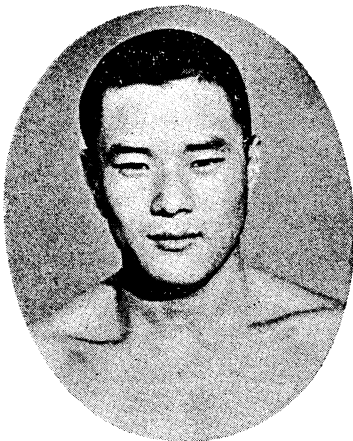
中 坊 昌 美

- ① 昭和16年5月11日
- ② 19
- ③ 171.0
- ④ 67.0
- ⑤ 和歌山
- ⑥ BS タイヤ
- ⑦ 伊都
- ⑧ 400自 4:38.7
1500自 19:01.6
- ⑨ 400自 4:36.4
1500自 18:17.0



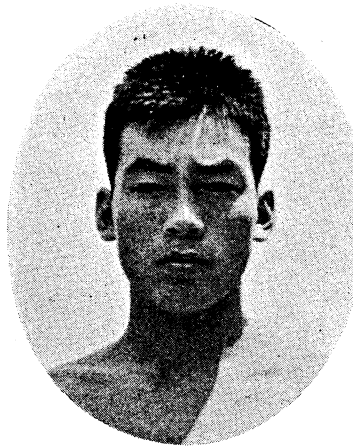
藤 本 達 夫

- ① 昭和15年3月29日
- ② 20
- ③ 176.2
- ④ 61.5
- ⑤ 兵庫
- ⑥ 中大 経3
- ⑦ 姫路工大附
- ⑧ 200自 2:04.9
400自 4:28.4
- ⑨ 200自 2:04.1
400自 4:26.5



石 井 宏

- ① 昭和14年9月21日
- ② 20
- ③ 167.0
- ④ 59.0
- ⑤ 東京
- ⑥ 日大 経3
- ⑦ 日大豊山
- ⑧ 200自 2:07.0
400自 4:33.1
1500自 18:21.5
- ⑨ 200自 2:08.5



大 崎 剛 彦

- ① 昭和14年2月27日
- ② 21
- ③ 176.4
- ④ 67.0
- ⑤ 石川
- ⑥ 早大 商3
- ⑦ 金沢泉丘
- ⑧ 100平 1:14.4
200平 2:41.5
- ⑨ 100平 1:13.3
200平 2:36.9



主 将
増 田 勲

- ① 昭和12年10月25日
- ② 22
- ③ 170.0
- ④ 67.5
- ⑤ 東京
- ⑥ 日本通運
- ⑦ 日大経
- ⑧ 100平 1:12.6
200平 2:39.3
- ⑨ 100平 1:13.2
200平 2:39.5



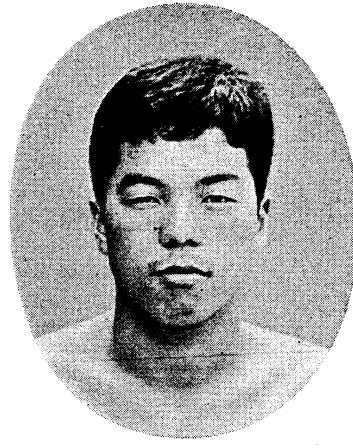
吉無田 春 男

- ① 昭和14年11月5日
- ② 20
- ③ 174.7
- ④ 70.5
- ⑤ 熊本
- ⑥ 早大 教3
- ⑦ 九州学院
- ⑧ 100バタ 1:02.4
200バタ 2:19.1
- ⑨ 100バタ 1:03.3
200バタ 2:17.8



井筒賢造

- ① 昭和16年3月8日
- ② 19
- ③ 166.0
- ④ 62.0
- ⑤ 石川
- ⑥ 早大1
- ⑦ 輪島
- ⑧ 100バタ 1:03.9
200バタ 2:21.0
- ⑨ 200バタ 2:18.9



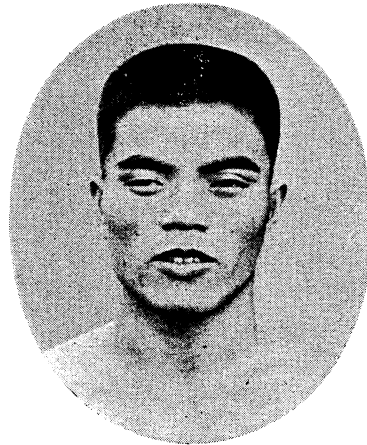
開田幸一

- ① 昭和13年5月7日
- ② 22
- ③ 171.3
- ④ 67.5
- ⑤ 福岡
- ⑥ 中大法4
- ⑦ 伝習館
- ⑧ 100バタ 1:01.4
200バタ 2:20.2
- ⑨ 100バタ 1:01.5
200バタ 2:20.6



渡辺和夫

- ① 昭和12年2月20日
- ② 23
- ③ 169.0
- ④ 67.0
- ⑤ 東京
- ⑥ 日大
- ⑦ 日大一高
- ⑧ 100背 1:06.5
200背 2:26.6
- ⑨ 100背 1:04.4
200背 2:24.9



富田一雄

- ① 昭和14年1月1日
- ② 21
- ③ 166.8
- ④ 61.0
- ⑤ 福岡
- ⑥ 日大経4
- ⑦ 三潯
- ⑧ 100背 1:05.0
200背 2:22.3
- ⑨ 100背 1:05.0

女子競泳



佐藤喜子

- ① 昭和13年1月3日
- ② 22
- ③ 158.0
- ④ 56.0
- ⑤ 奈良
- ⑥ 天理大
- ⑦ 五条
- ⑧ 100自 1:04.7
200自 2:23.4
- ⑨ 100自 1:05.1
200自 2:24.7



和田映子

- ① 昭和14年4月25日
- ② 21
- ③ 166.0
- ④ 62.0
- ⑤ 愛媛
- ⑥ 天理大
- ⑦ 五条
- ⑧ 100自 1:07.0
400自 5:23.8
- ⑨ 100自 1:07.9



主 将
神 野 眸
 ① 昭和12年3月8日
 ② 23
 ③ 161.0
 ④ 55.0
 ⑤ 愛知
 ⑥ 淑徳教
 ⑦ 天理大
 ⑧ 100自 1:06.7
 ⑨ 100自 1:08.0



江 坂 君 子
 ① 昭和18年11月6日
 ② 16
 ③ 163.0
 ④ 63.0
 ⑤ 愛知
 ⑥ 梶山高
 ⑦
 ⑧ 100自 1:07.6
 400自 5:19.6
 ⑨ 100自 1:08.3



高 松 好 子
 ① 昭和13年4月16日
 ② 22
 ③ 165.0
 ④ 64.0
 ⑤ 和歌山
 ⑥ 天理大
 ⑦ 伊都
 ⑧ 100平 1:22.2
 200平 2:53.8
 ⑨ 100平 1:22.4
 200平 2:53.6

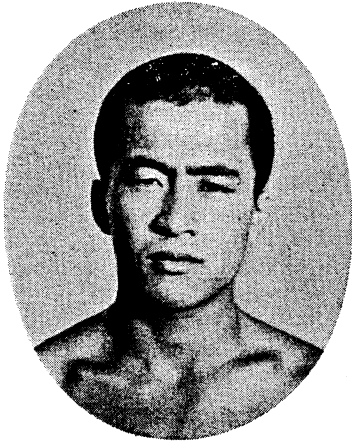


宮 部 シズエ
 ⑦ 昭和12年8月3日
 ② 22
 ③ 158.0
 ④ 58.4
 ⑤ 奈良
 ⑥ 天理大
 ⑦ 五条
 ⑧ 100バタ 1:13.0
 200バタ 2:46.3
 ⑨ 100バタ 1:13.4
 200バタ 3:18.8



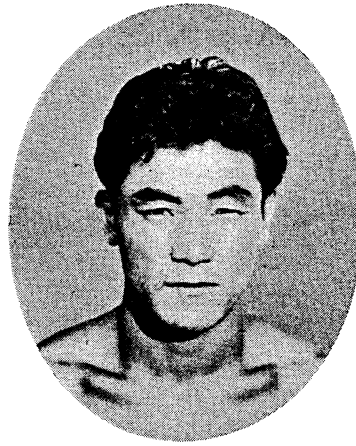
田 中 聡 子
 ① 昭和17年2月3日
 ② 18
 ③ 158.4
 ④ 59.7
 ⑤ 熊本
 ⑥ 筑紫女高
 ⑦
 ⑧ 100背 1:13.2
 200背 2:34.6
 ⑨ 100背 1:12.6
 200背 2:33.3

男子飛込



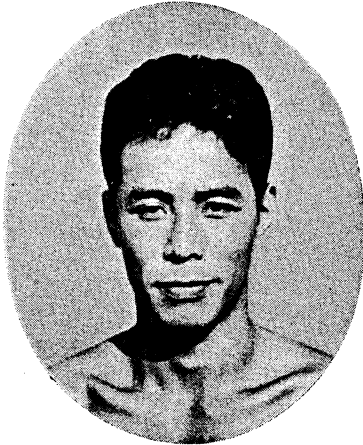
金戸俊介

- ① 昭和15年1月5日
- ② 20
- ③ 154.5
- ④ 51.0
- ⑤ 石川
- ⑥ 日大 商3
- ⑦ 金沢桜丘
- ⑧
- ⑨ 飛板 ②
高飛 ①



山野外嗣夫

- ① 昭和12年7月15日
- ② 23
- ③ 174.0
- ④ 70.0
- ⑤ 石川
- ⑥ 北陸軽金
- ⑦ 日大経 金沢桜丘
- ⑧
- ⑨ 飛板 ①
高飛 ②



馬淵良

- ① 昭和8年3月12日
- ② 27
- ③ 167.0
- ④ 59.5
- ⑤ 石川
- ⑥ 長崎電鉄
- ⑦ 日大経 金沢工
- ⑧
- ⑨ 飛板 ③
高飛 ③

女子飛込



渡辺久美子

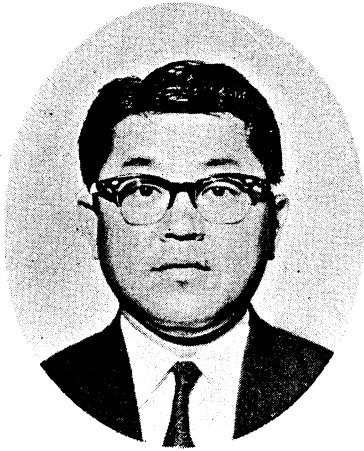
- ① 昭和11年5月10日
- ② 24
- ③ 158.5
- ④ 67.0
- ⑤ 東京
- ⑥ リツカーミシン
- ⑦ 日本体大 駒場
- ⑧
- ⑨ 飛板 ①
高飛 ②



津谷鹿乃子

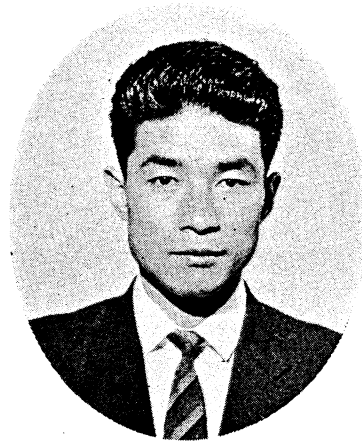
- ① 昭和13年1月6日
- ② 22
- ③ 160.2
- ④ 47.0
- ⑤ 兵庫
- ⑥ 関学大
- ⑦ 松蔭
- ⑧
- ⑨ 飛板 ②
飛込 ①

水 球



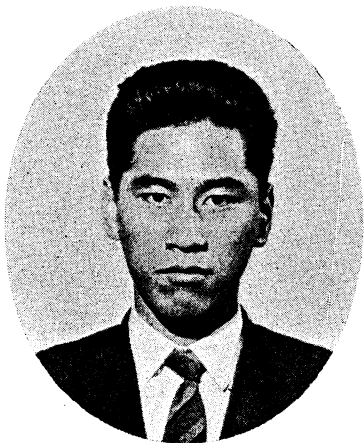
神 田 明 善

- ① 大正12年1月21日
- ② 37
- ③ 170.0
- ④ 77.0
- ⑤ 東京
- ⑥ 蒲田会館
- ⑦ 慶大法 慶応商工



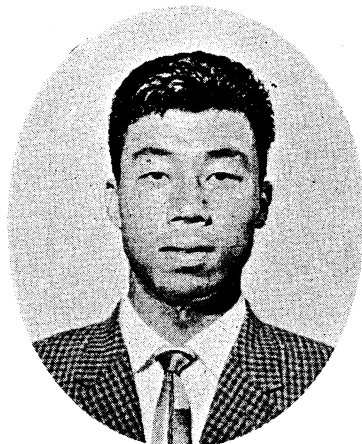
加 藤 峰 男

- ① 昭和9年3月27日
- ② 26
- ③ 173.2
- ④ 68.0
- ⑤ 東京
- ⑥ 横河電機
- ⑦ 早大政治 大泉



山 本 健

- ① 昭和9年9月6日
- ② 25
- ③ 174.6
- ④ 68.0
- ⑤ 東京
- ⑥ 朝日麦酒
- ⑦ 慶大法 成城学



浅 沼 寛 治

- ① 昭和7年10月4日
- ② 25
- ③ 176.5
- ④ 65.0
- ⑤ 京都
- ⑥ 湖南交通
- ⑦ 中大法 鴨浜



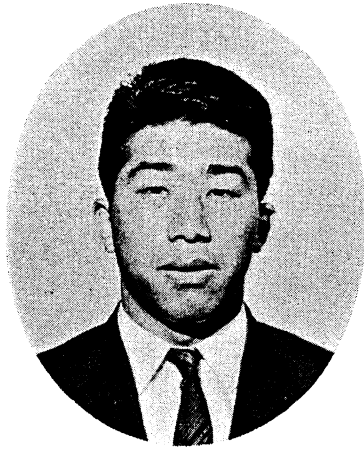
藤 本 重 雄

- ① 昭和14年9月3日
- ② 20
- ③ 174.8
- ④ 71.0
- ⑤ 熊本
- ⑥ 日大 政治3
- ⑦ 済々黉



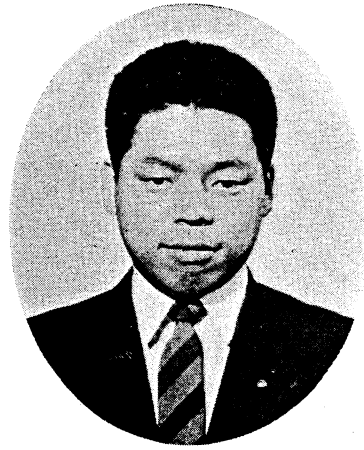
青 山 礼 三

- ① 昭和14年9月27日
- ② 20
- ③ 174.0
- ④ 70.0
- ⑤ 京都
- ⑥ 日大 経3
- ⑦ 鴨浜



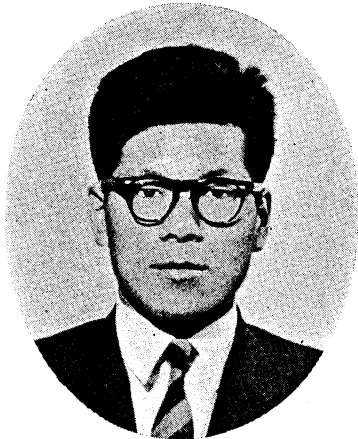
主 将
佐 藤 孝 尚

- ① 昭和8年1月19日
- ② 27
- ③ 172.0
- ④ 72.5
- ⑤ 東京
- ⑥ 大平山酒蔵
- ⑦ 慶大法 慶応



高 木 弘 毅

- ① 昭和11年12月12日
- ② 23
- ③ 173.0
- ④ 73.0
- ⑤ 京都
- ⑥ 本州ビル・メイン
テナンス
- ⑦ 日大経 鴨浜



宮 村 元 信

- ① 昭和11年12月1日
- ② 23
- ③ 172.0
- ④ 67.0
- ⑤ 熊本
- ⑥ 新光産業
- ⑦ 日大経 済々費



清 水 洋 二

- ① 昭和16年1月26日
- ② 19
- ③ 172.4
- ④ 68.5
- ⑤ 東京
- ⑥ 慶大 商2
- ⑦ 慶応



柴 田 徹

- ① 昭和15年10月30日
- ② 19
- ③ 182.0
- ④ 78.0
- ⑤ 熊本
- ⑥ 日大法2
- ⑦ 済々費

日本兼ローマ・オリンピック

最終予選会をみて

木 村 象 雷

山中の進境

メルボルンの予選の当時を回想して、山中を見つめると、いろんな意味の相違に興味がひかれる。当時の山中はスイセイのように出現した新人であった。泳ぎも荒々しかった。それがメルボルンの舞台でローズと争う世界の選手に飛躍した。その後コンラッズに変わった競争相手の記録を目標に彼の精進が続いたのである。1500のコンラッズの驚異的記録17分11秒0が遙に遠く霞むもののように思われていた。そこにこんどの17分25秒0が発揮された。ながく続けにくい長距離に、これまでの進境を見せた山中には、国民あげての期待に十分にこたえたという意味で、拍手を送りたいしさらにローマでの成功を願いたいものである。

1500のピッチは昨年あたりより少し遅くなり、腕からのしぶきも、ビートからのしぶきも以前ほどでなくなり、十分に掻き、よく効くようにビートし、泳ぎそのものが洗練されてきた。右腕の突込みみにローズ張りの鋭どさを加わえ、もしたれかと競り合ったような場合、右腕の突込みに調子を求めてピッチを加減すると、いくらでもピッチの上りそうな泳ぎになった。独泳の形での17分25秒0が、コンラッズと競り合ってどれくらい縮じまるか。まだ上昇する余地を十分に残しているように思えた。これが今回の選手権を兼ねたローマ最終予選会最大の喜ばしい印象であった。

福井と藤本

400の決勝で、山中がサボっているのではないかと思われた。300を過ぎても福井と藤本が山中を半身以上先に出さなかった。さすがに山中は最後のラップから両者をふりきったが、福井は4分25秒7、藤本は4分26秒5で、山中の存在のためにかげになっているようであるが、満足すべき近況であった。200の藤本、福井の2分4秒1とともに世界水準に肉薄したものとしてたのもしかった。

山中、福井、藤本について200にあとひとり2分5秒くらいの選手がほしいと願われた業は、残念ながら満たされなかった。800リレー必勝のソロバンがはじけたはずだったのに。石原は2分7秒4で、リレー要員として追加された石井の復調と睨み合せて、どちらをリレーに起用するか、チームの宿題を残すことになった。

百はピッチ

100ではピッチの一番速い石原が勝った。前半24ストローク、後半20mくらいピッチを少しゆるめたが、それからまた急に速めて後半も24ストローク。少くも26ストロークで泳げる泳法の勝利というところであるが、予選のときの56秒7では55秒前後でなければ入賞のむつかしい形勢から、まだ物足りない。100はまずピッチということを心がけねば日本の今後の進歩も遅いだらう。同じこ

とは背泳にもいえる。渡辺のピッチ泳法が富田、長谷を押さえた。渡辺のようなぶち込んでゆくようなキャッチをしなければオリンピックのファイナリストにはなれない。メルボルンのファイナリストの中にはオヤカワ式のスロー・ピッチ選手はいなかった。

平泳・バタの熱戦

この二つの種目の100, 200の決勝順位はまるで変わった。力の接近が如実に示された。そして代表の選には個人種目が重用され、200平に大崎、増田、200バタに吉無田、井筒が選ばれ、100平優勝の中川が落ちたのに対し、100バタ優勝の開田が拾われた。200平大崎の2分36秒9の本年度世界最高は、ローマ大会の前途を明るくした。

女子・高松と田中

背泳の田中は200に2分33秒3の世界新記録を出した。しかしローマにそなえては100の1分12秒6の日本新記録が問題である。その泳法には昨年より一層の磨きがかかっていた。同選手を手塩にかけた黒佐氏は、「1分13秒のカベが破れたのは、田中にとっては1分12秒0まで進んだのと同じ効果がある。あとスタートとターンを向上させればメダル圏内の1分11秒突入が可能」という意見を述べている。

メダル圏内ということになると高松の200メートル平泳の方が有力という見方もある。2分53秒6を出したが、あと1, 2秒が圏内。

新鋭と古豪

水準が総体に上ったためかスイセイ的選手が出てきた。新人としてはバタフライの200に2位に入り、候補選手外から一挙に代表にもぐり込んだ井筒選手であり、1500の中坊の進況も著しかった。その間に100の古賀が予選に消え、常勝

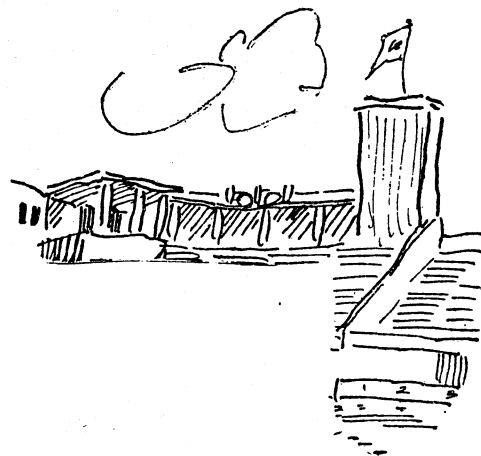
背泳の長谷がポイント2の差で3位になりローマ行をポイント2で失ったことも、去りゆく古豪の常道とはいえ一まつの寂しさであった。バタフライ昨年のナンバーワン那須、山中に次ぐ今後の長距離泳者とみられていた梅本などは、コンディションのよってゆき方に違算があったためであろうが、その心情を思うとき同情の念がわく。女子ではバタの松中が宮部に惜敗したけれども、予期以上の向上を示した。

飛込ではメルボルン組の馬淵が三位どころ、女子では津谷が高飛込に勝って、男子3名、女子2名のローマ代表となったが、水準としてメルボルン当時とそう向上が見られないということである。選手の絶体数が少いので、お互いの競争意識が薄いのではないかと思われる。

水球では代表を予約されていた選抜軍が一点の差だとはいえ桜泳会に敗れる狂いを生じ、代表の人選にチグハグの感じを残した。選抜チームは、数度の合宿練習をやって、磨きに磨きあげられたはずであった。

ボールゲームは多少の番狂わせは常のことであるが、「そんなことでどうする」といわれても返すことばがないはず、ふんどしをしめ直して、ローマでの活躍にそなえてほしい。

(筆者は本連盟常務理事 アムステルダム・オリンピック出場)



日本代表水球チームを送る

名 取 正 也

待望のローマ・オリンピックに、戦前戦後二十年の私共の夢を托して我が代表チーム12名が出発する。本当に二十年間、待ちに待った檣舞台である。私達当時の選手が第12回ヘルシンキ・オリンピックの為のナショナル・チームの猛練習を続けて居た昭和15年、遂にドイツ軍の戦火は全欧州に及び、時の水連会長、末広博士は、「君達はここで、凡ゆる対外試合の機会を失った。然し君達が若し、技術の研究、練習を怠る様なことがあって、他日、対外試合が復活せられたときに、その時の選手達の技術の進歩が若し外国選手達に劣る様なことがあったら、それは君達の責任である。君達は不幸にして機会を失ったが、やがて他日の機会の為に、その踏石となって頑張ってもらひ度い」と。その長い踏石の二十年、その機会が今やって来たのである。戦後一早く、古橋君の出現を見た競泳に比べ、近水、三水会等のOBチームが若い学生チームにバトンを譲る迄、更にマニラの極東大会ではシンガポールに苦杯を喫して、メルボルン・オリンピックの出場権を失うなど、苦難の道は尙続いた。漸くにして、東京のアジア大会に宿敵シンガポールを4-2に破り、ローマへの道が、確保されたわけである。前の水球委員長、藤田明氏が、戦後のヘルシンキ・オリンピックを視察し、世界水球の大きな変貌を伝えられた。私共はオランダの名コーチ、スモール氏を迎え教師とし強化練習を行ひ、更に鴉田水球委員長をメルボルン視察員として派遣する等、近代水球の脱皮に精進を続けたのである。

新しい水球とは何だらう。スピードと体力、全員攻撃と全員防禦の目まぐるしいシステムであると云う。それでは今迄のマンツウマン防禦とか、フローティング・システムとかで無用に成ったのであろうか。否決して無駄では無かった。ヨーロッパの一流チームも我々が二十年間暗中摸索した方向と殆ど大差ない歴史を経ていたのである。然し、次の目標は、静止したプレーではなく、すべて泳ぎ乍らのプレー、ダツシュしながらのパスと

シュートであり、だきかゝる様な防禦ではなく、フットワークの防禦であるという新しい水球をアジア大会優勝の翌日から猛訓練を開始したのである。この訓練の成果が22名の候補選手によって如何に示して呉れるか、私共は大きな期待を持って見守って来たのである。目の覚める様なフライイングシュート、バックのゾーンをかいくくって左右に飛ぶショートパス、私共の描く夢が着々と成果を挙げて候補選手の技倆は日一日と向上して来た筈である。

ローマで日本チームが相見ゆるチームは、未だ地区によっては予選結果が解って居らぬところもあるが、ヨーロッパの最強チームは続々となのりをあげて居り、先づ、前オリンピック優勝の、ポロを国技とするハンガリー、ヘルシンキ優勝のイタリー続いて、ユーゴスラビヤ、東西に分れたとはいえ伝統に輝くドイツ、水球では新興の強力チームソ連、アメリカ、そして、オランダ、イギリス、等々、其他アラブ連合、スペイン、ブラジル、ベルギー、フランス、など、一流チームが各地区ブロックの予選を経て、16チームが集まるわけである。その中に、アジア優勝の唯一国、日本チームが、どこ迄戦えるか、私共の期待は大きい。先づ我々の信じて行って来た方向が正しかったかどうか、日本人独特の強味というものが発揮されるだろうかを第一に確め度い。この16チームは四つの予選グループに分れ、各グループの1位が決勝リーグを行うわけであるが、私共としては何とかこのグループの強敵を一つか二つは食い度い。そして東京大会への希望を植えつけ度いと考えている。

全日本選手権大会兼オリンピック最終予選が7月22日から3日間、神宮プールで行はれた。オリンピック参加を前にして実に18チームが参加した。シードチームは、桜泳会、全慶大、白水会、全日本選抜軍であり、成城大、慶大、中大、明大と、済々黌、城北高の学生、高校チームそれにOB加えた、稲泳会A、B両チーム、全学習院、法

泳会、駿台クラブ、三水会、若干OBを集めた五八クラブ、及び東水会の18チームであった。勿論候補選手から仮りに選んだ、全日本選抜軍の楽勝を予想し、監督、選手もどのチームに対しても10点近い点差を信じて居ったのであるが、準決勝戦に大番狂はせを演じてしまった。日大を主体とした選抜軍が、その後輩チームたる桜泳会に3-2で敗れたのである。選抜軍が相継ぐ合宿練習に疲労し、又バックマンを2名も故障で欠いて居り、気のゆるみもあった事と思うが、若いチームの真剣な熱と意欲の前に、敗れてしまったのである。この事は、喜んで良いのか、悲しんで良いのか、たしかに監督、コーチ、選手の精神的なゆるみがあったことは、大いに反省せねばならない。選手個々の技術には数段の差があることは、誰でも認めている。これで選手は気落ちし、三位決定戦の白水会に6-2で勝ったとは云え、苦戦して居る。全く勝負は水物であって、如何に精神的な面が大きいかが解るのである。これを良き薬とするか否かは、ローマでの活躍如何が、答えて呉れるはずである。然し一面、この敢闘した若い選手から、ジュニヤ全東軍を、25名選び、東京大会への希望を大きくしたことも確かであって、あとに続くものゝ力強さを、十分味はった収穫を喜び度い。

慶大はよく戦ったが、老巧な五八クラブのペースにまき込まれて惜敗し、稲泳会Aは、若いフオワードに、ベテラン田代、飯田を加えて善戦し、白水会と延長五回の熱戦を展開して惜しくも敗れ、成城大は独特の試合ぶりで決勝に進出、殊勲の桜泳会に対しては、決定打不足で敗れた。優勝チーム桜泳会には心から御芽出度うと申し上げる。何れも熱戦であり、最近での好ゲームが数多く生れたことは、水球人として非常に愉快であった。

24日正式にオリンピック代表12名を決定したが、候補選手から10名、選抜軍を破った桜泳会からバックマンを1名入れ、鵜田監督の下、編成が決まったのである。

鵜田監督 水球委員長として、又水球王国日大の育ての親として、更にFISの学生大会、シンガポール遠征と対外試合を数多く経験し、メルボルンの視察員として前回のオリンピックを見て来

て居り、今回の候補選手とは文字通り寝食を共にして来たので、これ以上の適任者は居ない。その粘り強さと、抱容力のある円満な人格に我々の期待は大きい。

神田コーチ 水球歴の最も長い選手。戦前戦後を通じて17、18年の豊富な経験を持っている。どんな細かいプレーでも、新しいテクニックでも自ら身を以て示すこの出来るコーチである。彼がもう一段巾を広げるために、オリンピックで、外国チームのコンビネーション、システムを学んで来てもらい度い。

佐藤孝尚 主将としてやってもらおうと思うが、慶大OBとして、マニラのアジア大会以来の選手フオワードとして、ゴールゲッターとして、ピンチに当り最も信頼出来る選手、妙にエキサイトする面を捨て、円熟の境地に達することを望む。

高木弘毅、宮村元信 共に日大OBの23才、日大黄金時代の中心と成った名コンビ、両君の鋭い水に乗った、ピストンとゆきぶりから放つ、華麗なシュートは、目にも止らない。今年こそ国際舞台で威力を発揮するときである。

藤本重信 濟々鬢の逸材、彼の長足の進歩は全く目覚しい。左利きで、勿論右手もこなす。特にハンドリングと泳ぎに鋭さがある。この選手あたりオリンピックゲームでの得点源になるのではないか。上手さに堅まってしまわぬ様精進を望む。

浅沼寛治 中大OBの至寶、バックマンのベテランとして、彼のゲーム感覚に期待する所大である。国際試合の経験も十分である。笛を意識したプレーをしないことを望みたい。

柴田 徹 19才の新人、体に恵まれ、然もチャンスメーカーとしてその泳力は素晴らしい。むしろ次の時代を担う最大のホープである。タックルの技術に更に研究が望ましい。

清水 洋二 慶大の新人、体の軟いスピードも十分の若手フオワードの白眉、彼の出足とフライングシュートに大きな期待をよせている。もう一步の粘りが欲しい。

青山 礼三 鴨浜高出の日大ホープ。恵まれた素質を持ち、最近長足の進歩をした選手、ハーフバックを目標にして勉強してもらい度い。伸び伸びとしたプレーが身上。

加藤峰男 日本最高のゴールキーパー。早大O

B。日本ではまともに投げたら殆ど入らない鉄の防禦を持っている。わきの下と、スリップボールに弱点があるが、オリンピックでは、日本のゲームの倍も三倍もシュートが来ることであろうから彼の真価をためすチャンスである。

山本 健 慶大OBのゴールキーパー、好不調の波があるのが欠点であるが、調子を出すとこれ又恐ろしい。精神的に更に大選手と成る様勉強して来てもらい度い。

以上12名が我々の選びローマに送る代表軍である。但し行くのは彼等だけであるが、OB、現役選手共に、彼等と競り合い、五分に渡り合った選手が、自分達の思いを込めて見送っている。特に直前に不幸病気の為残留と成ったバックマン、名人荒川を始め、其他日大、中大、成城のOB、同じく学生選手は、代表軍の活躍を自らの手足を動かす如く、一喜一憂して居るのである。精神的な弛かきが如何に恐しいか、全日本で味はって

る。素質十分、誰を見ても最高のスタッフと自他共に許している諸君である。此上は監督、コーチと一体となって、強敵と当ってもらい度い。ヨーロッパの本場チームに対して高望みは出来ないが来るべき東京大会の為に、何等かの収穫を持って帰ってそれを日本水球界に植え付けるという任務は重大である。

私が二十年前、慶大の選手であったときのスローガンは何と「打早競洪」であった。当時の宿敵早稲田を破り、ハンガリーと競うという意味である。諸君は日本の代表選手である。この上はハンガリーと競り合ってもらい度い。「打星競洪」である。元気でそして力の限り闘って来て呉れ給え。胸一杯にヨーロッパの最高チームのウォーターポロを吸い込んで、帰って来て下さい。

御健闘を祈る。

(筆者は本連盟水球委員・全日本選手権大会水球審判長)

飛込競技オリンピック最終予選会をみて

生 江 哲 太 郎

全く早いものだ。つい昨日の様に記憶に残っているメルボルン・オリンピック大会への飛込代表を羽田空港に送り、そして、帰国を迎えたのにもう四年の時日が過ぎてしまった。そして今度はローマ大会へ代表を送る可き大会が7月22日から始まった。

悲喜こもごもの思いを残して24日無事終了し25日の朝刊は一斉に決定された代表の顔ぶれを発表した。

飛込競技としては、予想された通りの結果となって男子は金戸、山野、馬淵、女子は津谷、渡辺の5名が栄えある日本の飛込代表として選ばれたのである。

女子2名の内の津谷さんは既に前回のメルボルンにも日本代表として出場しているベテランであって今回で二回目である。津谷さんを一口に批評すれば天才である。全身バネの如きスプリントを持って居り、その飛形は鋭く、よく審判点九点を

出し得る人としては他に無いと思える程のシャープさを持っている。然し乍ら非常にムラッ気である。周囲のフンイキに左右され易く自分から打込んで行く積極性にかける為か、現在の様な国内上位の成績に止まっているのであって惜しみても余り有る。

本当に慾の出た時には、オリンピック第3位ぐらいには必ず行ける人なのである。飛込界にとっては得がたい存在であったために残念に思う。然し代表に選ばれた以上は心機一転して最後の花を咲かせて欲しいと望むのは、飛込界全体の声である。

渡辺さんは努力の人である。太く重いあの体形でよく今日の栄誉を勝ち取ったものだ。全く練習のたまものである。私も東京にいるために渡辺さんの練習はよく知っている。全く敬服にあたいする。家庭、会社、コーチ、其の他の理解ある影の力に、心から拍手を送りたい。

両嬢は共にローマ大会の女子高飛込に特に大きなチャンスがあることを決して忘れないように望む。

男子の金戸君は現在の日本飛込界のピークにいる人であって、実力は飛板、高飛込共に最高である。大人の中にひとり子供が割り込んでいるような金戸少年は、ローマ大会でも必ずマスコットの存在に成ることであろう。青い目の人々からは、日本の小学生がやって来たと言はれるだろうと思うと、想像しただけでも笑いがとまらない。処があつた立派な飛型には外国選手も二度ビックリする事だろう。

山野君は一本筋の通った男である。自分の飛込をはっきりと知っている男である。お国がら武骨な処があるが、これがかえって彼の飛込を支えている。従って、山野君の飛込を見ていて、際立って上手だと思ったことは無いが、十種目を飛んで合計が出ると必ず上位にいるという選手である君もまだ若い今度のローマ行きはきっと何かをはっきりとつかんで帰って来るものと信じている。

最後になったが馬淵君は全く人柄の円満な人だ。君も既にオリンピック大会参加はメルボルンと共に二回目になる。この意味でも人間としても、飛込代表の立派なリーダーだ。このようなことをいうとツカられるが、君は勝たなくとも良い。他の連中をベストにもって行くよう、全力をつくしてくれ給え。決して中途半端な立場に成らぬようお願いする。

諸代表選手の寸評はこの位にして、日本選手権大会3日間の成績を省みると、これは最近に無い不出来で有った。審判員として、私はこんな低調なオリンピック代表決定戦を審判したことは無い。女子代表の津谷さん、渡辺さんにしても実力の60%しか出て居ない。津谷さんは飛板で三種目に失敗をしたし、渡辺さんは高飛込の四種目に失敗をしている。

男子に於ては、飛板飛込の得点が135点迄にも及ばず、高飛込は142点迄、これでは、男女共に予選で振られて仕舞う。私がこれが実力では無いことを承知しているので、心配はしないが、どの新聞を見ても、一として飛込の予想は勿論のこと批評すらしているものがないということは、何を物語っているのだろうか。我々関係者にも責任が

あるが、何と云っても諸君等がもっともっと強くなって、もらわねば話にならない。

私は率直に云う。アムステルダム大会に最切の飛込代表を送ってから既に三十余年になる。にも不拘余りにも進歩が遅い。これには種々原因があると思う。プロコーチとは云はなく共専属コーチが絶体に必要なのである。施設をもっともっと自由に使用出来る様にして欲しい。又室内選手権を日本選手権並みの権威あるものとしなければ、冬季間はダラダラとした時間の無駄である。夏季に種目を作れば良いと考えることが無駄な練習になるのだ。然し乍ら何と云っても第一に挙げねばならぬことは、自分がこの競技に身を置いた以上、日本の代表になり、オリンピックに日の丸を挙げてやるぞという気迫の無いことだ。国内で優勝すれば、オリンピックの日本代表には成れるというが如き消極的なものでは、当然世界の飛込界には君臨出来るわけが無いし、こんな心構えはもう通用しない。

それには先ず自分に勝つことだ。立てたスケジュールは必ずやりとげることだ。プールにいる時だけで練習ではない。完全なるものを追求して行くのが飛込競技でもある。

幸いにして今回は、柴原氏が監督、小柳氏が国際審判員として参加される。両氏は関東、関西を代表したかつてのオリンピック選手であり、現在日本の第一級のコーチでもある。加えて津谷さんは小柳氏の薫陶を得ており、他の男子3名は皆柴原氏の後輩である。渡辺さんも亦然り、選手が皆両氏の手塩にかけられた者ばかりであるということは幸せである。いわゆる天下り式のコーチが代表を引率するのと訳が違ふ。環境は全部揃っているこの上は病気をしないこと、負傷をしないこと、日本代表である自覚をはっきりと持って、各自のベストをつくすこと以外に何もない。もう弁解は聞かない。

どうか一切の消極的な心を捨てて、悔ることのないゲームを戦って来て欲しい。

最後に今般の日本選手権大会に於て、日大の田原君、女子の石黒さん小野さんは次代を担う有望なるダイバーであることを付記する。

(筆者は本連盟飛込審判員 ベルリン・オリンピック出場)

ローマ・オリンピック大会

飛込最終強化合宿を終えて

—(((座談会)))—

日時 昭和35年7月17日(日曜)
場所 スポーツマン・ホテル
出席者 柴原恒雄(ローマオリンピック・コーチ)
坂本章八(トレーナー) 馬淵良(候補選手)
馬場豊(候補選手) 金戸俊介(候補選手)
山野外嗣夫(候補選手) 渡辺久美子(候補選手)
津谷鹿乃子(候補選手)

柴原 ローマ大会候補の最終強化合宿である今回の合宿の最重点は、ローマの現地に於ては必ず国内に於けるような練習量は到底望めないで最短時間で充分ベストコンディションに持って行けるような練習の方法を取った。

これはローマ大会に於て六位以内に入賞するというを一応の目標としているので、只の一発といえ共失敗ということが赦されないで、一種目一種目の練習が即試合という空気で練習を進めたが私から云わせると未だ踏切で止ったりして、やり直すというようなことが皆無という状況迄来ていないがこの点選手自体の自覚が不足していると思うがどうだろうか。

馬淵 これは頭でそう思っているものゝ、なかなかその雰囲気になり切れないのですね。

柴原 台の上に立ったら右も左も解らない位あがってしまうことが多いと思うし、雲の上でも歩いているような状況では長い間何のために練習を積んで来たのか訳がわからなくなってしまう。

要するに各人の真剣の度合いの問題だね!! ローマ大会で各自はどの程度の目標を持っているか金戸君どうだ。

金戸 高飛込の第四位程度を狙っています。

柴原 山野君は?

山野 飛板の六位です。

柴原 女子の方はどうだ?

津谷 飛板、高飛込を通じて六位以内。

柴原 渡辺君は?

渡辺 津谷さんと大体同じです。

柴原 これは私自身が選手の調子を見乍ら進めて行くことなんだが、ローマ迄どのような練習量で調子を持って行き度いと思うか?

勿論各人によって希望する処も有ると思うし考えも各々異なると思うが。馬場君どうだ。

馬場 現段階の練習方法が自分には適していると思う。

津谷 国内では現在よりももっと練習量がほしい。

馬淵・山野 馬場君の意見に賛成です。

渡辺 津谷さんに賛成ですが不安な種目に対して集中的に練習させてほしい。

金戸 私も津谷さんの意見と同じです。

柴原 先づ8月5日迄位は全般的に練習量を増加させ度いと思う。後12日の出発迄は量を少くして試合本位の練習に持って行き度いと思っている。勿論不安な種目を残さないように集中的な練習もやる。

各人が充分身体に注意をして完全な状態に於て一応目前に控えている最終予選に全力を挙げて頑張ってもらいたい。

最終強化合宿を終えローマ大会を目前にして

ローマ・オリンピックコーチ 鵜 田 武

ローマ・オリンピック大会もいよいよ目前に迫ってまいりました。

水球に於けるオリンピック大会への出場は、ベルリン・オリンピック大会以来のことであり、二十数年振りにめぐりあえたチャンスであります。

吾々は来るべきローマ・オリンピック大会に備えるべく、昨年8月よりローマ・オリンピック大会迄の年間練習計画をたて、7回にわたる強化合宿、そして5回に及ぶ強化練習等と、長い期間の練習計画を強行して来ました。これも前回のアジア大会で優勝することができたとは云え、この大会の目標として居りましたシンガポールが前回のメルボルン・オリンピック大会では10チーム中の最下位であると云うことを考えます時に、ローマ・オリンピック大会にのぞむに当っては、アジア大会当時のチーム力を更に増加して強力なチームを作らねばならないと考えたからです。このような長期な強化練習も遂に最終的な段階にまいりました。この一年間に基礎技術の第一歩より始まり、現在迄にローマ・オリンピック大会で戦うべき理想としているチームを編成するのに必要な技術は大体に於てマスターすることができ、ゾーン・デフェンス・フォーメーション及びアタック・フォーメーションも略々出来上りました。

全日本選手権後オリンピック代表選手11名が決定いたしました後は、ローマ大会出発迄二十日近くもありますので、機動力を充分駆使できるように更に泳力の強化、ゾーン・デフェンス及びアタック、両フォーメーションの完成、並びに総合的なゲーム・センスの育成（正確、タイムリーなパスワーク及び瞬間的なチャンスの活用を重点的に）を計り、出発迄に最終的な練習を行ない強力なチームに育て上げるつもりです。又現地到着後は、練習時間も充分に取れないと思いますので外国チームとの練習試合を中心に練習を行い、相手チームの研究及び彼等と戦うための日本チームの短所・長所を分析して大会当日の試合に対して万全を期して行きたいと思えます。

ローマ・オリンピック大会に於ては世界の強国と力を競う訳けですが、前大会に優勝したハンガリーを始め、ユーゴ、ソ連、イタリア、ドイツ、米国、オランダ（前大会には不参）等には或いは勝つことは困難かも知れませんが、それ以外のチームには是非とも勝って見たいと考えて居ります

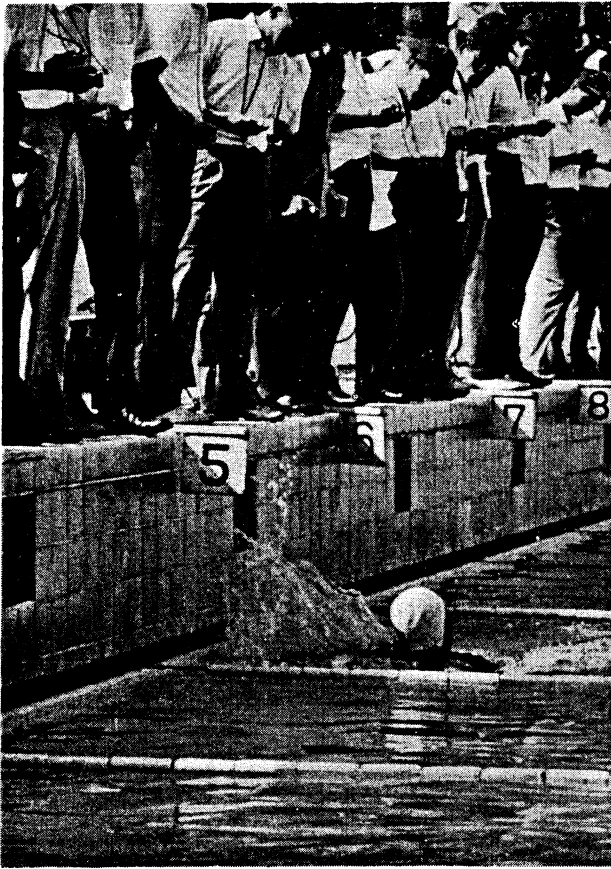
水球は御承知のように競泳に於けるタイムの如く、又ダイビングに於ける得点数のように相手方との力量の差を数字的に比較することができませんので、試合をする以前から日本チームの力がどの位であるかということを知ることも不可能でございますので、こちらの思うような作戦が図に当たるか、或いは水泡に帰すか判断は難しいと思えます。而し前回のメルボルン・オリンピック大会及びパリー国際学生スポーツ大会からの経験で、現在吾々が目標として居る、機動力とスタミナに富んだチーム、そして動き乍らのプレイに徹して相手方ゴール・キーパーを左右に振切って攻撃を行い、又相手方の攻撃に対しては、ゾーン・デフェンスを主体とする防禦方法を取り、相手チームの強力なポイント・ゲッターを徹底的にマークしてこれを押え、ヤード・ラインからのシュートをつぶして、できるだけシュート圏を後方にさげて勝負する。そして攻防転換のチャンスには速攻にうつて相手方の防禦体勢のととのぬうちに得点をする。

このようなシステムは相当の成果を得られるものと確信して居ります。しかし対外試合の経験の浅い連中がローマ大会に於て今迄に訓練されてきた技術を充分に発揮できるか否か問題だと思えますが、この問題は「大敵たりとも恐れず、小敵たりともあなどらず」との旺盛な闘志と、よく統制されたチーム・ワークが最大の力となると思えますので、この点コーチとして充分留意して、残された短時日ではありますが技術的な面と共に精神的訓練を行い、ローマ大会では悔を残さぬように持てる力を十二分に活用して戦って来たいと存じます。（筆者は本連盟常務理事水球委員長）

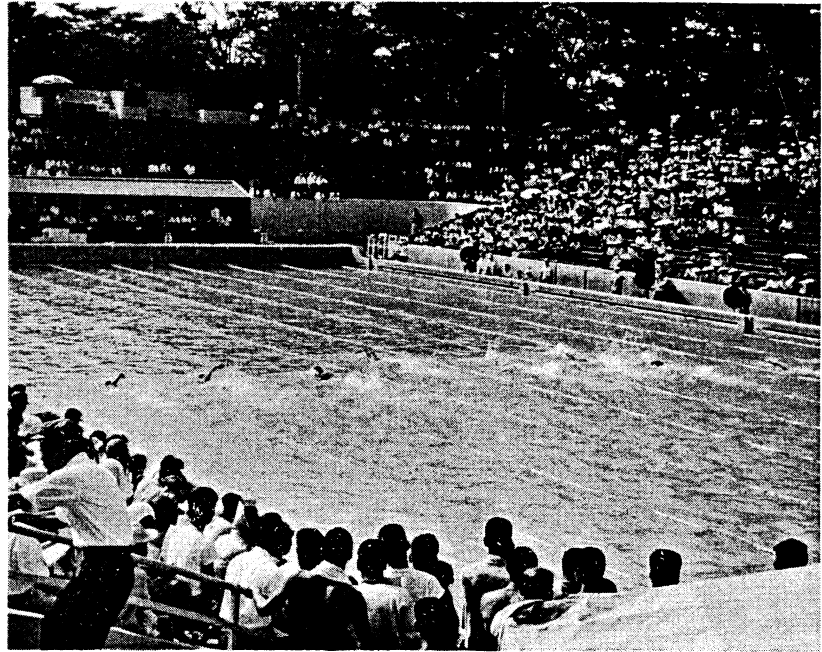
全日本選手権兼ローマ・オリンピック最終予選会

昭和35年7月22日～24日

於 神宮プール

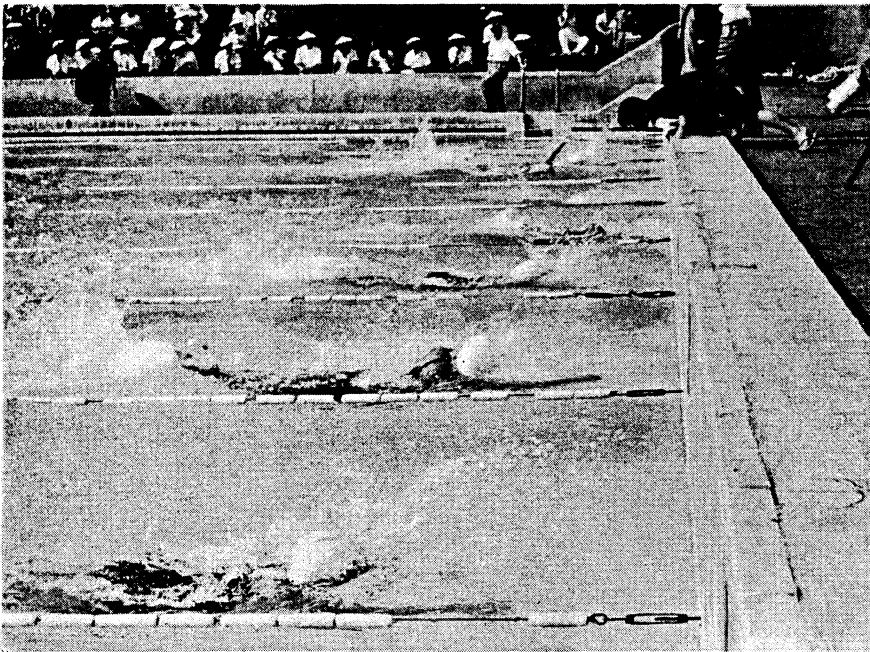


↑ 女子100m 背泳決勝で優勝した田中嬢のゴール。

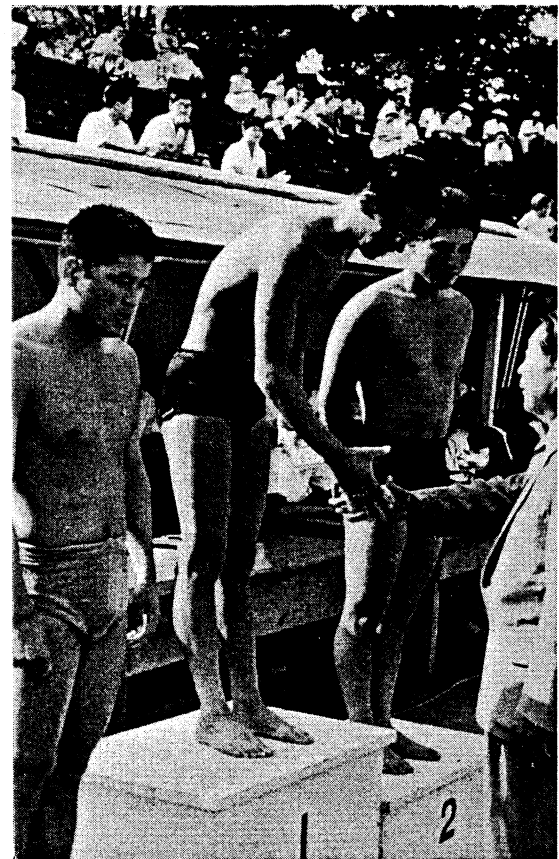


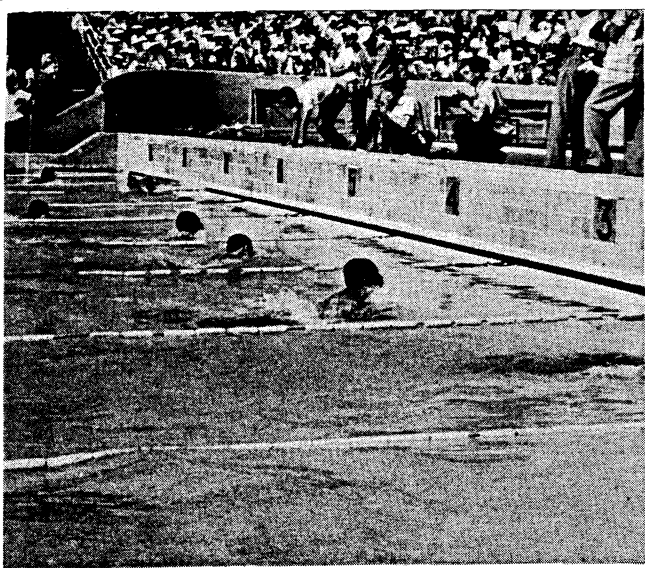
↑ 男子200m 自由形決勝のせりあい。

男子200m 自由形決勝で表彰を受ける左より石原（3着）藤本（1着）福井（2着）。 ↓

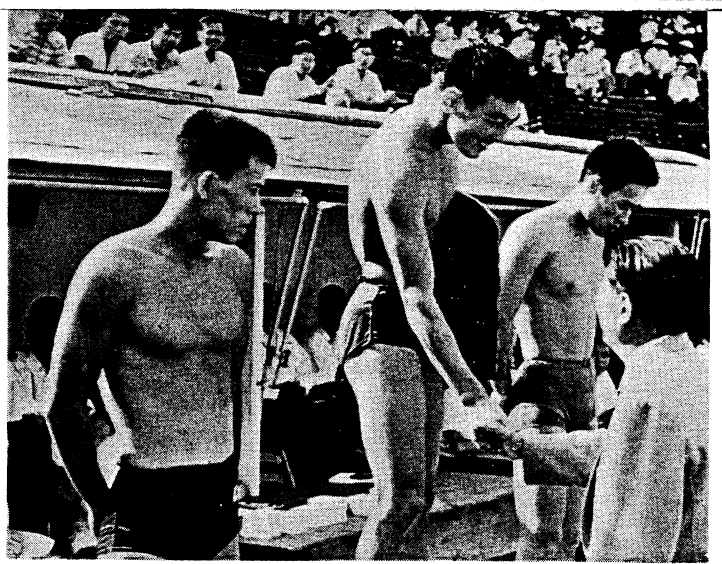


↑ 女子100m 自由形決勝。50mのターン。

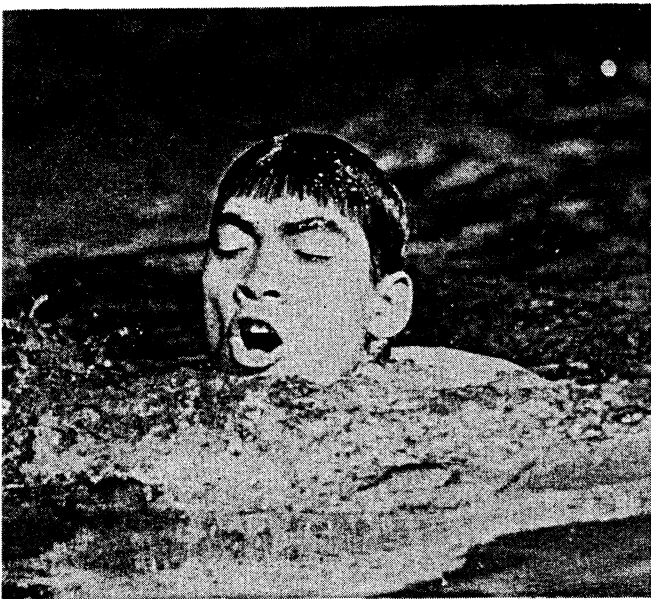




↑ 男子200m 平泳決勝における150mのターン。



↑ 男子200m 平泳決勝の表彰。
左より中川（3着）大崎（1着）増田（2着）。

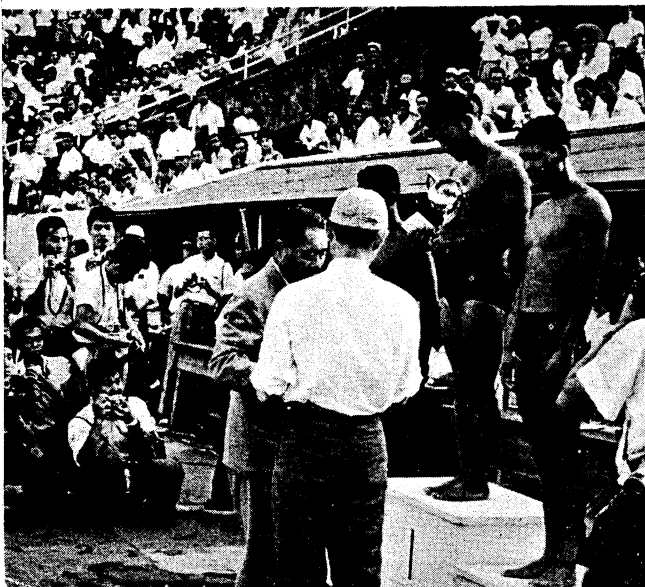


↑ 平泳で「優勝」が期待される大崎選手。



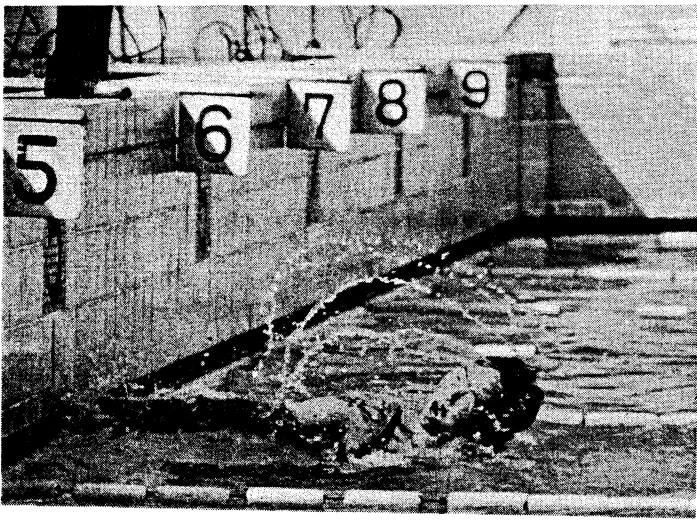
↑ 女子100m バタフライ決勝で表彰を受ける
左より黒田（3着）宮部（1着）松中（2着）

男子1500m自由形決勝で表彰をうける山中（中
↓ 央）右は中坊（2着）。



ホープ山中選手の力泳振り。 ↓

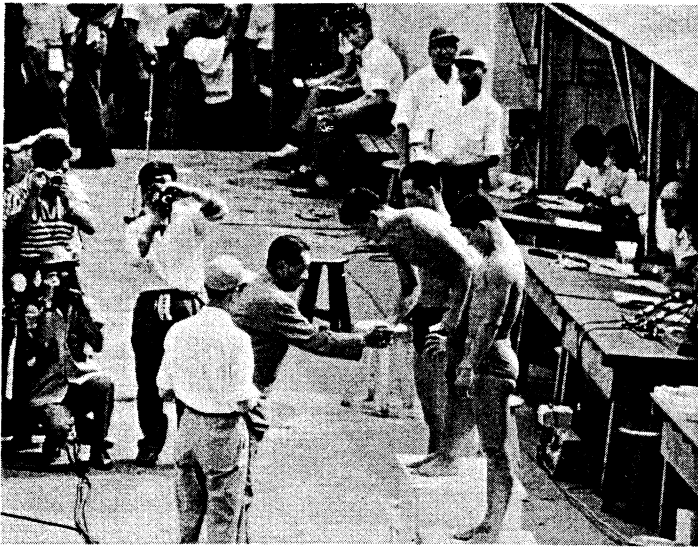




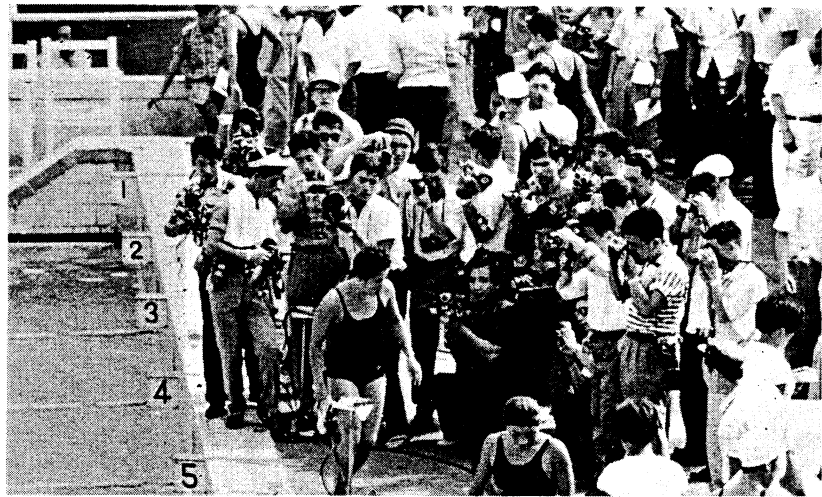
↑ 女子 800m 自由形決勝で優勝した虎野濠のターン。



↑ 再度世界新を出し期待される田中嬢

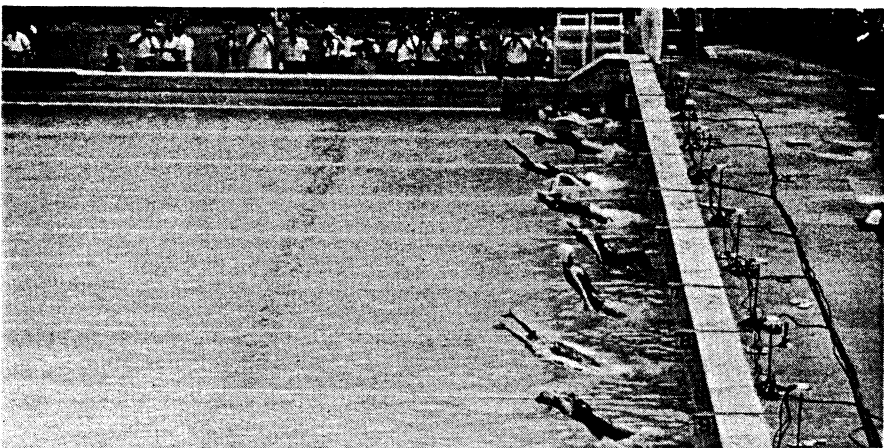


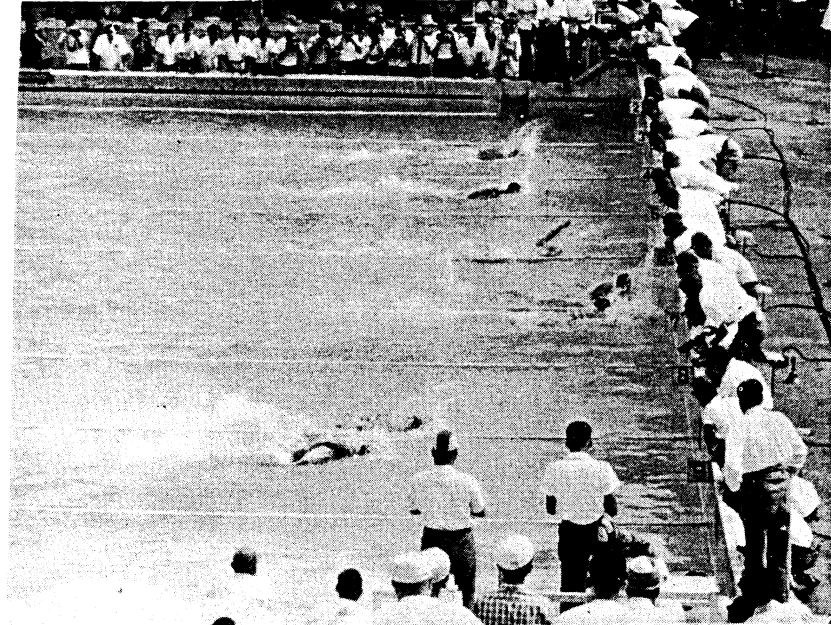
↑ 男子 100m 背泳決勝の表彰式。
右より富田（2着）渡辺（1着）長谷（3着）



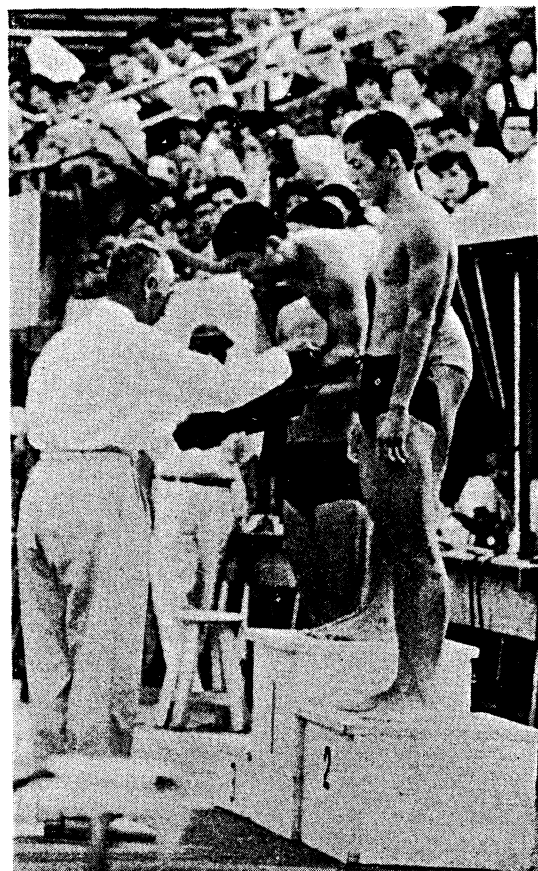
↓ 女子 200m 背泳のスタート。

↑ キヤメラマンの砲列にびつくり。女子 200m 背泳で世界新記録をつくりプールから上つた田中嬢（中央）。

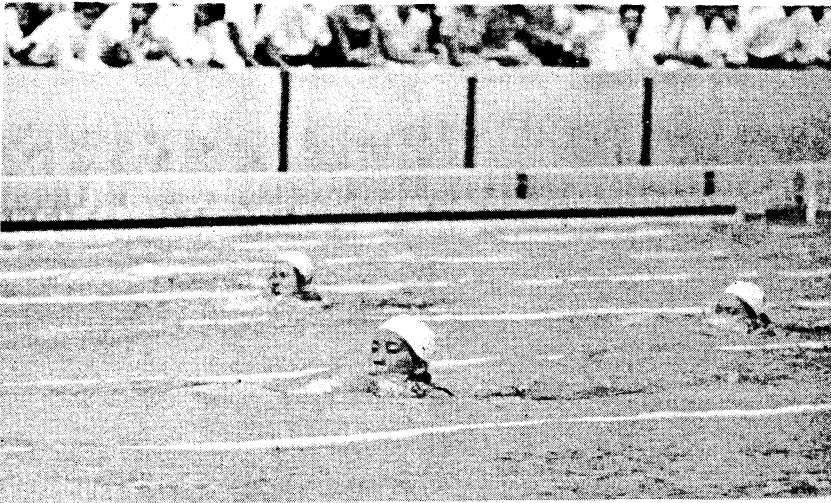




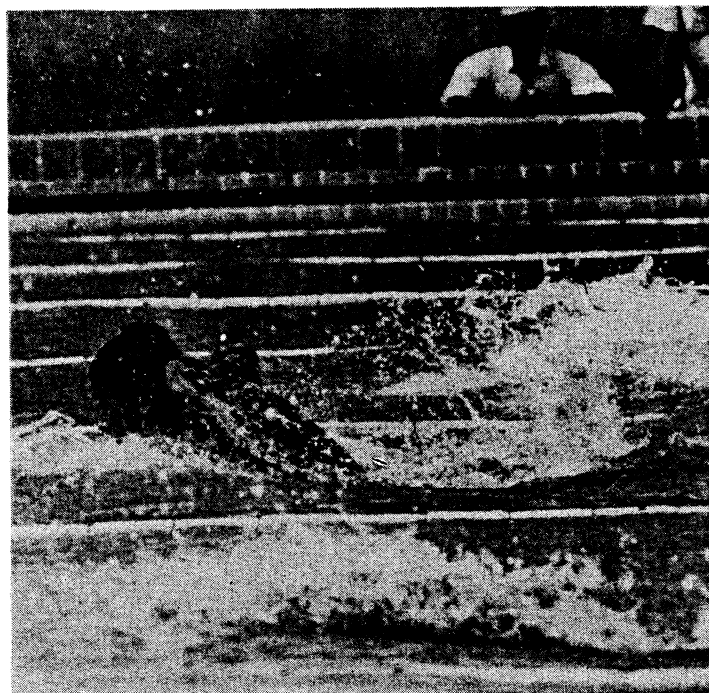
↑ 男子 100 m 自由形決勝のゴール。



男子 100m 自由形決勝の表彰。
高石氏より高石勝男記念杯を受ける石原選手。右は清水。左は中谷。



↑ 女子 200 m 平泳決勝 80m 附近のせりあい。



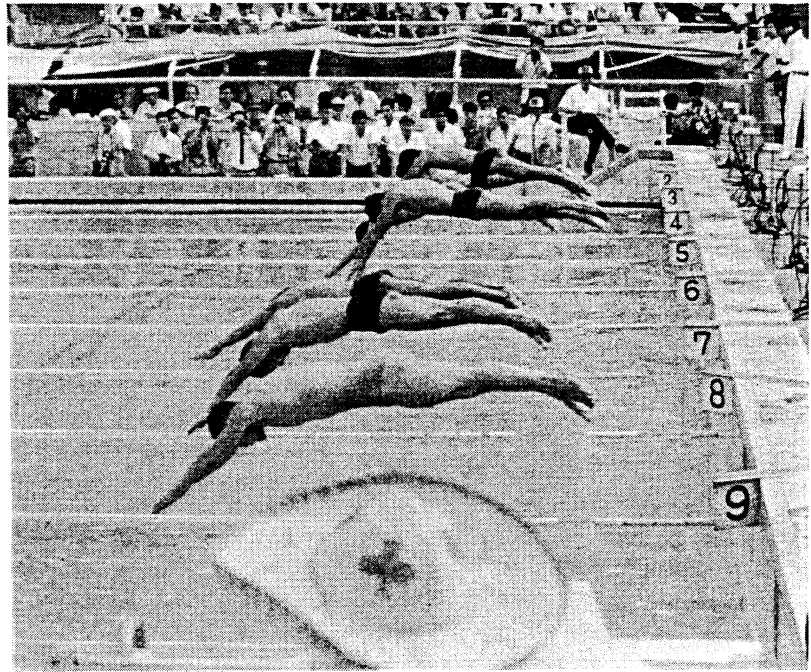
女子 200m 平泳決勝で日本新記録を出した高松嬢のゴール。

男子 200m バタフライ決勝における吉無田選手の力泳。

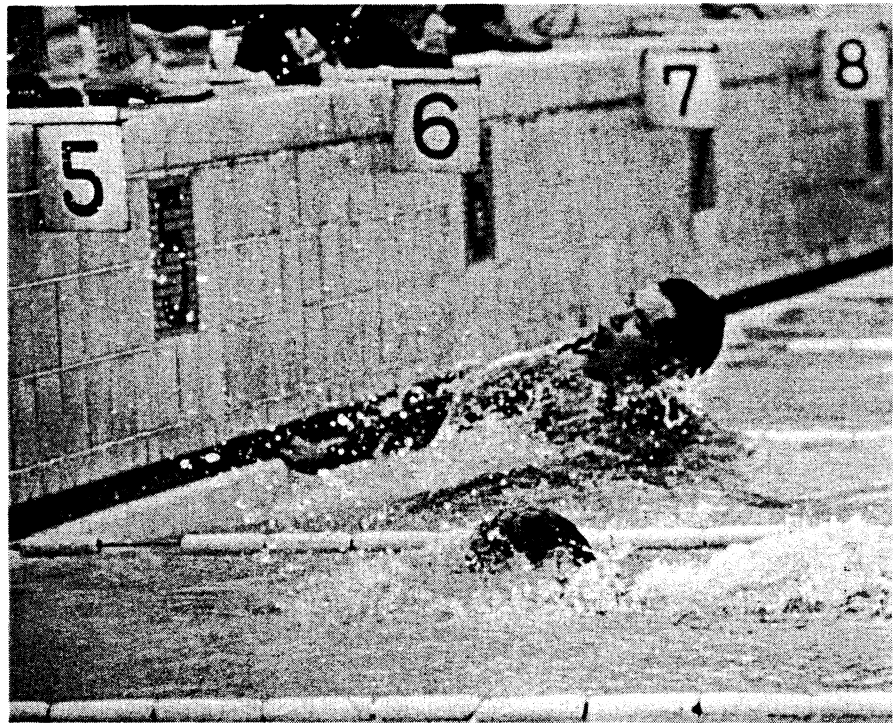


↑ 男子 100m 平泳決勝

大崎 3着
 中川 1着 のせりあい。
 増田 2着



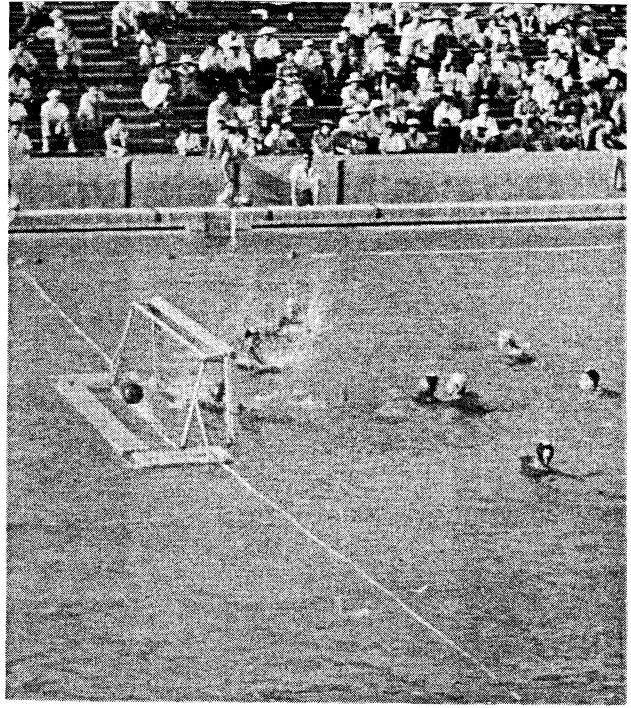
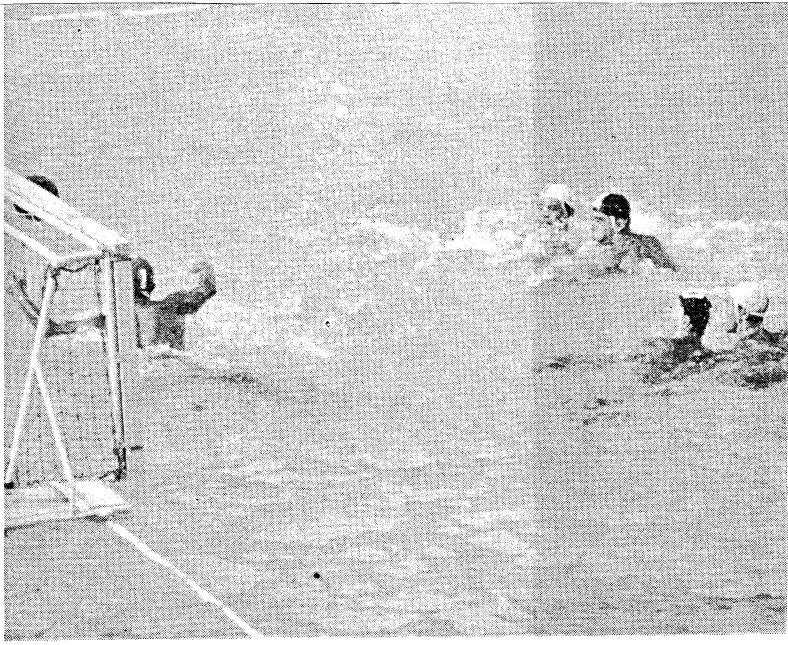
↑ 男子 100m 平泳決勝のスタート。



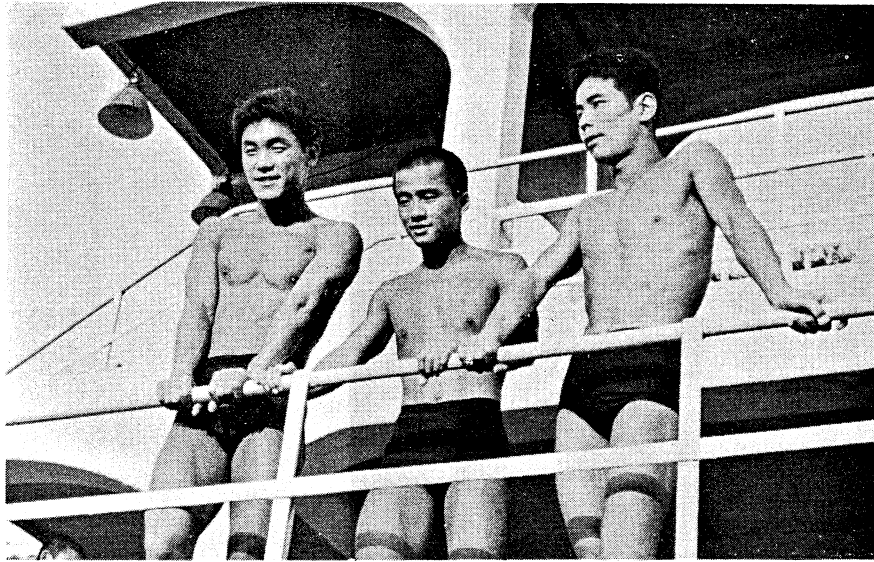
→ 男子 400m 自由形決勝における山中 300m のターン。



← 男子 400m 自由形決勝のスタート直前。



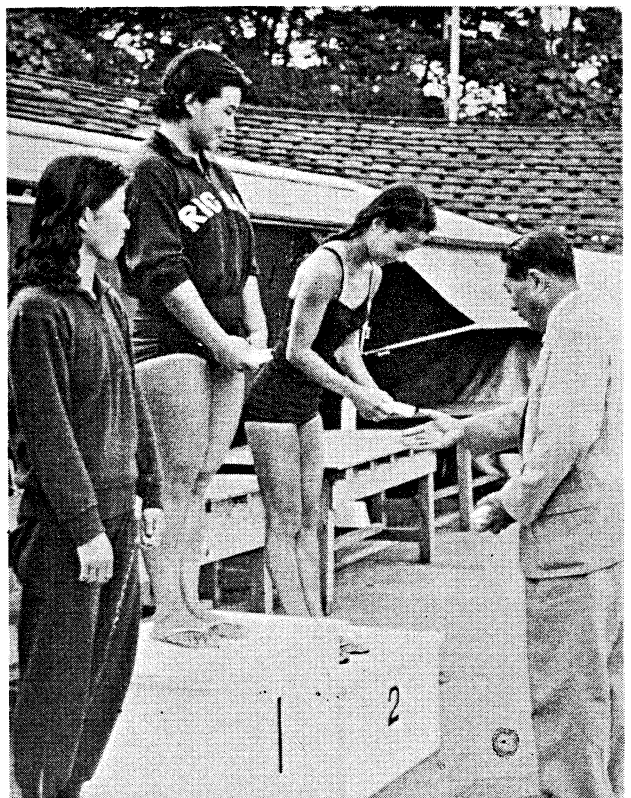
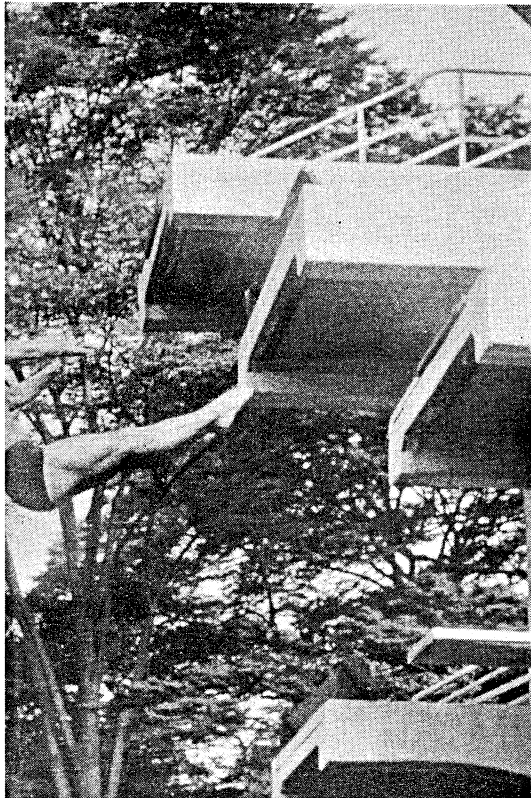
↑
水 球 決 勝 戦



→
男子飛込陣
左より山野, 金戸,
馬淵の各選手。

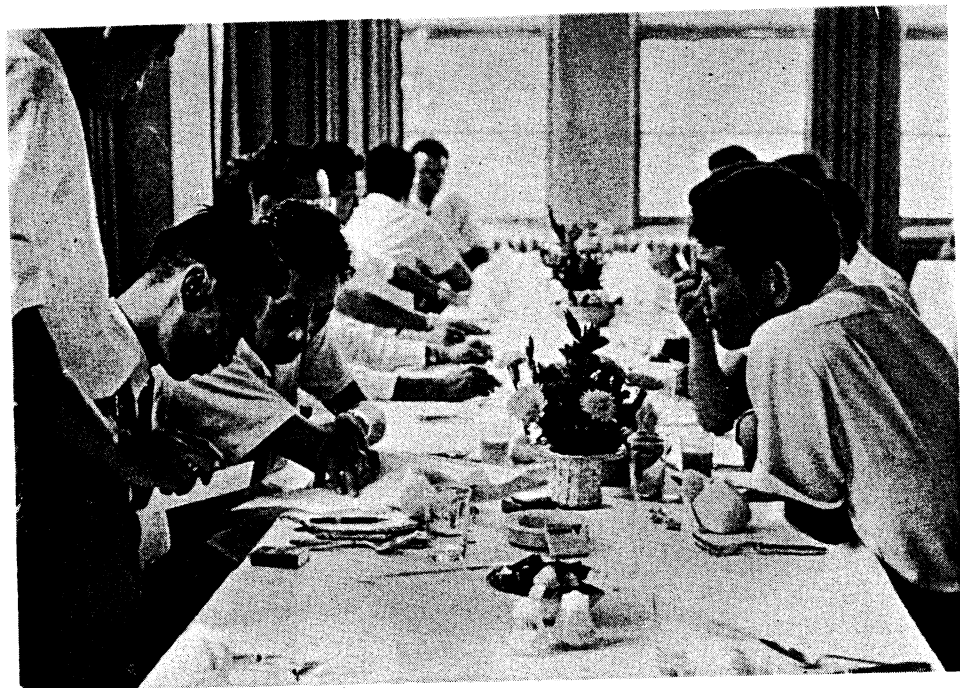
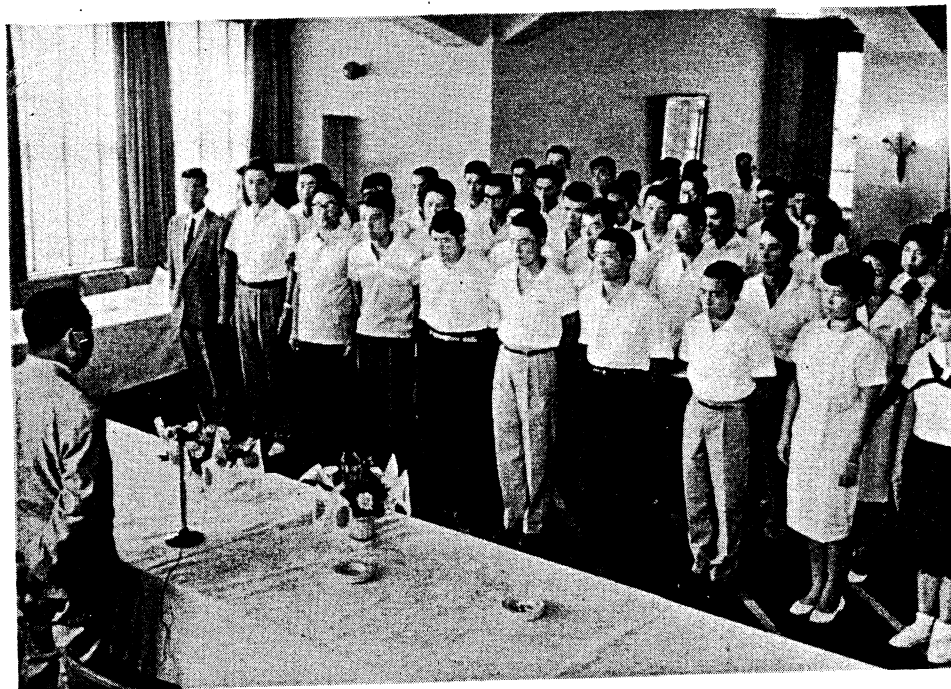
男子飛び板で優勝した金戸選手のフォーム。

女子飛板飛込決勝で表彰を受ける。左より宮本(3等) 渡辺(1等) 津谷(2等)の各選手。

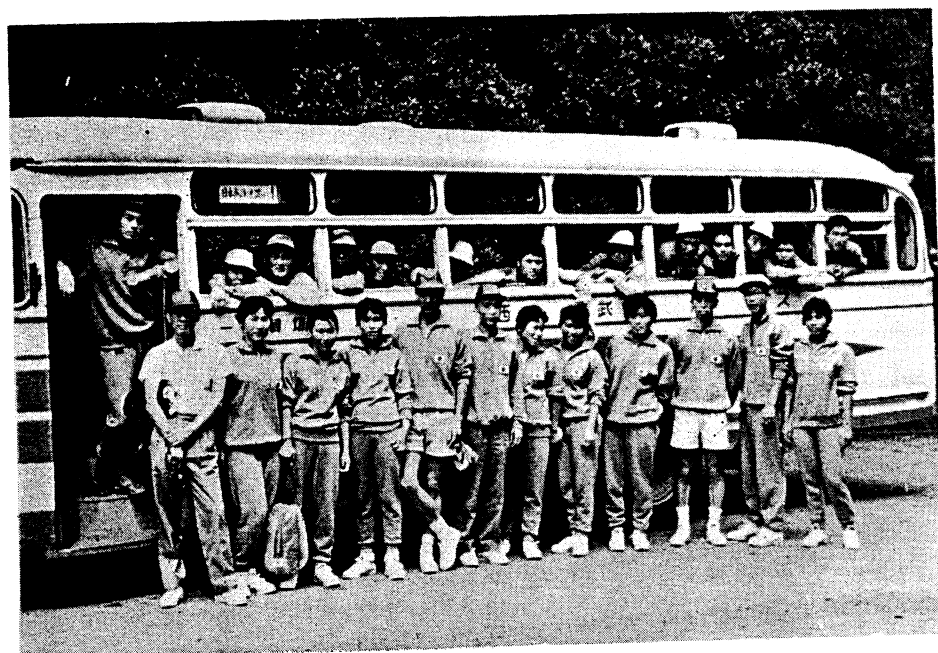


ローマ・オリンピック強化合宿練習風景

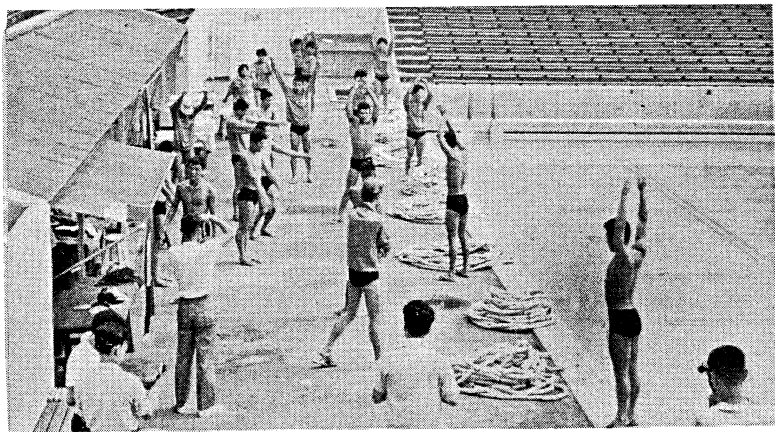
結団式における樋口会長の挨拶
7月25日 山の上ホテル



食事前の作戦会議
左より赤樫, 志村, 太田, 小出の諸氏。
右は山中君。



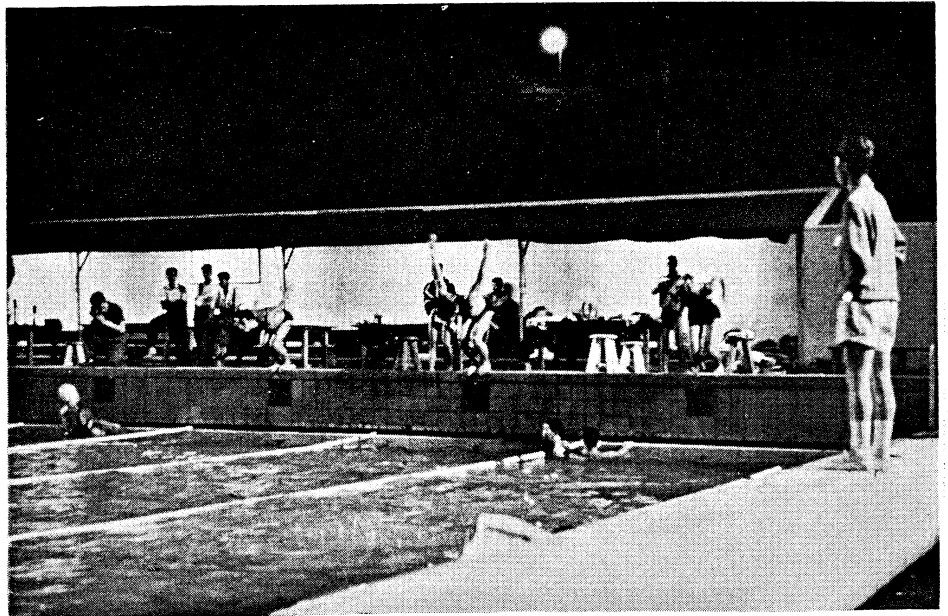
さあ練習だ!
男女競泳チームのせい揃い。



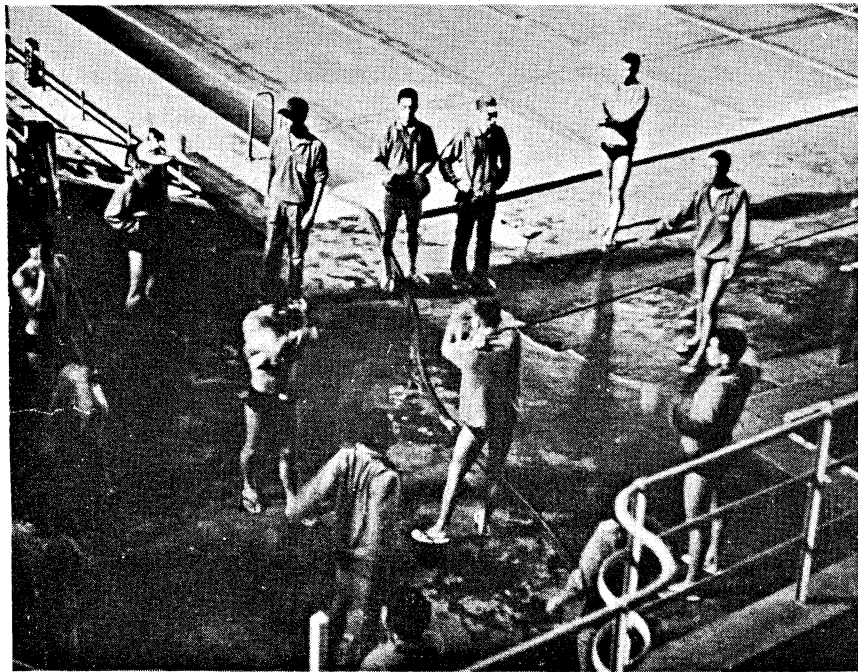
夜間練習 スタート、ダツシユの練習 神宮プール



↑ 準備体操 神宮プール



↓ 夜間練習前の準備体操 神宮プール



↓ バスから下りる代表選手 神宮プール前にて。



日本選手権兼ローマ・オリンピック大会最終予選会

7月22・23・24日

神宮プール (50 m) 公認

男子

100m 自由形 予選

A 組

1 古賀 学 (トヨペット)	59.1
2 杉本 汎史 (桜泳会)	59.3
3 遠藤 陸夫 (法泳会)	59.5
4 後藤 忠治 (桜泳会)	59.9

B 組

1 石原 勝記 (桜泳会)	57.4
2 上田 尚孝 (法泳会)	59.4
3 岡部 幸明 (稲泳会)	1:00.0
4 佐々木 淳 (桜泳会)	1:00.8

C 組

1 松岡 義郎 (桜泳会)	58.7
2 十河 英記 (稲泳会)	59.1
3 富岡 健 (法泳会)	1:00.3

D 組

1 見上 勝紀 (白水会)	59.3
2 中村 良三 (駿台ク)	59.3
3 近藤 至男 (勝村建設)	59.3
4 門口 伯康 (稲泳会)	59.5
5 林 正夫 (聖ポール)	1:00.9

E 組

1 竹本 昭和 (稲泳会)	58.5
2 中谷 庸彦 (白水会)	58.5
3 古川 徹 (三水会)	1:00.0
4 森田 公人 (桜泳会)	1:00.6
5 末永 豪 (法泳会)	1:00.9

F 組

1 福井 清 (稲泳会)	58.1
2 清水 啓吾 (三水会)	58.2

G 組

1 山中 毅 (稲泳会)	58.9
2 池田 芳玄 (天理水協)	59.3
3 柳谷 透 (稲泳会)	1:00.8
4 餅米 清治 (三水会)	1:00.9
5 石津 公男 (桜泳会)	1:00.9

準決勝

A 組

1 石原 勝記 (桜泳会)	56.7
2 清水 啓吾 (三水会)	57.0
3 中谷 庸彦 (白水会)	57.6
4 見上 勝紀 (白水会)	58.3
5 近藤 至男 (勝村建設)	58.8
6 十河 英記 (稲泳会)	59.5

B 組

1 竹本 昭和 (稲泳会)	58.5
2 福井 清 (稲泳会)	58.5
3 杉本 汎史 (桜泳会)	58.7
4 古賀 学 (トヨペット)	58.8
5 中村 良三 (駿台ク)	58.8
6 松岡 義郎 (桜泳会)	58.8
7 池田 芳玄 (天理水協)	1:00.1

決勝

1 石原 勝記 (桜泳会)	57.0
2 清水 啓吾 (三水会)	57.1
3 中谷 庸彦 (白水会)	57.6
4 竹本 昭和 (稲泳会)	58.0
5 杉本 汎史 (桜泳会)	58.1
6 見上 勝紀 (白水会)	58.6
7 福井 清 (稲泳会)	58.7

200m 自由形

予選

A 組

1 石井 宏 (桜泳会)	2:08.8
2 門口 伯康 (稲泳会)	2:11.6
3 後藤 忠治 (桜泳会)	2:14.5
4 講本 昌男 (同志社大)	2:15.3

B 組

1 北原 一彦 (稲泳会)	2:11.6
2 石田 修一 (白水会)	2:13.0
3 池田 芳玄 (天理水協)	2:14.2
4 国分 通男 (法泳会)	2:14.7

C 組

1 清水 啓吾 (三水会)	2:09.3
2 岡部 幸明 (稲泳会)	2:12.3
3 阿部 紀夫 (法泳会)	2:14.0
4 古木 輝巳 (白水会)	2:15.0

D 組

1 丸山 長敏 (BSタイヤ)	2:09.6
2 北畑 昌英 (桜泳会)	2:10.4
3 杉本 汎史 (桜泳会)	2:12.1
4 遠藤 陸夫 (法泳会)	2:12.3
5 山口 安司 (聖ポール)	2:15.5

E 組

1 福井 誠 (八幡製鉄)	2:04.7
2 見上 勝紀 (白水会)	2:12.2
3 森田 公人 (桜泳会)	2:12.7

F 組

1 石原 勝記 (桜泳会)	2:07.6
2 吉村 喜平 (旭化成)	2:11.7
3 林 正夫 (聖ポール)	2:15.8

G 組

1 中谷 庸彦 (白水会)	2:09.6
2 竹本 昭和 (稲泳会)	2:11.8
3 林 利博 (三共理化学)	2:13.5

H 組

1 藤本 達夫 (白水会)	2:05.1
2 松岡 義郎 (桜泳会)	2:10.9
3 富岡 健 (法泳会)	2:14.3
4 鈴木 高行 (聖ポール)	2:14.4

決勝

1 藤本 達夫 (白水会)	2:04.1
2 福井 誠 (八幡製鉄)	2:04.1
3 石原 勝記 (桜泳会)	2:07.4
4 石井 宏 (桜泳会)	2:08.5
5 清水 啓吾 (三水会)	2:08.7
6 中谷 庸彦 (白水会)	2:08.9
7 北畑 昌英 (桜泳会)	2:09.2
8 丸山 長敏 (BSタイヤ)	2:09.2
9 松岡 義郎 (桜泳会)	2:10.8

400m 自由形

予選

A 組

1 丸山 長敏 (BSタイヤ)	4:37.8
1:03.4 2:13.3 3:25.7	
2 国分 通男 (法泳会)	4:45.7
3 竹林 功男 (三水会)	4:47.3

4 坪田 暲 (白水会) 4:49.3
 5 八木清三郎 (桜泳会) 4:51.1

B 組
 1 藤本 達夫 (白水会) 4:32.9
 1:02.3 2:11.0 3:21.6
 2 北畑 昌英 (桜泳会) 4:44.8
 3 坂元 昭紀 (法泳会) 4:46.3

C 組
 1 中坊 昌美 (BSタイヤ) 4:36.4
 1:02.8 2:12.5 3:24.5
 2 松木登八郎 (桜泳会) 4:41.4
 3 古木 輝巳 (白水会) 4:50.2

D 組
 1 石井 宏 (桜泳会) 4:43.0
 1:05.6 2:16.7 3:30.4
 2 佐原 年昭 (白水会) 4:45.3
 3 阿部 紀夫 (法泳会) 4:47.3

E 組
 1 福井 誠 (八幡製鉄) 4:36.2
 1:03.0 2:12.1 3:23.7
 2 B.サイラニ (マニラ) 4:40.7
 3 講本 昌男 (同志社大) 4:43.5
 4 石田 修一 (白水会) 4:51.2
 5 北原 一彦 (稲泳会) 4:51.4

F 組
 1 梅本 利三 (稲泳会) 4:38.5
 1:02.6 2:12.4 3:24.8
 2 吉村 喜平 (旭化成) 4:40.7
 3 庄司 敏夫 (BSタイヤ) 4:43.0
 4 一色 讓 (桜泳会) 4:43.8

G 組
 1 山中 毅 (稲泳会) 4:28.7
 2 藤田 昌計 (伊都高) 4:47.6
 3 徳永 征一 (八幡製鉄) 4:49.7
 4 鈴木 高行 (聖ポール) 4:50.5

決 勝
 1 山中 毅 (稲泳会) 4:20.8
 1:01.2 2:08.0 3:14.6
 2 福井 誠 (八幡製鉄) 4:25.7
 3 藤本 達夫 (白水会) 4:26.5
 4 松木登八郎 (桜泳会) 4:34.3
 5 丸山 長敏 (BSタイヤ) 4:35.3
 6 梅本 利三 (稲泳会) 4:36.2
 7 B.サイラニ (マニラ) 4:38.0
 8 中坊 昌美 (BSタイヤ) 4:43.4

9 吉村 喜平 (旭化成) 4:46.7

1500m 自由形 予 選

A 組
 1 B.サイラニ (マニラ) 18:36.8
 — 2:22.0 3:36.7 4:50.0
 6:04.9 7:19.7 8:34.6 9:50.0 (正式)
 11:04.4 12:20.1 — 14:51.2
 16:07.4 17:23.5
 2 中坊 昌美 (BSタイヤ) 18:47.9
 3 松木登八郎 (桜泳会) 18:48.0
 4 竹林 功男 (三水会) 19:04.7
 5 坂元 昭紀 (法泳会) 19:19.7
 6 佐原 年昭 (白水会) 19:27.7
 7 徳永 征一 (八幡製鉄) 19:31.0

B 組
 1 梅本 利三 (稲泳会) 18:41.2
 1:06.8 2:18.6 3:32.2 4:47.2
 6:02.4 7:17.8 8:33.4 9:49.0 (正式)
 — 12:21.1 — 14:54.9
 — 17:28.0
 2 藤田 昌計 (伊都高) 18:41.5
 — — — —
 — — — 9:49.0 (正式)
 11:05.1 — 13:37.9 —
 16:12.0 —

3 坪田 暲 (白水会) 19:01.6
 4 阿部 紀夫 (法泳会) 19:39.8

C 組
 1 庄司 敏夫 (BSタイヤ) 18:35.9
 1:05.4 2:17.1 3:30.7 4:45.1
 5:59.5 7:14.6 8:30.1 9:46.2 (正式)
 11:02.2 12:18.7 13:39.8 14:51.2
 16:07.5 17:24.0
 2 八木清三郎 (桜泳会) 19:33.8
 3 井原 啓之 (聖ポール) 19:41.2
 4 古木 輝巳 (白水会) 19:55.1

D 組
 1 山中 毅 (稲泳会) 17:52.4
 1:03.9 2:13.7 3:24.3 4:34.3
 5:45.2 6:56.5 8:08.8 9:20.6 (正式)
 10:33.5 11:46.4 12:59.5 14:12.3

15:26.4 16:40.0

2 一色 讓 (桜泳会) 19:08.6
 3 佐々木末昭 (臼杵高) 19:10.6
 4 山崎 恵介 (聖ポール) 19:54.8
 5 吉田 憲司 (弦泳会) 19:54.9

決 勝
 1 山中 毅 (稲泳会) 17:25.0 (世新)
 1:02.5 2:10.6 3:19.4 4:28.4
 5:38.1 6:48.7 7:59.7 9:10.6 (正式)
 10:21.3 11:32.6 12:43.5 13:54.5
 15:05.6 16:16.6
 2 中坊 昌美 (BSタイヤ) 18:17.0
 3 B.サイラニ (マニラ) 18:22.5
 4 松木登八郎 (桜泳会) 18:25.5
 5 梅本 利三 (稲泳会) 18:32.3
 6 藤田 昌計 (伊都高) 18:37.0
 7 庄司 敏夫 (BSタイヤ) 18:45.5
 8 坪田 暲 (白水会) 19:04.7
 9 竹林 功男 (三水会) 19:20.1

800m 正式計時
 松木 9:39.1 梅本 9:42.5
 庄司 9:43.0

100 m 平 泳 予 選

A 組
 1 篠田 博史 (白水会) 1:15.7
 2 山南 宏一 (佐伯鶴城) 1:16.4
 3 篠原 豊 (桜泳会) 1:17.9

B 組
 1 山中 堂志 (白水会) 1:15.2
 2 永井 正員 (桜泳会) 1:15.3
 3 松本健次郎 (佐伯鶴城) 1:17.9

C 組
 1 敷石 義秋 (桜泳会) 1:15.9
 2 福永 恵輔 (日大豊山) 1:17.7
 3 野々村嘉昭 (白水会) 1:18.0
 4 鈴木 紘之 (三水会) 1:18.0

D 組
 1 宮下 宗重 (桜泳会) 1:14.9
 2 中田馨二郎 (白水会) 1:16.3
 3 木村 基 (日産船舶) 1:16.6

E 組
 1 樋口 裕 (白水会) 1:15.6
 2 中村 昌彦 (桜泳会) 1:17.6

F 組		
1 増田 勲(日通)	1:15.2	
2 加藤 浩時(稲泳会)	1:17.1	
3 鈴木 吉孝(八幡製鉄)	1:17.6	
G 組		
1 中川 清(稲泳会)	1:14.1	
2 和氣 統(桜泳会)	1:15.5	
3 黒塚 正機(白水会)	1:17.4	
H 組		
1 大崎 剛彦(稲泳会)	1:14.8	
2 衛藤 孝(桜泳会)	1:17.8	
3 木曾 雄吉(聖ポール)	1:18.0	

準決勝

A 組		
1 中川 清(稲泳会)	1:13.5	
2 宮下 宗重(桜泳会)	1:14.5	
3 山中 堂志(白水会)	1:14.7	
4 和氣 統(桜泳会)	1:15.3	
5 木村 基(日産船舶)	1:15.4	
6 篠田 博史(白水会)	1:15.9	
7 中田馨二郎(白水会)	1:16.8	

B 組		
1 大崎 剛彦(稲泳会)	1:13.2	
2 増田 勲(日通)	1:14.7	
3 永井 正員(桜泳会)	1:14.8	
4 山南 宏一(佐伯鶴城)	1:15.3	
5 敷石 義秋(桜泳会)	1:15.3	
6 樋口 裕(白水会)	1:16.1	
7 加藤 浩時(稲泳会)	1:16.6	

決勝

1 中川 清(稲泳会)	1:12.8	
2 増田 勲(日通)	1:13.2	
3 大崎 剛彦(稲泳会)	1:13.3	
5 永井 正員(桜泳会)	1:13.7	
5 宮下 宗重(桜泳会)	1:14.7	
6 山中 堂志(白水会)	1:16.0	
7 山南 宏一(佐伯鶴城)	1:16.0	

200 m 平泳
予選

A 組		
1 敷石 義秋(桜泳会)	2:43.2	
2 木村 智彦(駿台ク)	2:48.8	
3 福永 恵輔(日大豊山)	2:49.5	
4 黒塚 正機(白水会)	2:49.7	
B 組		
1 榎木俊一郎(桜泳会)	2:46.4	

2 佐藤 行男(稲泳会)	2:46.4	
3 木村 基(日産船舶)	2:46.9	

C 組		
1 樋口 裕(白水会)	2:44.3	
2 加藤 浩時(稲泳会)	2:44.3	
3 篠原 豊(桜泳会)	2:46.1	
4 高木 憲一(旭化成)	2:48.7	
5 木曾 雄吉(聖ポール)	2:49.1	

D 組		
1 山南 宏一(佐伯鶴城)	2:45.1	
2 篠田 博史(白水会)	2:45.7	

E 組		
1 中川 清(稲泳会)	2:43.6	
2 松本健次郎(佐伯鶴城)	2:44.0	
3 中田馨二郎(白水会)	2:47.1	

F 組		
1 永井 正員(桜泳会)	2:43.0	
2 大崎 剛彦(稲泳会)	2:43.7	
3 菊池 満隆(富士鉄釜石)	2:49.3	
4 東 英明(駿台ク)	2:49.4	

G 組		
1 和氣 統(桜泳会)	2:41.8	

H 組		
1 増田 勲(日通)	2:39.6	
2 宮下 宗重(桜泳会)	2:43.2	
3 山中 堂志(白水会)	2:45.3	
4 鈴木 紘之(三水会)	2:48.9	

決勝

1 大崎 剛彦(稲泳会)	2:36.9	
1:15.7 1:56.0 (日新)		
2 増田 勲(日通)	2:39.5	
3 中川 清(稲泳会)	2:41.0	
4 和氣 統(桜泳会)	2:41.2	
5 敷石 義秋(桜泳会)	2:41.6	
6 永井 正員(桜泳会)	2:44.5	
7 宮下 宗重(桜泳会)	2:44.9	
8 樋口 裕(白水会)	2:48.3	
9 松本健次郎(佐伯鶴城)	2:47.9	

100 m バタフライ
予選

A 組		
1 増永 文昭(国士館大)	1:03.3	
2 金城 孝彦(トヨタ自)	1:05.3	
3 小戎 紀一(白水会)	1:05.9	
4 A.H.ハムサイン(マニラ)	1:06.1	
B 組		

1 中島 功(桜泳会)	1:03.2	
2 那須 純哉(聖ポール)	1:04.6	
3 若井 英雄(竜崎一高)	1:06.4	

C 組		
1 開田 幸一(白水会)	1:02.8	
2 上田 紀男(法泳会)	1:05.4	
3 青木 準一(専修大)	1:05.7	
4 芥川己之助(三水会)	1:06.3	
5 岩本 光司(堀川高)	1:06.3	

D 組		
1 富安 守弘(白水会)	1:03.3	
2 F.エリサルデ(マニラ)	1:04.2	
3 武市 啓志(桜泳会)	1:04.7	
4 佐藤 好助(八代高)	1:05.2	
5 小島 英光(法泳会)	1:06.0	

E 組		
1 来栖 寛(天理水協)	1:04.9	
2 丸山 高正(BSタイヤ)	1:05.5	

F 組		
1 井筒 賢造(稲泳会)	1:04.4	
2 三好 恭弘(白水会)	1:04.8	
3 富田 幸人(国士館大)	1:05.3	
4 宮脇 隆史(法泳会)	1:05.9	

G 組		
1 吉無田春男(稲泳会)	1:03.4	

準決勝

A 組		
1 増永 文昭(国士館大)	1:01.5	
2 開田 幸一(白水会)	1:03.3	
3 吉無田春男(稲泳会)	1:03.7	
4 来栖 寛(天理水協)	1:03.8	
5 井筒 賢造(稲泳会)	1:03.9	
6 武市 啓志(桜泳会)	1:04.4	
7 金城 孝彦(トヨタ自)	1:05.1	

B 組		
1 那須 純哉(聖ポール)	1:03.2	
2 F.エリサルデ(マニラ)	1:03.7	
3 佐藤 好助(八代高)	1:03.7	
4 中島 功(桜泳会)	1:03.9	
5 富安 守弘(白水会)	1:04.3	
6 三好 恭弘(白水会)	1:04.3	
7 富田 幸人(国士館大)	1:05.2	

決勝

1 開田 幸一(白水会)	1:01.5	
2 増永 文昭(国士館大)	1:01.9	
3 那須 純哉(聖ポール)	1:02.5	

- 4 吉無田春男 (稲泳会) 1:03.3
- 5 F.エリサルデ (マニラ) 1:03.4
- 6 佐藤 好助 (八代高) 1:04.2
- 7 来栖 寛 (天理水協) 1:04.2

200 m バタフライ

予 選

A 組

- 1 佐藤 好助 (八代高) 2:22.9
- 2 F.エリサルデ (マニラ) 2:30.0
- 3 芥川己之助 (三水会) 2:33.0

B 組

- 1 井筒 賢造 (稲泳会) 2:22.3
- 2 丸山 高正 (BSタイヤ) 2:25.7
- 3 A.H.ハムサイン (マニラ) 2:28.3
- 4 須藤 洋一 (駿台ク) 2:31.1
- 5 杉本 紘一 (法二高) 2:32.3

C 組

- 1 増永 文昭 (国土館大) 2:26.4
- 2 小戎 紀一 (白水会) 2:31.5
- 3 来栖 寛 (天理水協) 2:32.7
- 4 近藤 正博 (駿台ク) 2:33.9

D 組

- 1 三好 恭弘 (白水会) 2:23.3
- 2 吉田 弘 (稲泳会) 2:29.4
- 3 富田 幸人 (国土館大) 2:29.8

E 組

- 1 吉無田春男 (稲泳会) 2:19.4
- 2 富田紀久男 (桜泳会) 2:27.7
- 3 松尾 求 (国土館大) 2:29.7
- 4 富安 守弘 (白水会) 2:30.2
- 5 小島 英光 (法泳会) 2:33.0

F 組

- 1 開田 幸一 (白水会) 2:20.5
- 2 中島 功 (桜泳会) 2:24.7
- 3 長谷川浩造 (八幡製鉄) 2:33.7

G 組

- 1 那須 純哉 (聖ポール) 2:20.3
- 2 上田 紀男 (法泳会) 2:28.1
- 3 武市 啓志 (桜泳会) 2:31.3

決 勝

- 1 吉無田春男 (稲泳会) 2:17.8 (日対)

30.1 1:04.2 1:40.6

- 2 井筒 賢造 (稲泳会) 2:18.9
- 3 那須 純哉 (聖ポール) 2:18.9
- 4 開田 幸一 (白水会) 2:20.6

- 5 増永 文昭 (国土館大) 2:20.6
- 6 佐藤 好助 (八代高) 2:22.1
- 7 三好 恭弘 (白水会) 2:22.5
- 8 丸山 高正 (BSタイヤ) 2:23.8
- 9 中島 功 (桜泳会) 2:26.7

100 m 背 泳

予 選

A 組

- 1 渡辺 和夫 (桜泳会) 1:04.4
- 2 酒井 良明 (BSタイヤ) 1:09.3
- 3 片岡 輝男 (聖ポール) 1:09.9

B 組

- 1 石橋 幸男 (八幡製鉄) 1:07.9
- 2 L.コルテス (マニラ) 1:08.2
- 3 福島 滋雄 (日大豊山) 1:08.3
- 4 古賀 宣樹 (国土館大) 1:08.4

C 組

- 1 中原 紀 (福山高) 1:08.4
- 2 才野 武士 (聖ポール) 1:08.6
- 3 徳武 茂 (白水会) 1:08.8

D 組

- 1 広瀬 俊之 (成城大) 1:08.3
- 2 勝又 完一 (駿台ク) 1:09.2
- 3 高嶺 隆二 (三水会) 1:09.5
- 4 舟橋 淑行 (稲泳会) 1:10.9
- 5 中田 尹 (白水会) 1:11.6

E 組

- 1 長谷 景治 (倉敷レ) 1:06.7
- 2 藤原 浩 (法泳会) 1:09.5
- 3 中島 勝昭 (駿台ク) 1:10.9

F 組

- 1 富田 一雄 (桜泳会) 1:06.6
- 2 国清 勲 (稲泳会) 1:08.9
- 3 大滝 正勝 (駿台ク) 1:09.5
- 4 坂口 達也 (白水会) 1:11.1

準 決 勝

A 組

- 1 渡辺 和夫 (桜泳会) 1:04.8
- 2 長谷 景治 (倉敷レ) 1:05.7
- 3 中原 紀 (福山高) 1:07.5
- 4 L.コルテス (マニラ) 1:07.6
- 5 勝又 完一 (駿台ク) 1:08.7
- 6 徳武 茂 (白水会) 1:09.3

B 組

- 1 富田 一雄 (桜泳会) 1:05.7
- 2 石橋 幸男 (八幡製鉄) 1:07.0

- 3 福島 滋雄 (日大豊山) 1:08.2
- 4 国清 勲 (稲泳会) 1:08.2
- 5 古賀 宣樹 (国土館大) 1:08.5
- 6 才野 武士 (聖ポール) 1:08.5
- 7 酒井 良明 (BSタイヤ) 1:09.7

決 勝

- 1 渡辺 和夫 (桜泳会) 1:05.0
- 2 富田 一雄 (桜泳会) 1:05.0
- 3 長谷 景治 (倉敷レ) 1:05.2
- 4 L.コルテス (マニラ) 1:07.0
- 5 中原 紀 (福山高) 1:07.4
- 6 石橋 幸男 (八幡製鉄) 1:07.6
- 7 福島 滋雄 (日大豊山) 1:08.8

200 m 背 泳

予 選

A 組

- 1 富田 一雄 (桜泳会) 2:29.9
- 2 徳武 茂 (白水会) 2:32.2
- 3 高木 忠之 (稲泳会) 2:33.5
- 4 藤原 浩 (法泳会) 2:33.7
- 5 中島 勝昭 (駿台ク) 2:35.0

B 組

- 1 中原 紀 (福山高) 2:28.4
- 2 L.コルテス (マニラ) 2:30.4
- 3 高嶺 隆二 (三水会) 2:30.7
- 4 勝又 完一 (駿台ク) 2:33.1

C 組

- 1 石橋 幸男 (八幡製鉄) 2:28.6
- 2 大滝 正勝 (駿台ク) 2:30.5
- 3 坂口 達也 (白水会) 2:31.7

D 組

- 1 才野 武士 (聖ポール) 2:27.9
- 2 広瀬 俊之 (成城大) 2:28.3
- 3 舟橋 淑行 (稲泳会) 2:35.3

E 組

- 1 渡辺 和夫 (桜泳会) 2:26.9
- 2 福島 滋雄 (日大豊山) 2:28.8
- 3 酒井 良明 (BSタイヤ) 2:29.6
- 4 森江 重雄 (法泳会) 2:38.9

F 組

- 1 古賀 宣樹 (国土館大) 2:28.5
- 2 国清 勲 (稲泳会) 2:28.5
- 3 片岡 輝男 (聖ポール) 2:33.6

決 勝

- 1 渡辺 和夫 (桜泳会) 2:24.9
- 2 古賀 宣樹 (国土館大) 2:26.2

3 才野 武士 (聖ポール)	2:26.5
4 広瀬 俊之 (成城大)	2:26.9
5 国清 勲 (稲泳会)	2:27.3
6 福島 滋雄 (日大豊山)	2:27.8
7 酒井 良明 (BSタイヤ)	2:28.1
8 石橋 幸男 (八幡製鉄)	2:28.7
9 中原 紀 (福山高)	2:29.0

(番外) 400m メドレーリレー

4:30.7 (マニラ)

(コルテス, サロソ, エリサルデ, サイラニ)

女子

100m 自由形
予選

A 組

1 神野 眸 (愛知淑徳)	1:09.1
2 島田 節子 (東洋レ)	1:10.5
2 殿上 玲子 (成女ク)	1:11.9

B 組

1 江坂 君子 (椋山女学)	1:08.3
2 芝原 笑子 (天理水協)	1:09.7
3 島川 浩子 (二階堂高)	1:12.8

C 組

1 和田 映子 (天理水協)	1:09.2
2 中沖 滋代 (成女ク)	1:09.6
3 大高 幸子 (東洋レ)	1:10.1

D 組

1 佐藤 喜子 (天理水協)	1:05.1
2 窪 美代子 (旭化成)	1:08.8

準決勝

A 組

1 和田 映子 (天理水協)	1:08.2
2 佐藤 喜子 (天理水協)	1:08.3
3 芝原 笑子 (天理水協)	1:08.6
4 窪 美代子 (旭化成)	1:08.6
5 島田 節子 (東洋レ)	1:10.4

B 組

1 神野 眸 (愛知淑徳)	1:08.6
2 坂江 君子 (椋山女学)	1:08.7
3 中沖 滋代 (成女ク)	1:09.4
4 大高 幸子 (東洋レ)	1:10.2
5 殿上 玲子 (成女ク)	1:13.1

決勝

1 佐藤 喜子 (天理水協)	1:05.5
2 和田 映子 (天理水協)	1:07.9

3 神野 眸 (愛知淑徳)	1:08.0
4 江坂 君子 (椋山女学)	1:08.6
5 芝原 笑子 (天理水協)	1:08.6
6 中沖 滋代 (成女ク)	1:09.3
7 窪 美代子 (旭化成)	1:10.6

200m 自由形
予選

A 組

1 大高 幸子 (東洋レ)	2:40.0
2 殿上 玲子 (成女ク)	2:41.1
3 西岡佐代子 (帝塚山短大)	2:47.0
4 川村 ヨネ (白木屋)	2:49.8

B 組

1 佐藤 喜子 (天理水協)	2:39.3
2 島川 浩子 (二階堂高)	2:41.1

C 組

1 芝原 笑子 (天理水協)	2:38.8
2 窪 美代子 (旭化成)	2:39.8
3 島田 節子 (東洋レ)	2:42.3

決勝

1 佐藤 喜子 (天理水協)	2:24.7
2 窪 美代子 (旭化成)	2:30.7
3 芝原 笑子 (天理水協)	2:31.7
4 大高 幸子 (東洋レ)	2:38.1
5 島川 浩子 (二階堂高)	2:38.5
6 島田 節子 (東洋レ)	2:38.9
7 殿上 玲子 (成女ク)	2:39.2
8 西岡佐代子 (帝塚山短大)	2:45.8

400m 自由形
予選

A 組

1 虎野 昭子 (帝塚山高)	5:24.3
2 平山 礼子 (旭化成)	5:34.9
3 石渡 雅子 (椋山学園)	5:45.3

B 組

1 芝原 笑子 (天理水協)	5:20.2
2 宮井 洋子 (旭化成)	5:38.5
3 浅沼はる美 (横浜学園)	6:10.9

C 組

1 高野 洋子 (淑徳高)	5:47.1
3 寺井 貴子 (ロート製薬)	5:51.3
3 藤井 広子 (二階堂高)	6:07.8

決勝

1 芝原 笑子 (天理水協)	5:19.7
2 虎野 昭子 (帝塚山高)	5:30.5
3 平山 礼子 (旭化成)	5:34.8

4 石渡 雅子 (椋山学園)	5:36.1
5 宮井 洋子 (旭化成)	5:42.9
6 高野 洋子 (淑徳高)	5:44.3
7 寺井 貴子 (ロート製薬)	5:54.9

800m 自由形
予選

A 組

1 虎野 昭子 (帝塚山高)	11:40.0
2 石渡 雅子 (椋山学園)	11:52.2
3 宮井 洋子 (旭化成)	12:05.7
4 林 尚子 (成女ク)	12:42.8
5 藤井 宏子 (二階堂高)	12:54.5

B 組

1 平山 礼子 (旭化成)	11:43.6
2 高野 洋子 (淑徳高)	12:02.4
3 和田多恵子 (天理水協)	12:18.2
4 寺井 貴子 (ロート製薬)	12:33.8

決勝

1 虎野 昭子 (帝塚山高)	11:15.5
2 平山 礼子 (旭化成)	11:32.2
3 石渡 雅子 (椋山学園)	11:40.5
4 高野 洋子 (淑徳高)	11:47.6
5 宮井 洋子 (旭化成)	11:56.5
6 寺井 貴子 (ロート製薬)	12:04.8
7 和田多恵子 (天理水協)	12:15.1
8 林 尚子 (成女ク)	12:33.8

1000m 平泳
予選

A 組

1 青木 幸子 (東洋レ)	1:25.8
2 山崎 幸子 (成女ク)	1:28.0
3 西田千穂子 (旭化成)	1:30.8
4 河合 和美 (淑徳高)	1:31.0
5 古賀 春恵 (日本女大)	1:32.0

B 組

1 村島伊志乃 (白木屋)	1:31.8
2 松谷 淑子 (日本生命)	1:39.1

C 組

1 高松 好子 (天理水協)	1:22.4
2 那知 宏子 (二階堂高)	1:32.4
3 矢野 迪子 (東洋レ)	1:32.4
4 水本 栄子 (成徳ク)	1:32.8

D 組

1 山本 憲子 (筑紫女学)	1:27.5
2 田中 清恵 (天理水協)	1:29.7
3 秋山 幸子 (成女ク)	1:35.7

準決勝

A組

- 1 山本 憲子 (筑紫女学) 1:29.2
- 2 高松 好子 (天理水協) 1:29.3
- 3 田中 清恵 (天理水協) 1:29.9
- 4 古賀 春恵 (日本女大) 1:30.7
- 5 河合 和美 (淑徳高) 1:31.1
- 6 矢野 迪子 (東洋レ) 1:31.6
- 7 秋山 幸子 (成女ク) 1:35.0

B組

- 1 山崎 幸子 (成女ク) 1:27.7
- 2 青木 幸子 (東洋レ) 1:29.9
- 3 西田千穂子 (旭化成) 1:31.0
- 4 水本 栄子 (成徳ク) 1:31.5
- 5 村島伊志乃 (白木屋) 1:32.1
- 6 那知 宏子 (二階堂高) 1:32.2

決勝

- 1 高松 好子 (天理水協) 1:23.0
- 2 山崎 幸子 (成女ク) 1:25.9
- 3 青木 幸子 (東洋レ) 1:26.3
- 4 山本 憲子 (筑紫女学) 1:26.5
- 5 田中 清恵 (天理水協) 1:29.3
- 6 西田千穂子 (旭化成) 1:29.7
- 7 古賀 春恵 (日本女大) 1:31.5

200m 平泳

予選

A組

- 1 西田千穂子 (旭化成) 3:09.1
- 2 矢野 迪子 (東洋レ) 3:12.3
- 3 那知 宏子 (二階堂高) 3:12.4
- 4 水本 栄子 (成徳ク) 3:17.8

B組

- 1 青木 幸子 (東洋レ) 3:03.1
- 2 山本 憲子 (筑紫女高) 3:09.9
- 3 古賀 春恵 (日本女大) 3:17.6
- 4 秋山 幸子 (成女ク) 3:17.7

C組

- 1 田中 清恵 (天理水協) 3:11.0
- 2 河合 和美 (淑徳高) 3:11.9
- 3 村島伊志乃 (白木屋) 3:17.6

D組

- 1 高松 好子 (天理水協) 2:55.6
- 2 山崎 幸子 (成女ク) 3:12.8

決勝

- 1 高松 好子 (天理水協) 2:53.6
- 2 青木 幸子 (東洋レ) 3:03.2

- 3 山本 憲子 (筑紫女高) 3:06.1
- 4 西田千穂子 (旭化成) 3:07.5
- 5 山崎 幸子 (成女ク) 3:08.0
- 6 田中 清恵 (天理水協) 3:09.5
- 7 河合 和美 (淑徳高) 3:09.8
- 8 矢野 迪子 (東洋レ) 3:12.2
- 9 那知 宏子 (二階堂高) 3:14.3

100m 背泳

予選

A組

- 1 松永 涼子 (天理水協) 1:21.3
- 2 江原紀久子 (東洋レ) 1:23.6
- 3 山本 淳子 (帝塚短大) 1:25.4
- 4 社本 良江 (淑徳高) 1:25.7

B組

- 1 四本 博美 (旭化成) 1:21.8
- 2 林 かほり (淑徳高) 1:24.9
- 3 山中サカエ (成徳ク) 1:26.2
- 4 田辺 絢子 (二階堂高) 1:27.2
- 5 小池 久子 (白木屋) 1:29.2

C組

- 1 田中 聰子 (筑紫女学) 1:13.8
- 2 中島 孝子 (横浜学園) 1:23.5
- 3 佐藤 礼子 (白木屋) 1:25.3
- 4 田淵 恵子 (日本生命) 1:35.8
- 5 浜岡 育美 (二階堂高) 1:28.3
- 6 望月三枝子 (成女ク) 1:29.2

決勝

- 1 田中 聰子 (筑紫女学) 1:12.6 (日新)
- 2 四本 博美 (旭化成) 1:17.7
- 3 松永 涼子 (天理水協) 1:18.8
- 4 中島 幸子 (横浜学園) 1:22.5
- 5 林 かほり (淑徳高) 1:23.6
- 6 江原紀久子 (東洋レ) 1:23.8
- 7 佐藤 礼子 (白木屋) 1:24.4

200m 背泳

予選

A組

- 1 四本 博美 (旭化成) 2:52.3
- 2 田淵 恵子 (日本生命) 3:04.8
- 3 山中サカエ (成徳ク) 3:05.4
- 4 佐藤 礼子 (白木屋) 3:06.8
- 5 浜岡 育美 (二階堂高) 3:09.9

B組

- 1 田中 聰子 (筑紫女学) 2:46.4

- 2 中島 孝子 (横浜学園) 2:57.3
- 3 田辺 絢子 (二階堂高) 3:06.7
- 4 小池 久子 (白木屋) 3:07.9
- 5 社本 良江 (淑徳高) 3:08.2

C組

- 1 松永 涼子 (天理水協) 2:52.4
- 2 江原紀久子 (東洋レ) 2:59.6
- 3 林 かほり (淑徳高) 3:01.5
- 4 山本 淳子 (帝塚短大) 3:07.5
- 5 望月三枝子 (成女ク) 3:15.5

決勝

- 1 田中 聰子 (筑紫女学) 2:33.3 (世新)
- 2 四本 博美 (旭化成) 2:47.7
- 3 松永 涼子 (天理水協) 2:50.9
- 4 中島 孝子 (横浜学園) 2:56.9
- 5 江原紀久子 (東洋レ) 2:58.8
- 6 林 かほり (淑徳高) 2:59.0
- 7 田淵 恵子 (日本生命) 3:04.5
- 8 山中サカエ (成徳ク) 3:09.8
- 9 田辺 絢子 (二階堂高) 3:09.8

100m バタフライ

予選

A組

- 1 松中佐江子 (帝塚短大) 1:13.7
- 2 森下多恵子 (天理水協) 1:20.4
- 3 片岡 幸子 (日本生命) 1:21.8
- 4 宮原真紀子 (白木屋) 1:27.5
- 5 中村 靖子 (二階堂高) 1:29.5

B組

- 1 宮部シズエ (天理水協) 1:17.8
- 2 黒田 栞子 (二階堂高) 1:18.9
- 3 山口美江子 (成女ク) 1:26.2
- 4 斎藤フサエ (沼田女高) 1:51.4

決勝

- 1 宮部シズエ (天理水協) 1:13.4
- 2 松中佐江子 (帝塚山短大) 1:14.5
- 3 黒田 栞子 (二階堂高) 1:18.3
- 4 森下多恵子 (天理水協) 1:20.0
- 5 片岡 幸子 (日本生命) 1:22.0
- 6 山口美恵子 (成女ク) 1:25.8
- 7 宮原真紀子 (白木屋) 1:26.1

200m バタフライ

予選

A組

- 1 黒田 栞子 (二階堂高) 2:55.2

2 松中佐江子 (帝塚短大)	3:01.1
3 森下多恵子 (天理水協)	3:06.4
B 組	
1 宮原真紀子 (白木屋)	3:10.6
2 片岡 幸子 (日本生命)	3:13.3
3 宮部シズエ (天理水協)	3:18.8
4 中村 靖子 (二階堂高)	3:21.2

決 勝

1 松中佐江子 (帝塚短大)	2:48.8
2 黒田 梶子 (二階堂高)	2:51.5
3 森下多恵子 (天理水協)	2:58.8
4 片岡 幸子 (日本生命)	3:07.2
5 宮原真紀子 (白木屋)	3:10.1
6 中村 靖子 (二階堂高)	3:15.9

男子飛板飛込

決 勝

1 山野外嗣夫 (北陸軽金属)	134.60
2 金戸 俊介 (桜泳会)	131.19
3 馬淵 良 (長野電鉄)	119.75
4 坂本章八 (ミツヤ送風機)	119.61
5 田原 和夫 (桜泳会)	117.61
6 中島 貞夫 (桜泳会)	117.19

男子高飛込

決 勝

1 金戸 俊介 (桜泳会)	141.05
2 山野外嗣夫 (北陸軽金属)	135.44
3 馬淵 良 (長野電鉄)	129.13
4 中島 貞夫 (桜泳会)	125.26
5 田原 和夫 (")	124.30
6 三石 忠雄 (白水会)	119.99

女子飛板飛込

決 勝

1 渡辺久美子 (リッカー)	120.69
2 津谷鹿乃子 (倉敷レ)	115.05
3 宮本まさみ (金沢市教委)	102.96
4 友江嘉代子 (日本生命)	100.38
5 石黒のぶよ (帝塚山短大)	98.10
6 葛目千鶴子 (日体大)	96.16

女子高飛込 決 勝

1 津谷鹿乃子 (倉敷レ)	79.85
2 渡辺久美子 (リッカー)	62.24
3 宮本まさみ (金沢市教委)	62.80
4 小野ゆかり (東女体短大)	53.73
5 石里のぶよ (帝塚山短大)	58.36
6 友江嘉代子 (ダンロップ)	53.52

“ 新人現わる ”

オリンピックを前にして“新人出現”の期待に応えるもののように期待に背かぬ新人が現れた。井筒、中坊の両君である。その外中川、敷石、松木の諸君は惜しくもオリンピック代表の選に洩れはしたが、これまた新人中の新人と言つて差支えなからう。とりわけ前記両君はまさに“忽然”と言つても既に高校時代から相当の実績を示してはいたもののベテランを押へての若武者振りは見事というほかはない出来であつた。井筒君は、予選、準決勝とうなぎのぼりに記録をあげ、決勝ではベテラン開田、那須、増永君らを退けて2:18.9という予想外(ではない?)の大記録を出して見事2着、審判台はもち論、スタンドをうならせた力量はまことに頼もしい限りである。若さ程恐しいものはないというが、どうかその意気でローマでの活躍をお願い致したい。

中坊君は高校時代からその片鱗をみせてはいたが、決勝のあのファイトは山中君をしのぐかと思われた馬力を見せコーチ陣をすっかり喜ばせた。もち論泳法はまだ荒けつりの感はあり、ベースの配分もいまだしの感はあるがこれからの伸びは十分期待できよう。オリンピックは若人の祭典である。水泳チームは全員若々しくそして健康に満ちあふれている。老成振った感じがないことは何と言つても頼もしい。諸君の若さと健闘をローマは期待している。

— (編集氏) —

“ プールサイドから ”

オリンピックは参加することに意義があるというが、選ばれたスポーツマンにとってこれは巻頭言であることは今更言を俟たないことであろう。

そこでローマの空高く再び感激の日章旗をと願うのは水泳関係者のみならず日本国民全部の卒直な気持であろう。にも拘わらず終戦以来の日本水泳界はあの古橋君らの溜飲をさげた大活躍以来一進一退、ミサイル、ロケットの宇宙時代とはいへ豪、米、ソ連等の飛躍的な抬頭を「アレヨ」とみる時期の如何に多かつたことか。となげいていたのもつかの間、超人山中君の出現によって、日本製ロケットが生れわれわれの溜飲を既往に戻してくれたことは文字通り救世主の再来の感があった。ところで、ミサイルと言ひロケットと言うも今や“人間”の考えることであり、人智の無限を思い知らされたと言つても言いすぎでないとするれば、同様スポーツの世界でも可能性の無限大を極わめ得たとしても決してわれわれの夢の実現にマイナスにはならないであろう。余り希望に過ぎるとそれは人智と体力の“無限大十有限”

= 公約数十 ……? になる可能性もあるので、この辺で閑話は休題としなければならない。ともかくローマは一朝にしてならずとか、先人の築いた伝統と成果を積年の研鑽と努力の上に大方の期待に代えて頂きたいと念ずるばかりである。

— (水泳氏) —

三大学対抗水上戦をみて

胡 麻 鶴 寿

第25回日・立・明三大学水上は6月12日快晴に恵まれて神宮プールで行なわれた。気温22度、水温20.5度はシーズンはじめとしては上々のコンディション。スタンドは満員の約1万人が入り好記録を期待してかたずをのんだが、九種目中大会新記録が四つ出ただけでローマ・オリンピックの開催を目前にしては不作の大会に終始してしまった。プールサイドの新聞記者席は「あと書き(競技評)をどうしよう。オリンピックの年というのに寂しい大会だったなあ」と、あちこちでこぼしていたほど、満足できる種目はなかった。記録への挑戦を期待されていたバタフライの那須(立)をはじめ自由形短距離の石原(日)、平泳の新人敷石(日)は予想外の不出来だった。伝統ある日本水上界の再建のためにもプログラムを追って各選手の奮起をうながしたい。

〔400mメドレーリレー〕背泳に富田、平泳に新人衛藤、バタフライに小兵の武市、自由形に後藤を配した日大が4分30秒2で楽勝した。第一泳者の富田は1分7秒4で衛藤にスイッチ。平泳の衛藤は1分16秒5もかかって2分23秒9で武市に継いだ。すでに日大の独泳体勢。しかしバタフライの武市は1分5秒3、自由形の後藤は61秒をついやし後半は日大が図抜けて強いといった印象を与えただけ、喜こんでいたのはスタンドをぎっしりうめていた日大応援団だった。メドレーは個人種目でないため第一線級がそろって顔を出さなかったのが低調だったともいえるが、つぎの800m自由形は石井、松木(日)を除いて他の七選手が10分をも切れない不作。松木は昨年の日本高校(浜松)で一躍腕をあげ脚光を浴びた選手だが、本年の室内選手権では振わず入賞できなかった。しかし本大会での松木は定評のあるオーソドックス泳法でコンスタントな経過をたどり自己最高の9分51秒1を出した。世界的に見ればまだまだ満足できるタイムではないが未知数の、昇り調子の選手だけにスプリントがつ

けば、人材不足気味の日本自由形長距離陣にあってホープとなることは必定。石井(日)は200を捨て800に出場したが、村上監督の“石井起用”は見事成功したと思う。というのはこうだ。記者は大会前日日大プールで石井の練習を見た。そのとき感じたのだが、石井のビートの物凄く強いこと。400を軽く6分切った。富田主将は『200が強くなり2分7秒前後は楽』と石井を評していたが、記者は“オリンピックを考えればインターバル練習で自然スプリントもつく(記者一人の考えかも知れないが)ことだから200に強くなった石井を800に出し耐久力の養成を計ったほうがよさそうだなあ”と思った。その考えがズバリだったわけ。

事実石井は100を1分6秒3ついで2分16秒7、3分28秒7、4分41秒8、5分55秒0、7分8秒7、8分22秒6とインターバル練習の効果を十分現わすラップタイムで泳ぎ9分35秒9の大会新記録を出した。

プールから上った石井は『からだ細いので水温が冷たく感じ、後半苦しかった』といいながら「寒さをがまんしたので頭がジンジンする」と目の斜め上を両腕で押えながらもんでいたが、20度のつめたい(石井自身はそうだった)水温を克服し昨年本大会で出した自己の記録を3秒上回ったことは今後の大会で400をねらうためにも成功だったといえよう。

〔200m自由形〕焦点は石原(日)。100を60秒8で回り後半の力泳を期待したが2分8秒1の大会新記録にとどまっただけ。いままでの国内記録から見て山中(早)藤本(中)福井(八幡製鉄)の3人は欠くことができない日本チームのリレー要員となっているが、あとの1人が2分8秒前後でモタ、モタしてるようでは豪州を破ってローマで日章旗をあげるの不可能になりかねない。石原のようなピッチ泳法を武器とした短距離泳者が200でもっと強くなればローマは鬼に金棒だが……。そ

ういゑば短距離泳者の200が弱くなつたとはとくに目につく。“東京”といわず“ローマ”を目指して短距離陣はリレーのためにも一本針をさして欲しい。

〔200m バタフライ〕 昨年の日米対抗でドン、ドン腕をあげ2分17秒8の日本記録までものにした那須(立)が3位に落ちる大番狂わせがあった。あまりの不調さに山田監督も不思議そう。練習中那須は再三2分20秒を切っていたからである。レースは前半那須がリードを奪い100のラップは1分8秒9の遅いペースでターン、150では中島、富田(日)が追い込みを見せ那須とほとんど同時に回った。最後の50は、楽勝と見られていた那須が43秒もついやしたため結局富田が2分24秒5で優勝、中島も力泳してタッチ差の2分24秒8で2位に食い込んだ。那須は大分遅れて2分28秒0で3位。那須が低調に終わったのは泳ぎがアン・バランスだったためである。那須はストロークとビートの大きいピッチのあがらないフォームだが、昨年の好調当時は第一ビートの前進力といい、第二ビートからストロークへの動作の引きづぎは実にスムーズで足の強さはひととき目立ったものだった。それが本大会ではビートの威力が全くカゲをひそめてしまった。ビートは前進力の七割をしめる働きをするもの。強いて那須に苦言すれば早く自信をとりもどして昨年のように奮気を望むの一言だけ。自信さえつければ那須はやはりローマ・オリンピックのホープである。

〔100m 背泳〕 世界記録がモンクトン(豪州)の1分1秒5、日本記録が長谷景治(早)の1分4秒0、記録の開きがあまりにもあり過ぎるようローマでは不名誉ながら入賞すら望めそうもない現状。新鋭陣の躍進を期待したが、ベテラン富田(日)が1分6秒3の大会新記録で優勝をさらひ新鮮味が依然なかった。渡辺(日)が1分7秒6で、勝又(明)が1分8秒5をマークしたが、いづれもあと“二押し”の努力が必要だろう。

〔200m 平泳〕 「新人敷石が40秒ソコ、ソコか切るかも知れんぞ」と下馬評は上々だったが、予想通り優勝したものの2分43秒9の大会タイ記録に終わった。敷石の100ラップタイムは1分18秒8もかかっている。泳ぎはさほど欠点が見られなかったが、もっとも簡単な呼吸法がまづい。呼吸するごとに肩の線まで浮きあがり、アゴを出し過ぎていたが、アゴをひいたままごく自然に呼吸

してビートを前進力に集中するようなフォームになれば力のロスがなくなると思った。それにスプリントをつけることだろう。2位宮下(日)3位和氣(日)はそれぞれ2分45秒8、2分46秒2の記録を出したがまあ、まあといったところ。

〔400m 自由形〕 石井(日)が50を45から47のピッチ泳法で力泳したが4分37秒1の平凡な記録にとどまった。800を泳いで1時間20分の余裕があったのに……。新人松木(日)は4分41秒3で800自同様2位に入った。この種目は過去オリンピックで苦杯をなめているだけにもっとがんばらなくてはこれからも“日本の苦手は400自由形”になりかねない。

〔100m 自由形〕 ①石原(日)57秒7、②杉本(日)58秒7、③中村(明)59秒9、④清水(立)59秒9、⑤森田(日)60秒5、⑥山口(立)60秒5。世界は54秒台に突入して覇を争おうといった飛躍をたどっているのに57秒台の優勝ではオリンピックで予選通過も困難だろう。石原は目下57秒台をコンスタントにマークしてきたが、1秒上回る56秒台を出して後進のためにもカツを入れて欲しかった。“4位までが1分を切った”など選手層をいわず、質の向上を実現しなければお先き真暗である。

〔800m リレー〕 日大の松木、石原、杉本、石井トリオが8分41秒7の大会新記録を出して楽勝した。個々の所要時間は松木2分12秒2。石原2分9秒0、杉本2分11秒7石井2分8秒8。この記録から判断したところオリンピックのリレー要員に必要な人材はなさそうだ。

〔総体的に見たまま〕 午後四時ごろから背広を着ないと寒いほどの冷風に災いされ、後半のレースが低調になった。好記録が生まれなかった理由をプールコンディションに持って行けばそれまでだが、各選手ともどんな条件に直面しても耐えることの“練習”という過程を過しているはず。自分の不調だった原因を今一度考えて見るべきだろう。期待された各種目の選手が、石井の800を除き不調をかこつたことを忘れず、にがひ経験を次大会にプラスさせてローマ・オリンピックの代表権獲得を目標に水になじんでもらいたい。

(筆者は読売新聞社運動部々員)

「第5回日中大対抗戦をみて」

大 場 浩 一

日大対中大戦も5年の歴史を持つ対抗戦に成長した。ことしはとくに中大の充実が伝えられ、事実室内選手権の成績を見ても各選手の整調がうまくいけば、勝てないまでもかなりの好勝負になると期待されていた。だがレースが始まると、日大は一週間前の三大学で実成をたたいた強味を発揮して徐々に水をあげ、簡単に五連勝してしまった。当日は早慶、三大学当時とは打って変わってからりと晴れ上がり、気温25度半、水温23度という好コンディション。記録的にも大きな期待をかけられたのだが、14の大会新が生まれただけで、ローマで通用しそうな快記録は出なかった。これは新鋭が成長過程にあること、素質のいい藤本以下の中大選手が屋外の最初のレースということ意識しすぎて持てる力をフルに発揮できなかった面を考慮に入れても物足りない。200・400の藤本、平泳の敷石(日)らの積極的なレースぶりには好感は持てたが、他の種目には何か一本筋金通っていない感じで、たくましさ不足しているとみるのは、筆者が貪欲なのだろうか。高姿勢で決めつける趣味の持ち合わせはないが、スプリンターをそろえた100自由で、57秒合が石原(日)1人という低調さはいまの日本の水泳界の現況を端的に物語っている。谷(早大)が56秒4の日本新を出したのは6年前、4年前のメルボルン五輪大会ではヘンリックス、デビットがすでに55秒合で泳いでいる。今季世界で56秒の大台を破った選手はすでに6人、その中にはブラシルの選手も含まれている。ヘルシンキの57秒からメルボルンの55秒合へと世界の短距離界は大きく躍進した。そしてメルボルンからローマへ……。舞台は回るわけだが、日本のスプリンターに前進が見られないのは、どういうことなのだろう。一昨年来日したデビット、チャプマンらの豪州選手、昨年来日の米国選手と比較して、素人でもわかることは日本選手のビートの水しぶきはげしさである。外人選手は水中の深いところでビートを利かしているので、水しぶきはあがらない。水面近い浅い位置と深い位置のビートの効果はいまさら採り上げるまでもあるまい。その上日本選手には前半を26秒そこそこではいるだけの積極さも見られない。中大の中谷、見上は有望なスプリンターとして期待された選手だが、練習法が悪いのか、足踏みを続けている。石原は57秒合をコンスタントにして三大学の優勝タイムを0秒1短縮、57秒5までこぎつけたが、積極的なレースを心がけない限り大き

な飛躍は望めない。前半の出足の研究が課題だが、フォームにとられるのか肩に力がいりすぎている。200・400は藤本に石井(日)が挑戦したのが注目されたが、200は100の4m、400は300の6m差をわずかにつめたにすぎず、国際的なレベルから見れば採り上げるほどのタイムではない。藤本が積極的なレースを続ける限り、福井(八幡製鉄)とともに山中の補佐役は十分とまるが、後半のラップの落ち方がひどい。石井ほどの激しい斗志を持って欲しい。自分のペースで泳げば800リレーでも追うものの強みで日大のアンカー石原をとらえることはできたはずである。石井は意欲的なレースを見せたが、優勝の松木(日)とともに非力の感は免れない。石井は気が強いのか、少々の泳ぎの乱れを苦にしない。だが非力を補うのは泳ぎのバランスであり、合理的な泳法であるはずで、練習のポイントもここに置かなければ一段の飛躍は望めない。三藩高出の新鋭松木は小がらなからだが、泳ぎのバランスがいい。三大学当時よりペースを覚えただけに自己のベストを1500で12秒2、800リレーの第一泳者の正式計時で3秒破り、400では初めて4分40秒の関門を割った。目立った進境ぶりである。特種目では平泳の敷石(日)とバタフライの開田(中)が光った。敷石は三大学の200では室内選手権より0秒4悪い2分43秒9の大会タイに終わったが、この日は見違えるほど積極的なレースを見せた。前年の100のラップ1分16秒1は自己のベストより0秒9(室内選手権)劣るだけ。国際的水準から見れば平凡なラップだが、三大学のラップより2秒7も早い。肩に力がいって軽快なストロークではなかったが、2分41秒5の好記録を残したのは特筆してよい。伸び盛りの選手だけにこの心がけを忘れないこと。もともと後半の強い選手だけに「カラ」を破って一步前進するにはこういうレースをやるべきだった。100は疲れが出たか、4位に落ちたが、同僚和気(瀬戸田)の進境とともにこの対抗戦に光彩を添えた。開田は100ともかく五輪種目の200では後半が物足りない。ノーブレッシング泳法は後半のスパート用であり、前半から採用するのは疲労を早める作用をするだけだろう。中島(日)の進境も目立つがローマには間に合いそうもない。背泳は富田の一人舞合、100で1分05秒0のベストをマークしたが、驚いたことには前半のラップが32秒4というスローペース。これではローマでは通用しない。(筆者は共同通信社運動部次長)

第32回 早慶対抗水上競技大会

6月5日 神宮プール(50m)公認 気温22° 水温18°

100m 自由形		2 島田勇二郎(早大)	19:37.3	9:09.6
1 福井 清(早大)	58.4	3 竹林 功男(慶大)	20:11.1	400m メドレーリレー
2 竹本 昭和(〃)	58.6	4 小笠原勝司(早大)	20:29.4	1 国清・中川・吉無田・福井
3 清水 啓吾(慶大)	58.9	5 谷淵 昌三(慶大)	21:26.8	(早大) 4:26.6
4 十河 英記(早大)	59.1	6 林 暁兵(〃)	21:31.6	2 高嶺・鈴木・芥川・古川(慶大)
5 古川 徹(慶大)	59.4	200m 平泳		
6 餅米 清治(〃)	1:02.2	1 中川 清(早大)	2:40.2	飛板飛込
200m 自由形		2 大崎 剛彦(〃)	2:41.4	1 荻原 正光(慶大)
1 竹本 昭和(早大)	2:10.8	3 佐藤 行男(〃)	2:45.0	2 谷口 博(早大)
2 岡部 幸明(〃)	2:10.8	4 鈴木 紘之(慶大)	2:50.3	3 片平 久義(〃)
3 清水 啓吾(慶大)	2:10.8	5 浅田 州平(〃)	3:06.3	4 川上 武春(〃)
4 古川 徹(〃)	2:11.0	6 加藤 靖彦(〃)	3:07.7	5 水野 雄之(慶大)
5 十河 英記(早大)	2:15.4	200m バタフライ		
6 餅米 清治(慶大)	2:19.6	1 吉無田春男(早大)	2:24.0	高飛込
400m 自由形		2 井筒 賢造(〃)	2:25.7	1 谷口 博(早大)
1 山中 毅(早大)	4:23.9	3 吉田 弘(〃)	2:31.7	2 片平 久義(〃)
(1:01.0 2:07.4 3:15.7)		4 芥川巳之助(慶大)	2:35.7	3 荻原 正光(慶大)
2 門口 伯康(早大)	4:56.7	5 丸谷 良介(〃)	2:45.9	4 水野 雄之(〃)
3 竹林 功男(慶大)	4:56.9	100m 背泳		
4 北原 一彦(早大)	5:01.0	1 国清 勲(早大)	1:09.3	慶大4-1早大
5 谷淵 昌三(慶大)	5:15.3	2 高嶺 隆二(慶大)	1:11.4	得点
6 林 暁兵(〃)	5:20.1	3 舟橋 淑行(早大)	1:11.4	競泳 早大 42
1500m 自由形		4 吉武 慎博(早大)	1:13.3	慶大 6
1 山中 毅(早大)	17:50.8	5 鈴木 勝(慶大)	1:16.7	飛込 早大 8
(1:04.1 2:13.2 3:23.3 4:33.9)		800m リレー		
5:44.1 6:55.7 8:08.1 9:20.4		1 門口・竹本・岡部・山中(早大)	8:48.2	慶大 4
10:33.4 11:46.2 12:58.4		2 清水・古川・餅米・竹林(慶大)		水球 慶大 4
14:11.5 15:25.7 16:38.8				早大 1

第25回 立・日・明三大学対抗水上競技大会

6月22日 神宮プール(50m)公認 気温22° 水温20.5°

100m 自由形		8 林 正夫(立大)	1:01.5	6 鈴木 高行(〃)	2:15.2
1 石原 勝記(日大)	57.7	9 今枝 啓祐(明大)	1:01.9	7 中村 良三(明大)	2:17.4
2 杉本 汎史(〃)	58.7	200m 自由形			8 今枝 啓祐(〃)
3 中村 良三(明大)	59.9	1 石原 勝記(日大)	2:08.1	9 内山 敏(〃)	2:25.3
4 清水 英利(立大)	59.9	2 杉本 汎史(〃)	2:11.4	400m 自由形	
5 森田 公人(日大)	1:00.5	3 北畑 昌英(〃)	2:12.5	1 石井 宏(日大)	4:37.1
6 山口 安司(立大)	1:00.5	4 山口 安司(立大)	2:13.0	(1:05.2 1:15.1 3:26.8)	
7 鳥山 忠良(明大)	1:01.2	5 清水 英利(〃)	2:14.1	2 松木登八郎(日大)	4:41.3

3 一色 讓 (日 大)	4:49.1	3 和氣 統 (日 大)	2:46.2	8 河田 俊輔 (日 大)	1:12.1
4 北村 忠夫 (立 大)	4:50.6	4 木村 智彦 (明 大)	2:48.1	9 久保田隆雄 (立 大)	1:14.6
5 北条 進一 (明 大)	4:55.3	5 東 英明 (")	2:48.6	800m リレー	
6 山崎 恵介 (立 大)	4:58.0	6 溝口 啓輔 (")	2:50.3	1 松木・石原・杉本・石井 (日大)	8:41.7
7 胡井 武人 (")	5:00.8	7 木曾 雄吉 (立 大)	2:52.7	2 清水・鈴木・北村・山口 (立大)	9:03.7
8 南垣内章文 (明 大)	5:04.9	8 寺尾 友孝 (")	2:55.8	200m バタフライ	
9 田中 正紀 (")	5:05.3			3 中村・今枝・北条・田中 (明大)	9:11.0
800m 自由形		1 富田紀久男 (日 大)	2:24.5	400m メドレーリレー	
1 石井 宏 (日 大)	9:35.9	2 中島 功 (")	2:24.8	1 富田・衛藤・武市・後藤 (日大)	4:30.2
(1:06.3 2:16.7 3:28.7 4:41.8		3 那須 純哉 (立 大)	2:28.0	2 才野・谷・那須・山口 (立大)	4:32.3
5:55.0 7:08.7 8:22.6		4 須藤 洋一 (明 大)	2:30.9	3 勝又・溝口・近藤・中村 (明大)	4:34.5
2 松木登八郎 (日 大)	9:51.1	5 武市 啓志 (日 大)	2:30.9	得 点	
3 一色 讓 (日 大)	10:00.2	6 鹿田 頼庵 (明 大)	2:34.7	1 日大	114
4 胡井 武人 (立 大)	10:16.1	7 近藤 正博 (")	2:44.0	2 立大	32
5 山崎 恵介 (")	10:19.8	100m 背 泳		3 明大	26
6 北条 進一 (明 大)	10:21.5	1 富田 一雄 (日 大)	1:06.3	水 球	
7 田中 正紀 (")	10:26.0	2 渡辺 和夫 (")	1:07.6	日大	14 (4-2 / 10-2)
8 井原 啓之 (立 大)	10:33.0	3 勝又 完一 (明 大)	1:08.5	4 明大	
9 南垣内章文 (明 大)	10:33.3	4 才野 武士 (立 大)	1:09.9		
200m 平 泳		5 大滝 政勝 (明 大)	1:09.9		
1 敷石 義秋 (日 大)	2:43.9	6 中島 勝昭 (")	1:11.3		
2 宮下 宗重 (")	2:45.8	7 片岡 輝男 (立 大)	1:11.9		

第5回 日大・中大対抗水上競技大会

6月19日

神宮プール (50m) 公認

気温 24°

水温 23°

100m 自由形		400m 自由形			100m 平 泳	
1 石原 勝記 (日 大)	57.5	1 藤本 達夫 (中 大)	4:32.8	1 樋口 裕 (中 大)	1:14.8	
2 中谷 庸彦 (中 大)	58.0	(1:01.0 2:09.6 3:21.3)		2 永井 正員 (日 大)	1:15.3	
3 杉本 汎史 (日 大)	58.8	2 石井 宏 (日 大)	4:36.9	3 宮下 宗重 (")	1:15.8	
4 松岡 義郎 (")	59.1	3 松木登八郎 (")	4:38.0	4 敷石 義秋 (")	1:16.0	
5 見上 勝紀 (中 大)	59.3	4 一色 讓 (")	4:46.0	5 山中 堂志 (中 大)	1:16.0	
6 森田 公人 (日 大)	59.4	5 坪田 暲 (中 大)	4:47.4	6 和氣 統 (日 大)	1:16.0	
7 浅野 純孝 (中 大)	1:00.3	6 北畑 昌英 (日 大)	4:48.0	7 野々村嘉昭 (中 大)	1:17.8	
8 西沢 仙次 (")	1:02.1	7 佐原 年昭 (中 大)	4:51.0	8 篠田 博史 (")	1:17.8	
200m 自由形		8 古木 輝巳 (")	4:52.5	200m 平 泳		
1 藤本 達夫 (中 大)	2:05.8	1500m 自由形			1 敷石 義秋 (日 大)	2:41.5
2 石井 宏 (日 大)	2:07.0	1 松木登八郎 (日 大)	18:31.6	2 和氣 統 (")	2:43.6	
3 石原 勝記 (")	2:09.3	2 一色 讓 (")	19:07.2	3 篠田 博史 (中 大)	2:44.2	
4 中谷 庸彦 (日 大)	2:09.4	3 坪田 暲 (中 大)	19:09.0	4 宮下 宗重 (日 大)	2:44.9	
5 北畑 昌英 (日 大)	2:10.1	4 佐原 年明 (")	19:09.1	5 永井 正員 (日 大)	2:46.1	
6 見上 勝紀 (中 大)	2:10.6	5 八木清三郎 (日 大)	19:15.7	6 山中 堂志 (中 大)	2:47.2	
7 杉本 汎史 (日 大)	2:12.0	6 古木 輝巳 (中 大)	19:57.4	7 野々村嘉昭 (")	2:48.6	
8 石田 修一 (中 大)	2:12.6	7 浅野 純孝 (")	20:05.3	8 中田馨二郎 (")	2:50.8	

100m バタフライ

1 開田 幸一 (中大)	1:01.9
2 中島 功 (日大)	1:03.7
3 武市 啓志 (〃)	1:04.7
4 富安 守弘 (中大)	1:04.7
5 小戎 紀一 (〃)	1:05.1
6 三好 恭弘 (〃)	1:05.4
7 富田紀久男 (日大)	1:07.5
8 山田 光一 (〃)	1:09.8

200m バタフライ

1 開田 幸一 (中大)	2:20.2
2 富田紀久男 (日大)	2:24.7
3 中島 功 (〃)	2:26.7
4 三好 恭弘 (中大)	2:26.8
5 富安 守弘 (〃)	2:27.1
6 武市 啓志 (日大)	2:30.4
7 小戎 紀一 (中大)	2:30.4
8 山田 光一 (日大)	2:37.6

100m 背泳

1 富田 一雄 (日大)	1:05.0
2 渡辺 和夫 (〃)	1:06.5
3 徳武 茂 (中大)	1:09.1
4 坂口 達也 (〃)	1:10.6
5 河田 俊輔 (日大)	1:11.9

6 中田 尹 (中大)	1:12.5
7 鈴木田順二 (日大)	1:14.0
8 村木 史顕 (中大)	1:14.6

200m 背泳

1 富田 一雄 (日大)	2:23.1
2 渡辺 和夫 (〃)	2:28.7
3 徳武 茂 (中大)	2:33.2
4 坂口 達也 (〃)	2:33.6
5 中田 尹 (〃)	2:38.2
6 鈴木田順二 (日大)	2:38.9
7 河田 俊輔 (〃)	2:40.4
8 村木 史顕 (中大)	2:42.3

800m リレー

1 松木・杉本・石井・石原 (日大)	8:35.1
2 中谷・見上・石田・藤本 (中大)	8:35.7

400m メドレーリレー

1 富田・永井・中島・石原 (日大)	4:20.2
2 徳武・篠田・開田・中谷 (中大)	4:24.6

附属高校800mリレー

1 吉見・丸山・加藤・菅原	
---------------	--

(日大豊山)	9:34.9
2 堤・清水・衣斐・重本 (中大杉並)	10:43.8

飛板飛込

1 金戸 俊介 (日大)	82.75
2 田原 和夫 (〃)	79.07
3 三石 忠夫 (中大)	67.67
4 中島 貞夫 (日大)	62.56
5 山内 正夫 (中大)	62.40
6 西山 彰一 (日大)	53.73

高飛込

1 金戸 俊介 (日大)	95.03
2 三石 忠夫 (中大)	80.78
3 中島 貞夫 (日大)	73.55
4 岡田 良平 (〃)	70.83
5 山内 正夫 (中大)	53.06
6 徳田 行弘 (〃)	52.98

得点

	日大	中大
競泳	137	91
飛込	30	14
水球	7 (3-1)	2 (4-1)

早大対全九州

6月12日

八幡市大谷プール (50m) 公認

気温 27°

水温 22°

100m 自由形

1 竹本 昭和 (早大)	58.6
2 白井 克郎 (九州)	59.7
3 福井 清 (早大)	59.7
4 丸山 長敏 (九州)	60.4
5 岡部 幸明 (早大)	1:01.0
6 芳野 真任 (九州)	1:01.4

200m 自由形

1 福井 誠 (九州)	2:05.4
2 門口 伯康 (早大)	2:10.5
3 竹本 昭和 (〃)	2:11.1
4 岡部 幸明 (早大)	2:12.0
5 丸山 長敏 (九州)	2:12.6
6 芳野 真任 (〃)	2:14.6

400m 自由形

1 山中 毅 (早大)	4:26.5
2 福井 誠 (九州)	4:33.2
3 梅本 利三 (早大)	4:37.6
4 島田勇次郎 (〃)	4:44.0
5 吉村 喜平 (九州)	4:45.0
6 庄司 敏夫 (〃)	4:50.9

800m 自由形

1 山中 毅 (早大)	9:24.3
2 梅本 利三 (〃)	9:41.0
3 庄司 敏夫 (九州)	9:56.6
4 島田勇次郎 (早大)	9:57.0
5 吉村 喜平 (九州)	10:00.4
6 中坊 昌美 (〃)	10:08.7

100m 平泳

1 中川 清 (早大)	1:14.6
-------------	--------

200m 平泳

1 大崎 剛彦 (早大)	2:41.2
2 中川 清 (〃)	2:45.4
3 名倉 健藏 (九州)	2:47.8
4 鈴木 吉孝 (〃)	2:48.8
5 加藤 浩時 (早大)	2:49.9
6 末竹 国夫 (九州)	2:51.3

100m バタフライ

1 大崎 剛彦 (早大)	1:15.0
2 加藤 浩時 (〃)	1:16.7
3 名倉 健藏 (九州)	1:17.0
4 鈴木 吉孝 (〃)	1:17.9
5 末竹 国夫 (九州)	1:18.8

2 吉無田春男 (") 1:03.9
 3 佐藤 好助 (九州) 1:05.2
 4 丸山 高正 (") 1:05.6
 5 吉田 弘 (早大) 1:08.5
 6 毛越 清 (九州) 1:09.3

200m バタフライ

1 吉無田春男 (早大) 2:21.1
 (大会新)
 2 井筒 賢造 (") 2:23.1
 大会新
 3 丸山 高正 (九州) 2:28.5
 4 佐藤 好助 (") 2:30.2
 5 吉田 弘 (早大) 2:34.0

6 毛越 清 (九州) 2:39.8

100m 背泳

1 中原 紀 (九州) 1:09.0
 2 国清 勲 (早大) 1:09.1
 3 酒井 良明 (九州) 1:09.6
 4 石橋 幸男 (九州) 1:10.2
 5 舟橋 淑行 (早大) 1:11.6
 6 高木 忠之 (") 1:12.8

200m 背泳

1 国清 勲 (早大) 2:28.4
 2 酒井 良明 (九州) 2:32.3
 3 中原 紀 (") 2:33.2
 4 石橋 幸男 (") 2:33.6

5 舟橋 淑行 (早大) 2:34.4
 6 高木 忠之 (") 2:34.6

400m メドレーリレー

1 国清・中川・吉無田・福井
 (早大) 4:24.3
 大会新
 2 中原・名倉・佐藤・白井 (九州)
 4:28.4

200m リレー

1 福井・竹本・門口・山中 (早大)
 1:45.5
 2 白井・福井・毛越・庄司 (九州)
 1:47.4

第12回 日大対全九州

6月26日

石橋文化センタープール (50m) 公認

気温 31.5°

水温 26.5°

400m メドレーリレー

1 富田・江藤・中島・石原 (日大)
 4:24.1
 2 中原・山南・佐藤・岩崎 (九州)
 4:25.4

400m 自由形

1 福井 誠 (九州) 4:28.1
 2 中坊 昌美 (") 4:38.7
 3 松木登八郎 (日大) 4:40.8
 4 庄司 敏夫 (九州) 4:43.2
 5 一色 讓 (日大) 4:46.1
 6 北畑 昌英 (") 4:49.2

100m 自由形

1 石原 勝記 (日大) 57.5
 2 杉本 汎史 (日大) 58.3
 3 松岡 義郎 (") 59.6
 4 白井 克郎 (九州) 59.7
 5 丸山 長敏 (") 59.7
 6 芳野 真任 (") 1:01.3

100m 背泳

1 富田 一雄 (日大) 1:05.0
 2 渡辺 和夫 (") 1:07.0
 3 中原 紀 (九州) 1:07.6
 4 酒井 良明 (") 1:09.0
 5 石橋 幸男 (") 1:09.0
 6 鈴木田順二 (日大) 1:13.2

200m バタフライ

1 佐藤 好助 (九州) 2:23.5
 2 丸山 高正 (九州) 2:24.0
 3 中島 功 (日大) 2:24.2
 4 富田紀久男 (") 2:24.8
 5 武市 啓志 (") 2:27.6
 6 柳井 清 (九州) 2:34.8

200m 平泳

1 敷石 義秋 (日大) 2:41.5
 2 和気 統 (") 2:42.4
 3 山南 宏一 (九州) 2:45.0
 4 宮下 宗重 (日大) 2:47.2
 5 松本健次郎 (九州) 2:47.2
 6 高木 憲一 (") 2:49.0

800m 自由形

1 庄司 敏夫 (九州) 9:43.2
 2 中坊 昌美 (九州) 9:47.8
 3 佐々木末昭 (") 9:50.2
 4 松木登八郎 (日大) 9:53.3
 5 一色 讓 (") 9:57.2

200m 自由形

1 福井 誠 (九州) 2:05.7
 2 石井 宏 (日大) 2:08.0
 3 丸山 長敏 (九州) 2:08.2
 4 石原 勝記 (日大) 2:10.1
 5 杉本 汎史 (") 2:11.2
 6 岩崎 邦宏 (九州) 2:18.3

200m 背泳

1 富田 一雄 (日大) 2:23.0
 2 渡辺 和夫 (日大) 2:26.6
 3 酒井 良明 (九州) 2:29.4
 4 中原 紀 (") 2:31.0
 5 石橋 幸男 (") 2:31.2
 6 鈴木田順二 (日大) 2:38.2

100m バタフライ

1 中島 功 (日大) 1:03.8
 2 武市 啓志 (") 1:04.2
 3 佐藤 好助 (九州) 1:04.6
 4 丸山 高正 (") 1:06.2
 5 柳井 清 (") 1:08.1
 6 富田紀久男 (日大) 1:08.3

100m 平泳

1 敷石 義秋 (日大) 1:15.2
 2 和気 統 (") 1:15.4
 3 名倉 健藏 (九州) 1:16.0
 4 衛藤 孝 (日大) 1:17.7
 5 松本健次郎 (九州) 1:18.3
 6 高木 憲一 (") 1:20.2

200m , リレー

1 杉本・松岡・富田・石原 (日大)
 1:44.4
 2 白井・庄司・名倉・福井 (九州)
 1:48.3

中央大学 合同記録会

6月26日

慶応大学 日吉プール (50m) 公認

気温 27°

水温 23°

400m メドレーリレー		2 三好 恭弘 (中大) 2:26.6	5 小島 英光 (法大) 1:06.8	
1 徳武・樋口・開田・見上 (中大) 4:29.0	3 上田 紀夫 (法大) 2:29.2	400m 自由形		
2 藤原・鈴木・小島・遠藤 (法大) 4:35.2	4 富安 守弘 (中大) 2:30.2	A組		
	5 宮脇 隆史 (法大) 2:32.5	1 古木 輝巳 (中大) 4:54.9		
	200m 自由形		2 浅野 純孝 (〃) 4:56.6	
	A組		B組	
	1 石田 修一 (中大) 2:14.6	1 藤本 達夫 (中大) 4:38.0		
	B組		2 坂元 昭紀 (法大) 4:46.4	
	1 藤本 達夫 (中大) 2:10.3	3 佐原 年昭 (中大) 4:49.1		
	2 見上 勝紀 (〃) 2:11.9	4 阿部 紀夫 (法大) 4:49.1		
	3 中谷 庸彦 (〃) 2:12.6	5 坪田 暲 (中大) 4:49.6		
	4 遠藤 陸夫 (法大) 2:13.0	6 国分 通男 (法大) 4:54.6		
	200m リレー		100m 自由形	
	1 見上・中谷・浅野・藤本 (中大) 1:45.6	1 富岡 健 (法大) 59.7		
	2 上田・富岡・末永・遠藤 (法大) 1:45.7	2 中谷 庸彦 (中大) 59.7		
		3 見上 勝紀 (中大) 59.9		
		4 上田 尚孝 (法大) 1:00.2		
		5 遠藤 陸夫 (〃) 1:00.2		
		6 末永 豪 (〃) 1:00.9		
		100m 背泳		
		1 坂口 達也 (中大) 1:09.6		
		2 徳武 茂 (〃) 1:10.5		
		3 藤原 浩 (法大) 1:11.0		
		4 中田 尹 (中大) 1:11.8		
		5 小林 靖明 (法大) 1:12.8		
		800m リレー		
		1 藤本・見上・石田・中谷 (中大) 3:47.1		
		2 国分・坂元・遠藤・上田 (法大) 9:01.1		
800m 自由形				
A組				
1 古木 輝巳 (中大) 10:10.4				
2 石田 修一 (〃) 10:28.0				
B組				
1 坪田 暲 (中大) 9:56.2				
2 坂元 昭紀 (法大) 9:56.3				
3 阿部 記夫 (〃) 10:06.8				
4 佐原 年昭 (中大) 10:07.2				
5 国分 通男 (法大) 10:21.0				
200m 端泳				
1 坂口 達也 (中大) 2:31.2				
2 藤原 浩 (法大) 2:37.8				
3 徳武 茂 (中大) 2:39.2				
4 小林 靖明 (法大) 2:39.9				
200m 平泳				
A組				
1 篠田 博史 (中大) 2:45.6				
2 山中 堂志 (〃) 2:48.2				
B組				
1 樋口 裕 (中大) 2:47.5				
200m バタフライ				
A組				
1 鈴木 竜藏 (中大) 2:31.2				
2 小戎 紀一 (〃) 2:34.2				
B組				
1 開田 幸一 (中大) 2:24.6				
100m 平泳				
A組				
1 篠田 博史 (中大) 1:15.9				
B組				
1 山中 堂志 (中大) 1:15.6				
2 樋口 裕 (中大) 1:16.2				
3 野々村嘉昭 (〃) 1:16.2				
100m バタフライ				
A組				
1 富安 守弘 (中大) 1:06.4				
B組				
1 開田 幸一 (中大) 1:03.4				
2 宮脇 隆史 (法大) 1:04.5				
3 上田 紀夫 (〃) 1:05.8				
4 三好 恭弘 (中大) 1:06.2				

ポルトガル水泳界の現状

横 地 森 太 郎

日本を離れて月日は早いものでもう満2年近くになります。その間いろいろと御激励をいただいた会長始め皆様に感謝致しますと共に御無沙汰をお詫び致します。今回は栗村編集委員長よりの御激励の御手紙と共に何か書けということですから、浅才をかえりみずペンをとる次第です。

まずポルトガルを簡単に紹介するとこのようになります。即ち本国はイベリア半島の西側に、大体日本でいえば本州の北部に位してをり8百万の人口と8万9千平方キロの面積を持ち、首都リスボンに100万人いる。気候は温暖でまず氷点下に下ることは殆んどなく、雪も北部以外は稀である。この他今なお本国の何10倍の植民地をアフリカ及び東洋に持っている。

ここには Iberos, Celtas, Lusitanus, Fenicios, Gregees, Cartagineses, Romanos, Vandalees, Suevos, Alanees, Visigodees, Moiros 等という民族が次々と民住したが、12世紀に十字軍によってキリスト教団が成立し、13世紀にはほぼ今の版図ができた。以後海外に領土を求め大植民帝国を築き上げ、16世紀及び18世紀には隆盛を極めたが、ブラジルの独立を最後に終止符を打った。人は先に述べましたように複雑な血の結合で一概にはいえないが、容貌とか肌の色とか日本人に似たものも沢山いるし、気質も似たところもあるから親しみやすい。さてスポーツの点になると小学教育に於ける基礎体育がなく、上級学校でも体育が重くみられていないから決して普及しているとはいえない。最も人気のあるスポーツはサッカーであり、又ローラースケート、ホッケーは世界選手権を持っている。他のスポーツは大体似たりよったりで競技人口が少なく従ってレベルも低い。しかしともかく学校に於けるスポーツ活動がないから、民間に於けるスポーツクラブが発達しておりのおのんびりとやっている。一

方水泳は古泳法はあったが、第一回の半マイル競泳が行われたのが1904年というから相当歴史もある。しかしその後時々ある程度の選手がでてきた全般的にレベルは低いままで今日に至っている。水球はヘルシンキに派遣されたが大敗した。飛込もやっているが選手は殆んどいない。組織は大体日本の場合と同じであるがポルトガル水連は財政的基盤が弱く、あまり活動しないむしろクラブの方が援助している。僕は昭和33年早稲田を出てすぐ水連より派遣され現在スポーツ・アルジェスエダフンドというクラブのコーチをやっており又去年よりポルトガルオリンピックチームのコーチもやっています。クラブには33.4m 巾18mの屋外プールと16.7m 巾5mの室内プールがありコーチは僕と4人である。2人のコーチが室内で初心者に教え1人が屋外で選手をトレーニングするのである。僕は彼等のヘッドコーチで責任者であるが大い選手のコーチに廻って初心者の方は時々みるだけでまかしている。時間は8時より13時、16時より20時迄プールが開いており、コーチはいつもそこにいて来たものに適切な指示を与えて泳がすことになっている。練習場はプールをコースロープで区切って一般水浴者と区別している。選手は生活の都合上何時来ても良いことになっている。選手は大体学生が3分の2残りが社会人で年齢は8才位から25才位まででそのうち12~20才が一番多い。その大部分はリスボン及び近郊の中、下流の子弟である。しかしこれでは練習も足りず又コースロープで区切ただけでは狭いいろいろな障害もあるし或は又団体訓練の機会もないので、この他午前7時半より8時半に仕事とか学校の都合でやり、午後7時半より8時半オリンピック候補だけやってみたり夏休みになると2時より4時までのプール閉鎖時間を利用したりして練習しているが練習時間の点はなかなかうまく行かない。以

上のほかまず最初に手掛けたのは水泳に対する興味開発と、私生活の規則と練習態度の改善である。とにかく今でもこの点だけはやかましくいっている。スポーツは楽しみとしてやっているのであって誰に強制される筋合のものではないが—たん練習に入って人に勝とう、いい記録を出そうと或は又努力してより高度の楽しみを見出だそうというのなら真剣にやらねばならぬということで、とにかく命令を厳守させることを実行した。下手な英語で説明し通訳してもらってやったが最初のうちは選手の方も変わったことをやるもんでとにかく良い記録を出せばいいんだろうから記録より練習中の態度をみる——面くらっていたが、万事あけっぴろげでやるしお互いに裸ではあるしわかってこない筈はなく、すぐ友達になった。そのうち通訳もいらなくなった。いや言葉が不用になった？ 練習中でも特に外国人に教えている気はせず、丁度わけのわからぬ日本人の子供にでも教えている気がしてしよっ中日本語が飛び出したが今でもそうです。しかし元来非服従性ではあるし強情だからいうことをきかず練習の途中で逃げ出すのを追かけて引張りだしたり、とにかくよくも続いたと思うがお互いに強情のはりっこの毎日であった。お蔭で2ヶ月半ばかり経ったら骨皮になってしまい62.3キロあったのが55キロになってしまった。また選手の気質を理解し練習を円滑にするため下宿に呼んだり、散歩したりしたが、言葉の障害はあってもよくわかった。一方プールに於ても機会ある毎に練習の意義とか、態度とか、節制について説明したり、夜等説明会を開いたが大使館で映写機をかりて来て、水泳や日本紹介の映画をやって興味開発に役立てた。あるとき多分来て1ヶ月半位だったと思うが、大使館の岩瀬さんにお願して原稿をポルトガル語に訳してもらって憶面もなしに演説をやった。皆感心してきていたが、その後僕の誕生日を盛大に祝ってくれたときあのときは本当に解ったかときいたら、いやあところどころわかったが外国語で話しているようだったと大笑いだった。とにかく最初の頃は1日1回或は隔日の練習が怪しいものだったが今では大体1日1回はできるしあるものは2回できるようになり、競泳に対する興味とかクラブ全般の水準がぐっとよくなって来ている。練習の方法とかスケジュールについては個人差を重くみて、必ずしも

同じ方法とか過程をたどらない。練習計画は全部自分が作成し直接指示するか、他のコーチに指示して練習をやらせる。くわしいことははぶきますが簡単にいうと次のようになります。最初来たのは7月の始めでしたが、最初全員を泳がして泳法とか、練習状態とかをみて自分自分に適した泳ぎとか、或は希望とかをきいて主泳法と従泳法を決めてやり、それから7月になっても未だ基礎練習が足りず、脚腕の基礎練習をやらせた。しかしその時は制限タイムを与え常に見ていて只漫然と泳ぐのを警戒した。休んでいる僅かの時々にも悪いところを指摘し、次には一層気をつけて泳がす。大体フォームが決ったら全力で泳がしてみるといようなことをやったが、耐久力の不足とあきやすいから始終文句をいったしバラエティを考えねばならなかった。スプリントや耐久力についても休む時間を短縮して行くやり方をとったり、或はうんと休んで全力で泳ぐことをくりかえしたり、制限タイムの中でならどんなに泳いでもいいと指示したり、最初はこういう具合に最後はこうだ最初から続くまで頑張れとか、最初から最後迄与えられた時間に寸分たがわず泳げといようなことをくり返し、休んでいる時間に一々今のは良かったとか、悪かったとか、早すぎたとか、遅すぎたとかを告げてやる。ペース及びスタート、ターニングについても以上のような練習中に説明し、把握させるし時々それだけのトレーニングもある。そのうち各自身分相応に僕がいうような時間で泳ぐようになるし試合のとき言った通りに泳ぎ切ったときは嬉しいです。とにかくゆっくり泳げという以外は全部長くても短くてもスプリントの気持で行かなければならないと思っているが、未だそこ迄行っていない。1日に泳ぐ距離は今のところ2,000~3,000、長距離でも4,000を越えることはないが常に気をつけているから相当内容はきつい。今年の盛夏には今の倍位泳ぎたいがどうなりますか。練習の終りには従の泳法で軽く練習する、或は時々従の泳法の本格的練習をすることもあります。又原則として日曜は休養をとることになっているが、急に悪くなったり、かりに悪くなった選手にも休みを与える。医事方面は年1・2回の定期検査の他、みていて変だなと思ったら医者に送るようにしている。自分で気をつけさせるのは勿論である。選手の方もよく信頼してくれておりどのよう

泳ぐか生活の平等精神的なことまで一から十迄きくし、こちらもわかることなら答えてやるしわからないと本でも人にきいてでも教えることにしている。又それによって闘志がにぶることもないしただらしているどどなりつけてそれじゃ勝手に泳げという次から一生懸命泳ぐ。とにかくプールにくるとつかまえて泳がせるものだから今度は全然練習に来なくなったりするので弱ったがそこは記録が上ったり他人が早くなったりするとまたそろそろくるようになる。とにかく手間が掛る選手達ではあるが2年間もつき合っていれば兄弟みたいになってしまふ。しかし外では友だちだがプールでは先生できちんとやっている。そして彼等は又日本びいきでもある。オリンピックもこの国は2・3人位しか送らないだろうが、オリンピックでは日本がきつと勝つよなんてクロックとしておりたまに異論が入ると大いに論じ合う。結局それじゃ僕のところへ聞きに行こうでけりがつくが、ローマ及び東京で一丁頑張ってもらって水泳日本の名を轟かせてもらいたいものです。

近頃はお互いに気持もわかり顔をみただけでははあ何かあったなとわかるようになったし、彼等も今日はコーチはきげんが悪いぞしっかり泳がんと大変だなんてヒソヒソ話をしている。話が半分それでしたが、大体9月1日頃に選手権を終え10月迄屋外で泳がすが、あまり強い練習はやらす、水球をやったり他の泳法をやったり或は腕脚の基礎訓練に費やして、記録よりも水泳をのんびりと楽しむのである。10月より11月迄は練習を全然やらない。11月より12月迄は陸上練習である。この期間は普通の筋肉強化体操と椅子の上に寝て泳ぐ格好で弾力性のあるものを引張ることや、メディシンボール、腕立縄飛び、うさぎ飛び、脚の屈伸、腕立伏せの姿勢から立ち上ること、階段をかけ上り又下ることパーベルを基礎的なものを時々やる。チームワークのためあって土曜日或は日曜日にバスケットを皆んなでやる、マラソンも時々やる、このうち階段上りはスタミナを養い脚腰を鍛えるのに非常に効果があると思う。12月より3月迄はプールの都合もあり曜日に水泳と陸上運動をやる。水泳は大体夏のように激しくやるが、夏よりも良いフォームを作ることを主眼にしているし、又必要ならば冬の期間にフォームを変えたり種目を変えたりする。それから少し

休んで3月より4月半ば迄再び陸上運動だけやり、その後5月迄は陸上運動をへらして柔軟体操を沢山やり毎日水慣れのため軽い水泳をやる。勿論屋外である。5月1日に正式に水泳練習を開始する。まあ大体1年のスケジュールは以上ようであるが練習を開始して1・2週間前年以上の記録が出る。日本とは問題にならないが、今迄で大体ポルトガル記録は殆んど破ったので、今年の方針は残りの記録を破ることと各種目に1人か2人国際クラスに入らせることであり、同時に全体のレベルを上げるとともにもっと選手の数を増すことである。クラブも新しく25mの屋内プールと将来に備えて子供のプールのようなものを作る計画である。大体1,500に19分をきることバタに2分30秒をきること背泳で1分7秒位、平泳で2分50秒位の目標である。少し望みが高すぎて計画通りに行くかどうかかわからないが、できないことはないと思う。まあ全般的にみれば毎年急速に良くなって来ているが、これも選手がだんだん練習するようになってきたこととPatrone(パトローネ)という良いアシスタントが居るからである。彼は50才になるがもう18年もこのクラブにおり本当に水泳を教えるのが好きで、腹も立てずに毎日やっているがいい友達である。またクラブのものも町の人達もよくしてくれるし、沢山友達もあり、家族のように扱ってくれる家庭もあってお蔭で毎日楽な気持ちで過しております。今年10月でいよいよ日本に帰りますが、もう少し居てくれという話が起り迷っているのですが、居るとしても一度は帰るつもりですからそのときはもっと面白い土産話を持って帰ります。オリンピックには行くことになっていますが何分少数だしN・O・Cとの関係ではっきりとはわかりません。ではこれでながながとつまらぬことを書きましたが本年も暑さに負けず頑張って下さい。皆様お元気で。

(筆者は早大OB・ポルトガル水泳コーチ)

公認測量者決定す。

今般さきの常務理事会において下記の者が新たに公認測量者として承認された。

柘 植 清 一 (水連本部)

西 尾 章 (北海道水連)

日本史上競泳女子50傑(6)

(昭和35年8月1日現在)

平泳は男子に於ては前号の通り規約改正前と改正後(潜水禁止前後)の2表に分けて整理したが、女子は実際問題として潜水で泳いだ選手が殆どいなかったのので1表に纏めた。

◎ 左肩に(日)とあるは当時の日本記録。

◎ 順位は同記録のものは同位とした、但し同記録を2回出したものは、その上記とした。

◎ 記録のところに◎とあるは最高記録を2回出したもの、但表には先に出した年月日、場所、大会名のみ記した。

◎ 次号は男子バタフライの予定。

(島田)

100m 平 泳

順	氏名	所属	時間	年令	場所	年月日	大会名
(日) 1	高松好子	天理大	1:22.2	(21)	大阪	35-6-25	関西選手権
(日) 2	坂本和子	五条高	1:25.6	(16)	神宮	27-9-21	日本選手権
(日) 3	前畑秀子	梶山高	1:25.7	(21)	振甫	10-7-27	名古屋予選
4	青木幸子	東洋レ	1:25.8	(19)	神宮	35-7-22	日本選手権
5	山崎幸子	成女高	1:25.9	(16)	"	35-7-23	"
6	田中清恵	天理高	1:26.5	(16)	大阪	34-6-20	日本選手権
	山本憲子	筑紫女高	1:26.5	(15)	神宮	35-7-23	日本選手権
8	小田切紀子	旭化成	1:26.6	(19)	大阪	32-8-18	関西選手権
9	青木政代	伊都高	1:27.0	(17)	天理	28-6-28	"
10	中田澄子	天理大	1:27.4	(21)	大阪	33-9-7	関西女子
11	塚本治代	"	1:27.6◎	(19)	神宮	33-8-17	日本選手権
12	西田千穂子	土佐女高	1:28.6	(16)	高知	33-8-23	日本高校
13	伊豆信子	五条高	1:28.8◎	(16)	神宮	27-6-21	日本選手権
14	村島仔志乃	"	1:28.8	(18)	天理	34-6-28	奈良選手権
15	浦畑チズ子	帝塚短大	1:29.2	(20)	大阪	31-9-8	関西女子
	石川海記子	朝羽高	1:29.2	(18)	大谷	35-5-28	末弘牌高校
17	古賀春恵	日本女大	1:29.4	(18)	都屋内	35-4-2	室内選手権
18	村島佐世子	五条高	1:29.8	(15)	天理	34-8-2	奈良高校
	矢野廸子	東洋レ	1:29.8	(20)	大阪	34-8-28	全国勤労者
20	浜中翠	梶山高	1:30.0◎	(15)	振甫	34-7-4	早大対愛知
21	那智宏子	二階堂高	1:30.1	(17)	都屋内	35-4-2	室内選手権
22	壺井宇乃子	京都	1:30.6	(19)	振甫	12-8-1	名京對抗
23	恩地洋子	帝塚山高	1:30.7	(15)	大阪	32-7-28	大阪高校
	吉浦三千代	筑紫女高	1:30.7	(16)	石橋	34-6-24	福岡予選
25	水本栄子	成徳ク	1:30.8◎	(14)	都屋内	35-4-2	室内選手権
26	中本英子	五条高	1:30.8	(16)	天理	27-8-23	日本高校
	杉田洋子	大村高	1:30.8	(17)	大谷	34-5-31	末弘牌高校

(45)

	木村 淑子	旭化成	1:30.8	(19)	神宮	34-7-21	日本選手権
	山本 富美	土佐女高	1:30.8	(16)	高知	34-9-13	高知体育
	河合 和美	淑徳高	1:30.8	(16)	振甫	35-7-3	愛知選手権
31	南里 千瑛子	神戸二女	1:31.0	(14)	神宮	12-8-15	日本選手権
	河野 典子	京都一女	1:31.0	(13)	西京極	16-8-17	京都選手権
	永田 隆子	広市女	1:31.0	()	広二中	17-7-5	広島中学
34	後藤 久子	台北一女	1:31.2	()	"	15-8-24	日本女子中
	岡田 栄子	信愛高	1:31.2	(16)	浜松	33-7-20	静岡西高
26	東 浩子	東洋レ	1:31.3	()	神宮	31-8-10	日本選手権
37	野中 喜美子	東府四女	1:31.4	(13)	振甫	13-8-28	日本女子中
	山元 幸子	高雄女	1:31.4	()	台中	17-8-	台湾女子中
	大石 康子	山城高	1:31.4	(17)	神宮	24-7-24	日本選手権
	村松 美智子	淑徳高	1:31.4	(15)	振甫	34-6-28	愛知選手権
41	池山 芙美代	白木屋	1:31.6	(19)	大阪	34-8-29	全国勤労者
	佐藤 教子	松蔭中	1:31.6	(15)	"	30-9-11	近畿中学
43	鈴木 文代	下田北高	1:31.8②	(17)	神宮	29-8-20	日本高校
	日野 稔子	阿北高	1:31.8②	(16)	高知	33-8-23	"
45	佐田 光枝	清水丘高	1:31.8	(17)	浜松	34-8-21	"
46	桜井 久子	鹿本高	1:31.9	(16)	"	"	"
	服部 加代子	淑徳高	1:31.9	(17)	振甫	35-7-17	愛知高校
48	中山 絹子	徳島女出	1:32.0②	(17)	甲子園	13-8-20	日本選手権
49	豊谷 良子	武庫川高	1:32.0	()	"	24-9-3	近畿高校
	大野 敦子	南多摩高	1:32.0	(18)	大阪	26-8-12	日本選手権
	榎本 千恵子	伊都高	1:32.0	(15)	神宮	29-8-21	日本高校
	榊谷 尚子	五条高	1:32.0	(18)	高知	33-8-23	"

200m 平 泳

順	氏名	所属	時間	年令	場所	年月日	大会名
(日) 1	高松 好子	天理大	2:53.6	(21)	神宮	35-7-24	日本選手権
(日) 2	坂本 和子	五条高	3:01.4	(16)	"	27-6-22	"
(日) 3	前畑 秀子	日本	3:01.9	(22)	ベルリン	11-8-8	オリンピック
4	青木 政代	伊都高	3:02.0②	(17)	天理	28-6-27	関西選手権
5	小田切 紀子	旭化成	3:02.3	(19)	浜松	32-9-25	国体女子
6	田中 清恵	天理高	3:02.9	(16)	大阪	34-6-21	関西選手権
7	青木 幸子	東洋レ	3:03.1	(19)	神宮	35-7-23	日本選手権
8	山本 憲子	筑紫女高	3:06.1	(15)	"	35-7-24	"
9	中田 澄子	天理大	3:06.2	(21)	大阪	33-9-7	関西女子
10	塚本 治代	"	3:06.3	(20)	"	34-7-26	日米大阪
11	西田 千穂子	土佐女高	3:06.6	(17)	浜松	34-8-22	日本高校
12	山崎 幸子	成女高	3:08.0	(16)	神宮	35-7-24	日本選手権

13	矢野 廸子	伊都高	3:08.3	(15)	大阪	29-6-26	関西選手権
14	村島 仔志乃	五条高	3:08.5	(18)	"	34-7-26	日米大阪
15	伊豆 信子	"	3:08.6	(16)	神宮	27-6-22	日本選手権
16	浦畑 チズ子	帝塚短大	3:09.4	(20)	大阪	31-7-21	大阪選手権
17	河合 和美	淑徳高	3:09.8	(16)	神宮	35-7-24	日本選手権
18	村島 佐世子	五条高	3:10.4	(16)	浜松	34-8-22	日本高校
19	那智 宏子	二階堂高	3:11.1	(16)	宇都宮	34-8-9	関東高校
	浜中 翠	椚山高	3:11.1	(16)	振甫	34-9-6	国体愛知
21	吉浦 三千代	筑紫女高	3:12.0	(16)	石橋	34-6-22	福岡予選会
22	大野 敦子	南多摩高	3:12.8	(18)	大阪	26-8-12	日本選手権
23	恩地 洋子	帝塚山高	3:13.4	(15)	"	32-7-27	大阪高校
	木村 淑子	浜松信愛	3:13.4	(17)	神宮	32-8-23	日本高校
	杉田 洋子	長崎県	3:13.4	(16)	高岡	33-9-16	国体女子
26	山本 富美	高知高	3:13.7	(16)	神宮	34-9-22	"
	石川 海記子	朝羽高	3:13.7	(18)	大谷	35-5-27	末弘牌高校
28	作田 光枝	中国	3:14.0	(17)	恩田	34-7-19	中国対九州
29	中本 英子	五条高	3:14.2	(16)	天理	27-8-31	国体奈良
30	壺井 宇乃子	京都	3:14.5	(19)	振甫	12-8-1	名京対抗
	松谷 淑子	天王寺高	3:14.5	(18)	大阪	32-8-10	近畿高校
32	榎本 千恵子	東洋レ	3:14.8	(20)	"	34-8-15	関西実業団
	吉岡 羽衣	帝塚山中	3:14.8	(14)	"	34-9-6	関西女子
34	東 浩子	東洋レ	3:14.9	()	"	32-6-30	関西選手権
35	畳谷 良子	武庫川高	3:15.2	()	東伏見	24-7-21	日本選手権
	古賀 春恵	日本女大	3:15.2	(18)	都屋内	35-4-3	室内選手権
37	村尾 充子	長崎女	3:15.4	(19)	神宮	12-9-26	神宮一般
	河野 典子	京府二女	3:15.4	(13)	西京極	16-8-17	京都予選会
	鈴木 文代	下田北高	3:15.4	(17)	岐阜	29-8-6	中部高校
40	日野 稔子	阿北高	3:15.5	(17)	徳島	34-9-6	徳島体育
41	村松 美智子	淑徳高	3:15.6	(15)	振甫	34-6-28	愛知選手権
	池山 芙美代	白木屋	3:15.6	(19)	大阪	34-8-30	全国勤労者
43	堀 てる子	石川県	3:15.7	(18)	神宮	34-9-22	国体女子
	岡田 栄子	静岡県	3:15.7	(17)	"	"	"
45	榊谷 尙子	五条高	3:15.9	(17)	大阪	33-6-29	関西選手権
46	山田 金野	愛一女	3:16.0	(13)	神宮	6-10-2	日本選手権
	秋田 チズ子	福岡県	3:16.0	()	呉市	26-9-23	国体女子
	佐藤 教子	松蔭中	3:16.0	(14)	神戸	30-8-28	全国通信
	中野 美智子	伊都高	3:16.0	(17)	大阪	32-8-10	近畿高校
50	洞 勢津子	筑紫女高	3:16.1	(17)	浜松	34-8-21	日本高校
	桜井 久子	鹿本高	3:16.1	(16)	"	"	"



坂本宗隆

豪州

アメリカ留学中のヘンリックス、ローズも馳せ参じて、デヴィット主将以下男子16名、女子12名のオリンピック選手によって、6月16日から予定通り北部タウンズヴィルで長期合宿が開始された。

前回のメルボルン大会にひき続いて必勝を確信していた豪州水泳界は、日米両国の選手権の報道によって大変なショックを受けた模様で、男女自由形陣の幾分の強味を残してはいるが、総体的には日米の優位を一様に認めているようである。アメリカはとに角としても、日本は豪州が買いかぶってくれるほどの実力があるだろうか？

7月末および8月上旬に4回記録会を催すことになっているが、これによって日米との優劣がはっきりするだろう。

欧州

○東独 130—オランダ 130—英 110 6/11—12

ライブチッヒ 50m

男子

100m自	1. クルーン (和)	57.5
	2. ヴィーガント (独)	57.9
	3. リットン (和)	58.6
	4. クラーク (英)	58.7
400m自	1. ブラック (〃)	4:28.2
	2. ヴィーガント (独)	4:31.7
	3. エンゲルハルト (〃)	4:39.5
1500m自	1. パッハマン (〃)	18:34.9
	2. クッチュケ (〃)	18:41.0
	3. ケネディ (英)	18:50.9
200m平	1. ヘンニンガー (独)	2:39.7
	2. メンソニデス (和)	2:41.2
	3. エンケ (独)	2:41.8
200mバ	1. ブラック (英)	2:22.7

	2. シモンズ (〃)	2:25.7
	3. ミロウ (独)	2:29.0
100m背	1. ワグネル (〃)	1:03.6
	2. ディーツェ (〃)	1:04.1
	3. サイクス (英)	1:05.3
400m混継	1. 東独	4:18.8
	2. イギリス	4:24.3
	3. オランダ	4:28.2
800m継	1. イギリス	8:37.2
	2. 東独	8:43.0
	3. オランダ	8:54.4

女子

100m自	1. ハステラルス (和)	1:03.4
	2. ボサマス (〃)	1:03.6
	3. スチュワード (英)	1:05.1
	4. ステフィン (独)	1:05.5
400m自	1. シムメル (和)	4:57.7
	2. ロー (英)	5:01.2
	3. ヒームスケルク (和)	5:02.6
200m平	1. ゴーベル (独)	2:50.6(世新)
	2. デンハーン (和)	2:51.9
	3. ロンスブロー (英)	2:53.1
100mバ	1. ラヘルベルヒ (和)	1:10.7
	2. フォールバイ (〃)	1:13.4
	3. ワット (英)	1:14.4
100m背	1. ファンフェルゼン (和)	1:11.6(欧新)
	2. シュミット (独)	1:11.8
	3. ドバー (和)	1:11.8
	4. エドワーズ (英)	1:12.6
400m混継	1. オランダ	4:47.3(欧新)
	(ファンフェルゼン・デンハーン・ラヘルベルヒ・ハステラルス)	
	1:11.0 (世新)	
	2. 東独	4:53.8
	3. イギリス	4:56.6
400m継	1. オランダ	4:18.2(欧新)
	2. 東独	4:21.9
	3. イギリス	4:25.6

番外女200m自

1. ランボア (和)	(1:05.9)	2:21.6(欧新)
〃200mバ		
1. ヒームスケルク (〃)	(1:12.5)	2:34.4(世新)
〃200m背		
1. ドバー (〃)	(1:14.2)	2:36.2(欧新)

オランダは女子の活躍にもかかわらず男子の劣勢のため東独を抜けなかった。それにしても東独の伸長はめざましく、今や欧州では最強の地位にある。

○東独 108—77 ハンガリー 6/18~19 ベルリン 50m

男子

100m自	1. ドバイ(洪)	56.2
	2. ヴィーガント(独)	56.5
400m自	1. " (〃)	4:28.0(欧新)
	2. カトナ(洪)	4:32.2
1500m自	1. " (〃)	17:55.2(欧新)
	2. バッハマン(独)	18:18.2
200m平	1. ヘンニンガー(〃)	2:37.4(欧新)
	2. エンケ(〃)	2:39.6
200mバ	1. ミロウ(〃)	2:26.1
100m背	1. ワグネル(〃)	1:03.8
	2. ディーツェ(独)	1:04.6
400m混継	1. 東独	4:16.1(欧新)
	2. ハンガリー	4:18.5
800m継	1. "	8:33.9
	2. 東独	8:43.0

女子

100m自	1. マダラズ(洪)	1:03.9
	2. ステフィン(独)	1:05.0
400m自	1. ヴァイス(〃)	5:01.5
200m平	1. ゴーベル(〃)	2:51.3
	2. バイエル(〃)	2:52.2
100mバ	1. ファーマン(〃)	1:13.9
100m背	1. シュミット(独)	1:11.1
	2. ホレッツ(〃)	1:12.9
400m混継	1. 東独	4:51.4
400m継	1. ハンガリー	4:20.8
	2. 東独	4:22.6

○第二回東西ドイツ五輪選考 7/13~14

ライブチッヒ 50m

男子

100m自	1. フェール	57.6
	2. ヤコブセン	57.7
1500m自	1. ヘッツ	18:00.5
	2. ミロウ(東)	18:18.2
	3. クライン	18:18.7
200m平	1. ヘンニンガー(東)	2:38.7
	2. エンケ(〃)	2:39.7
200mバ	1. ミロウ(〃)	2:21.5
	2. バッハマン(〃)	2:22.5
100m背	1. ワグネル(〃)	1:03.2
	2. ディーツェ(〃)	1:03.3
番外200m背	1. ワグネル(〃)	2:18.0(欧新)

女子

100m自	1. ベヒスタイン(東)	1:04.4
-------	--------------	--------

	2. ブランネル	1:04.4
100m平	1. キューベル(東)	1:19.0(世新)
	2. ウルセルマン	1:20.1
200m平	1. ウルセルマン	2:51.8
	2. キューベル(東)	2:51.9
100mバ	1. ファーマン(〃)	1:11.4
	2. ハーセ	1:12.9

○イギリス五輪選考 7/9~10 ブラックプール 55y塩

男子

110y自	1. クラーク	58.3
220y自	1. "	2:10.6
440y自	1. ブラック	4:31.8
1650y自	1. カムピオン	18:47.3
220y平	1. ローリンソン	2:44.5
220yバ	1. ブラック	2:23.0
110y背	1. サイクス	1:04.0(英新)

女子

110y自	1. ステュワード	1:05.2
440y自	1. ロー	5:04.3
220y平	1. ロンスブロー	2:53.5
110yバ	1. ワット	1:12.8(英新)
110y背	1. ステュワード	1:11.1(y世新)

この結果によって代表選手は決定されたが、男子でシモンズ(バタ)、女子エドワーズ(背)がいずれも3着で選に漏れたのは意外だった。

アメリカ

○ロサンゼルス招待 7/24~26 オリンピック・プール

50m

男子

100m自	1. アルカイヤ	55.1(米新)	55.4
	2. ラースン	55.5(米新)	
200m自	1. ハリスン	2:05.2	
	2. ラースン	2:05.8	
	3. ハウス	2:06.3	
	4. ベンスン	2:06.0	
	5. ウインターズ	2:06.3	
400m自	1. ハリスン	4:30.6	
	2. ハウス	4:30.8	
1500m自	1. ハイブリッヒ	18:09.1	
100m平	1. グレイサー	1:14.0	
	2. ハイト	1:14.0(米新)	1:14.1
200m平	1. "	2:42.9(米新)	
100mバ	1. ラースン	59.0(世新)	
	2. ベネット	1:00.6	
200mバ	1. ラースン	2:17.0	2:17.2

	2.	デヴァイン	2:20.8
100m背	1.	ベネット	1:01.9(米新)
200m背	1.	ビディック	2:17.6(世新)
400m混	1.	ハリスン	5:07.8(世新) 5:05.3(世新)
	2.	ハインリッヒ	5:04.5(世新)

	2.	ルースカ	5:36.6
400m継	1.	サンタクララ	4:21.8
400m混継	1.	サンタクララ	4:49.1(米新)
		(パーク・ワーナー・シメセック・フォンソルツァ)	

○全米男子戸外選手権 7/22~24

女子

トレド(オハイオ州) 50m

100m自	1.	フォンソルツァ	1:01.8(米新) 1:01.7(米新)
200m自	1.	フォンソルツァ	2:18.5
400m自	1.	〃	4:57.0
	2.	ハウス	4:59.9
1500m自	1.	〃	20:10.8
100m平	1.	ハーグリーヴズ	1:22.4(米新)
200m平	1.	ワーナー	2:51.4(米新)
100m	1.	ラミー	1:09.5
	2.	シメセック	1:11.9
200mバ	1.	ラミー	2:38.0(米新)
	2.	ブラックウエル	2:38.6
100m背	1.	パーク	1:11.2(世新)
200m背	1.	〃	2:36.3(世新) 2:37.8

100m自	1.	ファーレル	54.8(米新) 54.8(米新)
	2.	ラースン	55.9 55.4
	3.	マギル	56.1 55.9
	4.	モーリス	55.9 55.9
	5.	クラーク	55.9 56.2
200m自	1.	ファーレル	2:03.0(米新) 2:03.2
	2.	ソマーズ	2:03.6 2:03.3
	3.	ハリスン	2:03.9 2:04.3
	4.	ブリック	2:03.1 2:04.5
400m自	1.	ソマーズ	4:22.9(米新) 4:21.9(米新)
	2.	シンツ	4:27.8 4:26.0
	3.	レンズ	4:30.6 4:29.1
	4.	ブリック	4:32.6 4:29.5
	5.	グリーン	4:31.1 4:30.2
	6.	トロイ	4:27.6 4:30.2

選手権とか国際試合ではなく、ローカルな大会でこれほどの世界新記録の大量生産は、未曾有のことではないかと思う。

1500m自	1.	グリーン	17:33.5(米新)
	2.	ソマーズ	17:35.4
	3.	レンズ	18:08.9
	4.	チェイズ	18:22.5
	5.	ハインリッヒ	18:30.4

○全米女子戸外選手権 7/14~17 インディアナポリス 50m

100m自	1.	フォンソルツァ ^⑩	1:01.7(米新) 1:01.6(米新)
	2.	ストーブズ	1:04.1
	3.	デ・ヴァロナ ^⑪	1:04.6
200m自	1.	フォンソルツァ	2:17.0 2:15.1
	2.	ハウス	2:21.3
400m自	1.	フォンソルツァ	4:51.5(米新) 4:46.9(世新)
	2.	ハウス	4:59.0
1500m自	1.	〃 ^⑫	19:45.0(米新)
100m平	1.	ワーナー ^⑬	1:23.4
200m平	1.	〃	2:53.3
100mバ	1.	コリンズ	1:10.8
200mバ	1.	〃	2:36.8(世新)
	2.	ルースカ	2:38.0
100m背	1.	パーク ^⑭	1:10.1(世新) 1:10.2(世新)
	2.	ハーマー	1:12.4
	3.	クルーター	1:12.7
200m背	1.	パーク	2:33.5(世新)
	2.	フォンソルツァ	2:38.0
400m混	1.	デ・ヴァロナ	5:36.5(世新)

100m平	1.	ジャストレムスキー	1:11.8(米新) 1:12.4
	2.	ハイト	1:12.2 1:13.1
	3.	グレイサー	1:13.7 1:14.2
200m平	1.	フォガラシー(洪)	2:40.5 2:38.8(米新)
	2.	クラーク	2:38.9(米新) 2:41.5
	3.	ジャストレムスキー	2:42.8
100mバ	1.	ラースン	59.3(世新) 58.7(世新)
	2.	トロイ	1:01.2 1:00.2
	3.	ギランダース	1:00.6 1:00.7
	4.	ジェコ	1:01.2 1:01.3
	5.	マギル	1:01.9 1:01.9
200mバ	1.	トロイ	2:18.3 2:18.3(世新)
	2.	ラースン	2:14.4(世新)
100m背	1.	ストック	1:02.9(米新)
	2.	ビディック	1:03.0
	3.	マッキニー	1:03.0
200m背	1.	ストック ^⑮	2:16.0(世新)
	2.	マッキニー	2:17.6(世新)

3. ロースク	2:20.4
200m混 1. スティックレス	2:22.1
400m混 1. ラウンサヴェル ^⑩	5:07.5(世新) 5:04.5(世新)
2. スティックレス ^⑩	5:05.0(世新)
800m混 1. インディアナポリス	8:17.0(世新)
(シンツ, ブリーン, ソマーズ, トロイ)	
2:04.9 2:06.1 2:03.0 2:03.0	

2. ロサンゼルス	8:23.5
400m混継 1. インディアナポリス	4:09.2(世新)
(マッキニー, ジャストレムスキー, トロイ, シンツ)	
1:02.6 1:12.1	59.4 55.1
3m 飛板 1. ホール	475.25
2. ハーパー	

奇しくも日本選手権と同日に行われたが、アメリカの方が大分上手のようである。

1960年度上半期世界ランキング

世界各国の個々の競技会の成績を追っても、この号だけでは集録しきれないし、あまり煩雑でもあるので、シーズンの中途ではあるが、本年度の前半期のランキングを掲げることとする。これによってローマ大会での実力を御推定願いたい。

なお、これまでのオリンピック大会では一国一種目3名までだったが、ローマでは2名までに制限されているので、ランキングの方も、選手層の厚い国の選手は11位以下の場合4人目以下のものは省略した(S……塩水, X……ヤード種目)

男子

100m自由形

1 J・ファーレル (米)	54.8
2 J・アルカイヤ (ノ)	55.1
3 L・ラースン (ノ)	55.4
4 J・デヴィット (豪)	S×55.4
5 M・ドスサントス (伯)	55.6
6 S・クラーク (米)	55.7
7 G・ドバイ (洪)	55.8
8 L・モーリス (米)	55.9
9 J・マギル (ノ)	55.9
10 G・シブトン (豪)	S×55.9
12 山中毅 (日)	56.0
13 J・コンラツズ (豪)	S×56.1
15 F・ヴィーガント (東ド)	56.5
19 石原勝記 (日)	56.7
20 I・ルシコフスキー (ソ)	56.9

200m自由形

1 山中毅 (日)	2:01.6
2 J・コンラツズ (豪)	S×2:01.6

3 J・ファーレル (米)	2:03.0
4 R・ブリック (ノ)	2:03.1
5 A・ソマーズ (ノ)	2:03.3
6 G・ハリソン (米)	2:03.9
7 藤本達夫 (日)	2:04.1
8 福井誠 (ノ)	2:04.1
9 P・シンツ (ノ)	2:04.3
10 W・ダントン (ノ)	2:05.7
11 J・デヴィット (豪)	S×2:05.8
19 石井宏 (日)	2:07.0
20 R・デイ (豪)	S×2:07.1

注: リレーの関係で一国4名まで掲げた。

400m自由形

1 J・コンラツズ (豪)	S×4:15.9
2 山中毅 (日)	4:20.8
3 A・ソマーズ (米)	4:21.9
4 福井誠 (日)	4:25.7
5 P・シンツ (米)	4:26.0
6 藤本達夫 (日)	4:26.5
7 I・ブラック (英)	S×4:27.5
8 M・トロイ (米)	4:27.6
9 F・ヴィーガント (東ド)	4:28.0
10 E・レンズ (米)	4:29.1
14 J・リグビー (豪)	S×4:30.4
16 A・ウッド (豪)	S×4:31.7
18 J・カトナ (洪)	4:32.2

1500m自由形

1 J・コンラツズ (豪)	S×17:11.0
2 山中毅 (日)	17:25.0
3 G・ブリー (米)	17:33.5
4 A・ソマーズ (ノ)	17:35.4

5	M・ロ	ー	ズ (豪)	×17:40.2	14	T・リンドストローム	(典)	2:41.1
6	J・カ	ト	ナ (洪)	17:55.2	16	W・メンソニデス	(和)	2:41.2
7	G・へ	ッ	ツ (西ド)	18:00.5	19	P・ハ	イ ツ (米)	2:41.9
8	E・レ	ン	ズ (米)	18:04.9	20	A・クロボトウスキー	(波)	2:42.0
9	R・ウ	イ	ン ド ル (豪)	S×18:07.5				
10	A・ウ	ッ	ド (ウ)	S×18:08.2				
12	中	坊	昌 美 (日)	18:17.0				
13	G・ア	ン ド	ロ ソ フ (ソ)	18:17.5				
15	U・ミ	ロ	ウ (東ド)	18:18.2				
16	J・バ	ッ	ハ マ ン (ウ)	18:18.2				
17	H・ク	ラ	イ ン (西ド)	18:18.7				
18	F・ウ	ィ	ー ガ ン ト (東ド)	18:19.7				
20	B・サ	イ	ラ ニ (比)	18:22.5				

100m 平 泳

1	C・ジャ	ス ト	レ ム ス キ ー (米)	1:11.8
2	L・コ	レ ス	ニ コ フ (ソ)	1:12.1
3	P・ハ	イ	ツ (米)	1:12.2
4	徐	致	祥 (中共)	1:12.7
5	W・バ	ー	ト ン (豪)	×1:12.8
6	中	川	清 (日)	1:12.8
7	E・ヘ	ン	ニ ン ガ ー (東ド)	1:12.8
8	G・テ	ィ	テ ス (ウ)	1:13.0
9	大	崎	剛 彦 (日)	1:13.2
10	増	田	勲 (ウ)	1:13.2
11	P・フ	ォ	ガ ラ シ ー (洪)	1:13.5
12	V・ミ	ナ	シ キ ン (ソ)	1:13.7
13	R・グ	レ	イ サ ー (米)	1:13.7
15	A・ク	ロ	ボ ト ウ ス キ ー (波)	1:13.8
16	N・ル	ム	ベ ル (西ド)	1:13.9
18	T・ギ	ャ	ザ コ ー ル (豪)	×1:14.1
20	K・エ	ン	ケ (東ド)	1:14.2

200m 平 泳

1	大	崎	剛 彦 (日)	2:36.9
2	E・ヘ	ン	ニ ン ガ ー (東ド)	2:37.4
3	G・プ	ロ	コ ペ ン コ (ソ)	2:38.0
4	P・フ	ォ	ガ ラ シ ー (洪)	2:38.8
5	R・ク	ラ	ー ク (米)	2:38.9
6	H・J	・ト	ロ ー ガ ー (西ド)	2:39.1
7	増	田	勲 (日)	2:39.5
8	K・エ	ン	ケ (東ド)	2:39.6
9	中	川	清 (日)	2:40.2
10	A・ゴ	ロ	フ チ ェ ン コ (ソ)	2:40.3
11	N・ル	ム	ベ ル (西ド)	2:40.7
12	A・ア	ン	ト ニ ア ン (ソ)	2:40.7

100m バタフライ

1	L・ラ	ー	ス ン (米)	58.7
2	M・ト	ロ	イ (ウ)	1:00.2
3	D・ギ	ラ	ン ダ ー ス (ウ)	1:00.6
4	R・ベ	ネ	ッ ト (ウ)	1:00.6
5	T・ジ	エ	コ (ウ)	1:01.2
6	増	永	文 昭 (日)	1:01.5
7	開	田	幸 一 (ウ)	1:01.5
8	F・ブ	ラ	ネ ル (米)	1:01.5
9	J・マ	ギ	ル (米)	1:01.9
10	D・デ	ヴ	ァ イ ン (ウ)	1:01.9
13	F・デ	ン	ネ ル レ イ ン (伊)	1:02.0
16	G・キ	セ	リ ョ フ (ソ)	1:02.6
18	那	須	純 哉 (日)	1:02.9
20	V・コ	ズ	ミ ン (ソ)	1:03.0

200m バタフライ

1	M・ト	ロ	イ (米)	2:13.4
2	L・ラ	ー	ス ン (ウ)	2:14.4
3	吉	無	田 春 男 (日)	2:17.8
4	N・へ	イ	ズ (豪)	S×2:17.9
5	F・デ	ン	ネ ル レ イ ン (伊)	2:18.0
6	V・コ	ズ	ミ ン (ソ)	2:18.1
7	I・ブ	ラ	ッ ク (英)	×2:18.7
8	井	筒	賢 造 (日)	2:18.9
9	那	須	純 哉 (ウ)	2:18.9
10	開	田	幸 一 (ウ)	2:20.2
11	C・グ	ル	ー ト (加)	2:20.2
13	K・ベ	リ	ー (豪)	S×2:20.7
14	D・デ	ヴ	ァ イ ン (米)	2:20.8
15	U・ミ	ロ	ウ (東ド)	2:21.5
18	J・バ	ッ	ハ マ ン (ウ)	2:22.5
19	G・キ	セ	リ ョ ア (ソ)	S×2:23.2
20	W・ジ	ー	ベ ル (東ド)	2:23.6

100m 背 泳

1	R・ベ	ネ	ッ ト (米)	1:01.9
2	F・マ	ッ	キ ニ ー (ウ)	1:02.6
3	T・ス	ト	ッ ク (ウ)	1:02.9
4	C・ピ	テ	ィ ッ ク (ウ)	1:03.0
5	D・タ	イ	ラ (豪)	S×1:03.0

6	W・ワグナー	(東ド)	1:03.2
7	J・ディーツェ	(ノ)	1:03.3
8	V・シーマル	(ソ)	1:03.3
9	R・クリストフ	(仏)	1:03.6
10	L・B・シェーファー	(米)	1:03.7
11	J・チッカニー	(洪)	1:04.0
14	G・サイクス	(英)	S×1:04.0
15	J・キヤロル	(豪)	S×1:04.1
16	J・ヘイヤーズ	(ノ)	S×1:04.2
18	L・バルビエル	(ソ)	1:04.3
19	渡辺和夫	(日)	1:04.4

女子

100m 自由形

1	D・フレイザー	(豪)	S×1:00.2
2	C・フォンソレツァ	(米)	1:01.6
3	C・マダラズ	(洪)	1:02.5
4	I・コンラッツ	(豪)	S×1:02.6
5	C・ハステラールス	(和)	1:03.4
6	L・クラップ	(豪)	S×1:03.5
7	S・ボサマス	(和)	1:03.6
8	A・コルクホーン	(豪)	S×1:03.6
9	S・ストーブス	(米)	1:04.1
10	D・デヴァロナ	(ノ)	1:04.3
11	V・バーレル	(南ア)	S×1:04.3
12	H・ベヒシュタイン	(東ド)	1:04.4
13	U・ブランネル	(西ド)	1:04.4
14	N・ステューワード	(英)	×1:04.7
15	佐藤喜子	(日)	1:04.7
16	C・ステフィン	(東ド)	1:04.9

400m 自由形

1	I・コンラッツ	(豪)	S×4:45.4
2	C・フォンソルツァ	(米)	4:46.9
3	D・フレイザー	(豪)	S×4:47.4
4	S・モルガン	(ノ)	S×4:57.4
5	C・シムメル	(和)	4:57.7
6	C・ハウス	(米)	4:59.0
7	B・セゲルストロム	(典)	×4:59.5
8	L・クラップ	(豪)	S×4:59.7
9	R・エヴァルース	(ノ)	S×5:00.8
10	J・コスデル	(和)	5:01.1
11	N・ロー	(英)	5:01.2
12	G・ヴァイス	(東ド)	5:01.5
13	J・セデルクィスト	(典)	×5:01.6
14	M・ヒームスケルク	(和)	5:02.6
15	H・フロス	(仏)	5:05.7
18	U・ブランネル	(西ド)	5:06.5
20	D・デヴァロナ	(米)	5:07.4

200m 平泳

1	W・ウルセルマン	(西ド)	2:50.2
2	B・ゴーベル	(東ド)	2:50.6
3	A・ワーナー	(米)	2:51.4
4	U・キューベル	(東ド)	2:51.9

5	A・デーンハーン	(和)	2:51.9
6	E・レーマン	(東ド)	2:51.9
7	K・バイエル	(ノ)	2:52.1
8	A・ロンズブロー	(英)	2:53.2
9	高松好子	(日)	2:53.6
10	K・キラーマン	(洪)	2:54.0
11	I・フェールスタック	(西ド)	2:54.1
13	N・ヴァルヴェンヌ	(仏)	2:54.7
14	C・ゴスデン	(英)	S×2:55.0
15	E・ウースミース	(ソ)	2:56.1
16	M・ボンガーツ	(西ド)	2:56.3
18	E・マウレル	(ソ)	2:56.8
20	M・フィロソワ	(ノ)	2:57.5

100m バタフライ

1	N・ラミ	(米)	1:09.5
2	C・ウット	(ノ)	1:10.2
3	C・シュラー	(ノ)	1:10.5
4	T・ラヘルベルヒ	(和)	1:10.7
5	B・コリンズ	(米)	1:10.8
6	D・フレイザー	(豪)	S×1:10.8
7	B・ファーマン	(東ド)	1:11.4
8	J・アンドリュ	(豪)	S×1:11.6
9	K・シメセック	(米)	1:11.9
10	J・ブラックウエル	(ノ)	1:12.3
11	H・アイゼンシュミット	(東ド)	1:12.4
12	A・フォルバイ	(和)	1:12.5
13	M・ヒームスケルク	(ノ)	1:12.6
15	M・フォイト	(豪)	S×1:12.8
16	S・ワット	(英)	S×1:12.8
17	H・ハーセ	(西ド)	1:12.9
18	宮部シズエ	(日)	1:13.0
19	H・シュミット	(西ド)	1:13.0

100m 背泳

1	L・バーク	(米)	1:10.1
2	R・ファンフェルゼン	(和)	1:10.9
3	I・シュミット	(東ド)	1:11.1
4	N・ステューワード	(英)	S×1:11.1
5	L・ヴィクトロワ	(ソ)	1:11.7
6	R・ドバー	(和)	1:11.8
7	R-M・ピアセンティニ	(仏)	1:12.4
8	N・ハーマー	(米)	1:12.4
9	S・ルイズ	(英)	S×1:12.5
10	M・エドワーズ	(ノ)	1:12.6
11	田中聡子	(日)	1:12.6
12	C・クルター	(米)	1:12.7
13	H・シュミット	(西ド)	1:12.8
14	V・ホレツ	(東ド)	1:12.9
15	N・デラッシュ	(仏)	1:13.3
16	L・ラウエル	(南ア)	1:13.3
17	G・ベケット	(豪)	S×1:13.6
18	M・ウイルスン	(ノ)	S×1:13.7
19	Y・カッパ	(ノ)	×1:13.9
20	K・ミカエルセン	(丁)	1:13.9

○ 連 盟 日 誌 ○

(4 月 ~ 7 月)

- | | |
|---|--|
| 4月2日(土) 室内選手権 第1日 (都屋内プール) | 28日(土) 飛込委員会
編集委員会(133号) |
| 3日(日) 同 第2日 (")
在京代議員会(国立競技場) | 6月1日(水) オリンピック打合せ会(精養軒) |
| 4日(月) 学生水球委員会 | 2日(木) 三大学対抗打合せ会 |
| 6日(水) シンクロ委員会 | 3日(金) 学生水球委員会 |
| 7日(木) 常務理事会 | 4日(土) 飛込第3次強化合宿練習会始る(神宮プ
ール・都屋内プール)
編集委員会 |
| 8日(金) 編集委員会 | 5日(日) 水球第4次強化合宿練習会始る(都屋内
プール・国立競技場プール)
早慶対抗水上競技大会(神宮プール) |
| 16日(土) 学生水球委員会 | 8日(水) オリンピック打合せ会(精養軒)
国民皆泳大会打合せ会
学生実行委員会 |
| 21日(木) 常務理事会 | 9日(木) 常務理事会 |
| 22日(金) 水球委員会 | 12日(日) 日・立・明三大学対抗水上競技大会
(神宮プール) |
| 26日(火) 全国勤労者大会打合せ会 | 13日(月) 飛込第3次強化合宿練習会終る
水球第4次 " " |
| 27日(水) 競泳委員会 | 日・中対抗メンバー交歓会 |
| 29日(金) 水球第2次強化合宿練習会始る(野沢プ
ール)
飛込第2次強化合宿練習会始る(") | 15日(水) オリンピック役員打合せ会(精養軒) |
| 5月2日(月) 学生総務委員会(体協) | 16日(木) シンクロ委員会
医事部委員会 |
| 8日(日) 水球第2次合宿練習会終る
飛込 " " | 17日(金) 日・中対抗打合せ会 |
| 9日(月) 室内プールと打合せ会(中国飯店) | 18日(土) 医歯薬大会打合せ会 |
| 10日(火) 中学通信競技打合せ会 | 19日(日) 日・中対抗水上競技大会(神宮プール) |
| 12日(木) 近代五種水泳(都屋内プール)
常務理事会 | 20日(月) 中学通信競技打合せ会(NHK・朝日新
聞社) |
| 14日(土) 学生理工科大学打合せ会 | 21日(火) 報道関係懇談会(新橋亭) |
| 15日(日) 水球第3次強化合宿練習会始る(都屋内
プール・国立競技場プール) | 22日(水) オリンピック役員打合せ会(精養軒) |
| 16日(月) 名取教授を囲む座談会(精養軒) | 23日(木) 常務理事会 |
| 20日(金) 早慶対抗戦メンバー交換会
オリンピック打合せ会(弁慶) | 24日(金) 編集委員会 |
| 23日(月) スーシー氏歓送会
学生水球委員会 | 25日(土) 医歯薬大会打合せ会 |
| 24日(火) 水球第3次合宿練習会終る
水球委員会 | 26日(日) 水球第5次強化合宿練習会始る(国立競
技場プール・都屋内プール) |
| 26日(木) 常務理事会 | 29日(水) NHKとの懇談会
学生実行委員会 |
| 27日(金) 日本泳法委員会
編集委員会 | |

- | | |
|---|-------------------------------------|
| 競泳委員会 | 14日(木) 医事委員会 |
| 30日(木) オリンピック役員オリンピック報道派遣
員打合せ会(ふくべ) | 全国国公立大学大会(神宮プール) |
| 7月1日(金) 施設委員会(精養軒) | 15日(金) " (") |
| 3日(日) 東部理科大学大会(東工大プール) | 水球第6次強化合宿練習会始る(神宮プ
ール・都屋内プール) |
| 4日(月) 学生実行委員会 | 17日(日) 飛込第4次強化合宿練習会終る |
| 6日(水) 水球第5次強化合宿練習会終る | 19日(火) 東部医歯薬大会メンバー交換 |
| 中学通信競技打合せ会(精養軒) | 20日(水) 常務理事会 |
| NHKと懇談会(中川) | 21日(木) 学生実行委員会 |
| 7日(木) 常務理事会 | 22日(金) 日本選手権兼オリンピック最終予選会
(神宮プール) |
| 飛込委員会 | 23日(土) " |
| 東部国公立大学大会(学芸大プール) | 24日(日) " |
| 8日(金) 東部国公立大学大会(学芸大プール) | 水球第6次強化合宿練習会終る |
| 日本泳法委員会 | 25日(月) 水泳オリンピック代表結団式 |
| 9日(土) 飛込第4次強化合宿練習会始る(神宮プ
ール) | " 合宿練習に入る
(山ノ上ホテル) |
| 東京都日本選手権予選会(") | 30日(土) オリンピック日本選手団結団式(都体育
館) |
| 10日(日) " (") | |
| 11日(月) 学生実行委員会 | |
| 12日(火) 水球委員会 | |

編集後記

3日間にわたる最終予選会を経て24日の代表選手団の決定から合宿、練習と編集マン一同も選手、役員、関係者、各位と同様あわただしい幾日かが過ぎましたが、出発までに間に合って正直のところほっとしたところ。執筆者初め関係者各位の御協力を感謝致します。この上は日本水泳界の伝統にかけてローマの空高く誇り高き栄光が輝やかんことを。機関誌も本年は既に1, 4, 6, 8月と4号分を既刊しましたが、皆様の御協力と御叱声を戴きつつ今後ともよりよき「機関誌」と致したく加盟各団体及び読者諸賢の御後援をひたすら鶴首しています。

(栗村)

編集委員 (いろは順 ◎印委員長) 金田平八郎, 上野徳太郎, ◎栗村 中丸, 坂本亮四郎, 三枝美貴子, 佐藤 幸男, 菊池 章, 島田桃一郎, 島田 博史, 鈴木 祐一

日本水泳連盟
機関誌

水 泳

第134号

昭和35年8月5日印刷

昭和35年8月10日発行

日本水泳連盟

編集兼 栗村 中丸
発行人

印刷所 株式会社 成島印刷所
東京都中央区日本橋本石町3の4
電話 日本橋(241)1701.6509.7082

東京都千代田区丸ノ内2-2
丸ビル722区

発行並 日本水泳連盟
申込所

電話 和田倉(201)3090・4885番
振替口座 東京5178番